

公益社団法人計測自動制御学会 2020年度（令和2年度）事業報告書

公益社団法人第10期 通算第59期
2020年（令和2年）1月1日～12月31日

目 次

I. 2020年度事業報告	
1. SICE ミッションと基幹事業	1
2. SICE 中期的課題と事業計画	2
II. 2020年度事業報告付属明細書	
1. 各組織事業計画・実施報告.....	3
2. 個別事業実施報告.....	73

SICE®

2020年（令和2年）2月

公益社団法人計測自動制御学会

東京都千代田区神田小川町1-11-9 金子ビル4階

電話 (03) 3292-0314

FAX (03) 3292-3145

URL <https://www.sice.jp/>

I. 2020 年度事業報告

1. SICE ミッションと基幹事業

2019 年度に理事会で策定された「SICE ミッションと基幹事業」を以下に示します。

SICE ミッションと基幹事業

ミッションステートメント

計測・制御・システムの中核学会として、

- ① 諸分野を横断して知を究め、新しい価値を創造し、
- ② 関連分野・産学官のハブとなり、発信・連携することで、社会的課題の抽出・解決に貢献する。

社会貢献:

計測・制御・システムに関する学術及び技術の進歩発達を図り、文化の向上並びに産業の発展に寄与する。そのために、国内外の若手人材を育成し国際的に卓越した成果を創出／提供し続ける場を構築するとともに、分野横断を推進し新たな価値を創造する。

会員への貢献:

計測・制御・システムに関わる会員の分野横断的な活動を支えるために、専門性深化と知的創造、情報の発信と交換、学術体系化、産学官連携推進などを効果的に実現できる場を提供する。

国際貢献:

Annual Conference (AC) 開催や英文論文誌発行を中心に、アジアそして世界における計測・制御・システム分野の研究・技術の発信と提案を進める。さらに標準化の推進において国際的役割を果たす。

学協会組織への貢献:

国内外の学協会連携組織および連携活動に参加し、関連学術・技術分野の縦横断的な連携の強化に取り組む。

基幹事業

- ・Annual Conference(AC) 開催
- ・部門主催講演会、支部主催講演会等の開催
- ・部門・支部内各種事業および研究会活動
- ・各種セミナー・展示会・見学会開催
- ・関連国際会議、国内会議、展示会の共催、協賛
- ・学会誌、論文集発行
- ・web等による情報発信
- ・技術者教育と資格認定
- ・標準化活動
- ・各種学会賞贈呈
- ・その他

2. SICE 中期的課題と事業計画

2019 年度に理事会で策定された「SICE 中期的課題と事業計画」を以下に示します。

分野	中期的課題	事業計画	主担当組織	副担当組織
社会 貢献	1. Society 5.0、SDGs 等社会的課題への SICE の取り組み	1.1 Society 5.0 の概念整理・用語整備と WG 設置	総務委	部門協、支部協、国際標準化委
		1.2 Society5.0 における SICE の役割明示とそのプロモーションのために、講習会開催や会誌発行による情報発信	部門協、支部協、会誌委	各部門、支部
	2. 新技術への SICE の取り組み	2.1 AI, IoT, ビッグデータ等新しい技術に関する SICE 企画	部門協、支部協、会誌委	
		2.2 AI/IoT/ビッグデータ塾(仮称)の検討と企画	教育委	総務委
	3. SICE 人材像の再定義	3.1 計測・制御・システムの参照基準に基づき、システム思考と知識の利用ができる「SICE 人材像」の再定義。WG 設置の検討。	総務委	
	国際 貢献	4. SICE の国際性向上	4.1 AC(SICE2020)のタイ開催に向けた準備	AC 委
4.2 SICE が主催、共催する国際会議、および招聘/現地組織する国際会議(IMEKO2021, IROS2022, IFAC2023)への開催支援			国際委	部門協、担当部門
4.3 英文論文集の国際的評価基準(ESCI, Citation Index 等)獲得へ向けた活動の継続			論文委	
4.4 国際規格の作成に向けた活動とそのプロモーション			国際標準化委	各部門、支部
会員 への 貢献	5. 企業会員のための施策の強化	5.1 企業会員のためのチュートリアル講演会の企画・実施 新WGの検討	事業会員委	
		5.2 企業成果の効果的発信と論文発表形式の見直し	事業会員委、論文委	総務委、国際標準化委、学会賞委
	6. 会員への情報発信と教育支援	6.1 SICE 内相談窓口機能の設置検討(技術相談、講演相談等)	事業会員委	
		6.2 企業(賛助会員等)を対象としたイベント開催による企業技術者教育と情報発信強化、非会員に向けた情報発信	事業会員委	
		6.3 他団体表彰への SICE 推薦制度の整理と検討	学会賞委	
	7. 周年行事の開催	7.1 SICE60 周年記念事業(60, 2021 年)の実施と実行委員会への協力	総務委	企画委、AC 委
	学会 基盤 の 強化	8. 広報・リエゾン機能の強化	8.1 強化すべき広報機能の明確化と広報体制の検討	総務委
8.2 SICE 活動を俯瞰したリエゾン機能を持つ組織(委員会、WG 等)の検討。8.1 広報機能強化との合同/連携の検討			総務委	部門協、支部協、事業会員委
9. 和文論文誌と英文論文誌への投稿の増加		9.1 和文論文誌と英文論文誌の位置づけおよび編集方針の見直しによる投稿数拡大	論文委	総務委、学会賞委
10. 支部新設・再編によるサービスの拡大とインセンティブ見直しによる部門活動の強化		10.1 支部新設・再編に向けた意向調査に基づく協議の継続	支部協	
		10.2 部門へのインセンティブルールの見直し	財務委、部門協	
11. 会員数減少への対応		11.1 部門・支部行事への参加者情報(会員/非会員)の整備および参加者動向の分析。会員数減少への対策 WG の設置の検討	総務委	部門協、支部協
12. SICE の事業および業務の適正化による収支改善と財務基盤の強化		12.1 事務局業務の見直しと効率化の推進	総務委	財務委
	12.2 事業および業務適正化による収支改善と財務基盤の強化	財務委	総務委	
13. 継続事業とコンプライアンス	13.1 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守	全組織		

III. 2020 年度事業報告付属明細書

1. 各組織事業計画

各委員会、部門、支部が策定した「2020 年度事業計画（・実施報告）」を以下に示します。

番号	組織名	担当理事、部門長、支部長
01	総務委員会	業務執行理事 伊藤委員長、山澤副委員長
02	財務委員会	業務執行理事 山本(秀)委員長、望山副委員長
03	企画委員会	業務執行理事 副会長 藤田委員長
04	学会賞委員会	業務執行理事 副会長 田中委員長
10	会誌出版委員会	業務執行理事 大重委員長、倉林副委員長
11	論文集委員会	業務執行理事 石川委員長 新妻副委員長(和)、伊藤副委員長(英)
12	Annual Conference (AC) 委員会	業務執行理事 金子委員長
13	国際委員会	業務執行理事 三浦委員長、蛭原副委員長
14	国際標準化委員会	業務執行理事 副会長 藤田委員長
15	事業会員サービス委員会	業務執行理事 長谷川委員長、角龍副委員長
16	教育・認定委員会	業務執行理事 佐藤委員長
30	部門協議会	業務執行理事 山本(大)議長、玉置副議長
31	計測部門	高山部門長
32	制御部門	藤崎部門長
33	システム・情報部門	高橋部門長
34	システムインテグレーション部門	野田部門長
35	産業応用部門	小池部門長
36	ライフエンジニアリング部門	塩澤部門長
50	支部協議会	業務執行理事 鈴木(高)議長、山田副議長
51	北海道支部	近野支部長
52	東北支部	本間支部長
53	中部支部	金井支部長
54	北陸支部	小柳支部長
55	関西支部	羅支部長
56	中国支部	西村支部長
57	四国支部	杉野支部長
58	九州支部	松尾支部長

2020 年度事業計画・実施報告

組織名	総務委員会	担当	伊藤委員長、山澤副委員長
-----	-------	----	--------------

2020 年度事業計画（主な重点施策）本組織担当分
<ul style="list-style-type: none"> ・ Society5.0 の概念整理・用語集の整備 (1.1) ・ SICE 人材像の再定義 (3.1) ・ SICE60 周年記念事業の推進(7.1) ・ 広報, リエゾン機能の強化 (8.1, 8.2) ・ 部門・支部行事への参加者情報整備, 分析, 及び会員数減少への対策検討(11.1) ・ 事務局業務の見直しと効率化推進(12.1)

2020 年度事業計画	2020 年度実施結果
<p>●1～6 月 総務委員会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 委員決定 ・ 開催日時決定 ・ 委員会開催 <p>1) 理事会, 拡大理事ワークショップ, 社員総会 その他のイベントの開催計画作成 (決定は理 事会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各イベント間の整合性を考慮した年間計画の 検討 <p>2) Society5.0 の概念整理と用語集整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Soceiety5.0 の概念整理・用語集整備のため の WG 設置と運営支援 <p>3) SICE 人材像の再定義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 計測・制御・システムの参照基準に基づき、 システム思考と知識を利用できる” SICE 人材 像” の再定義。WG 設置の検討。 <p>4) 広報, リエゾン機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 強化すべき広報機能の明確化と広報体制の検 討 ・ SICE 活動を俯瞰したリエゾン機能を持つ組織 (委員会、WG 等) の検討。 <p>5) SICE60 周年記念事業 (Y60, 2021 年) 推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Y60 の実施に向けた実行委員会への協力 	<p>●1～6 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 委員決定 ・ 総務委員会開催 (定期 3 回、臨時 3 回) <p>1) 理事会開催計画を策定。運営効率化のため、年 間開催回数を 7 回から 6 回に削減。 拡大理事 WS の開催日時と形態は企画委員会に一任 することを決定。</p> <p>2) 名称を「ポストコロナ未来社会 WG」とした WG (主査藤田副会長、幹事永原正章先生(北九州市 立大)) を設置した。超スマート社会、Society 5.0、SDGs に加えてポストコロナ社会も対象に含 めることとした。SICE ポストコロナ未来社会ワー クショップを企画し、第 1 回を 6 月 6 日にオンラ インで開催した(無料)。SICE コンファレンスオ ンライン化サポート特別チーム(キャプテン望山 財務担当理事)の支援を受けた。参加者 307 名。</p> <p>3) 検討体制を決定(榎木前会長、藤本前理事他)。 3/13 に第一回会合を開催。現象をモデル化し数理 的に理解する能力が SICE 人材の強み。今後成果物 の具体化を進める。</p> <p>4) 広報リエゾン機能強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 機能強化のための情報収集を行った。 ・ SICE 活動を俯瞰したリエゾン機能についての情 報収集を行った。 <p>5) 以下の準備を進めた</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 60 周年記念式典は SICE2021 (上智大学) の 2 日目 (9 月 9 日) 午後に行う ・ 2021 年度会誌「計測と制御」7 月号を 60 周年記念 号とする企画を開始した ・ Y60 に向けた寄付の考え方を検討した。

<p>6) 学会運営の円滑化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 理事会運営の効率化 ・ 次年度予算の妥当性確認 ・ 課題事項のタイムリーな対応, 処理 <p>7) 各委員会, 部門および支部の活動フォロー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 部門・支部行事への参加者情報(会員/非会員)の整備及び参加者動向の分析 ・ 会員数減少への対策検討 <p>8) 事務局業務の適性化, 強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事務局員のフォロー ・ 事務局員の業務分担及び業務量の適性化 ・ 事務局員とのコミュニケーション向上 <p>9) 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの遵守</p>	<p>6) 理事会議論活性化及び運営効率化の観点から、理事会への開催回数を年7回から6回に削減するとともに、オンライン開催の明確化、一括審議の導入、議案類型の定義、の3点について運営規則を改訂。</p> <p>7) 部門・支部協議会への執行部参加、論文編集委員会と連携した英論誌外注検討WG活動、企画委員会と連携した Conference/Publication/Member Activities Task Force の発足</p> <p>8) 事務局員との個別面談実施</p> <p>9) コロナ感染拡大予防のための学会活動ガイドラインの策定と周知</p>
--	---

2020 年度事業計画	2020 年度実施結果
<p>●7～12 月 総務委員会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員決定 ・開催日時の決定 ・委員会開催 <p>1) Society5.0 の概念整理と用語集整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Society5.0 の概念整理・用語集整備のための WG 設置と運営支援 <p>2) SICE 人材像の再定義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 計測・制御・システムの参照基準に基づき、システム思考と知識を利用できる” SICE 人材像” の再定義。WG 設置の検討。 <p>3) 広報, リエゾン機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 強化すべき広報機能の明確化と広報体制の検討 ・ SICE 活動を俯瞰したリエゾン機能を持つ組織（委員会、WG 等）の検討。 <p>4) SICE60 周年記念事業（Y60, 2021 年）推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Y60 の実施に向けた実行委員会への協力 <p>5) 学会運営の円滑化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 理事会運営の効率化 ・ 次年度予算の妥当性確認 ・ 課題事項のタイムリーな対応, 処理 <p>6) 各委員会, 部門および支部の活動フォロー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 部門・支部行事への参加者情報（会員/非会員）の整備及び参加者動向の分析 ・ 会員数減少への対策検討 <p>7) 事務局業務の適性化, 強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事務局員のフォロー ・ 事務局員の業務分担及び業務量の適性化 ・ 事務局員とのコミュニケーション向上 <p>8) 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの遵</p>	<p>●7～12 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 総務委員会開催（20 回） 下期は、週次で総務委員会を開催し、SICE 課題対応の議論を加速 <p>1) 名称を「ポストコロナ未来社会 WG」とした WG（主査永原正章先生（北九州市立大）、幹事望山洋先生（筑波大））にて、SICE ポストコロナ未来社会ワークショップを企画。第2回～第6回の計5回開催。</p> <p>2) Y60 企画と連携し、SICE 人材像を見据えた新たな SICE 塾の検討に着手</p> <p>3) 広報リエゾン機能強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 拡大理事 WS 等の機会を通じて、広報/リエゾン機能に求められる要件の意見交換を実施 ・ 企画委員会と連携し、拡大理事 WS を7回に分けて分散開催。部門・支部・直轄委員会横断でレビューを実施し、次年度事業計画への反映を検討 <p>4) 以下の準備を進めた</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Y60 記念事業実行体制を検討 ・ SICE 新塾の検討体制を整理し、キックオフ会議開催 ・ 会誌 Y60 記念特集号を企画し、そのための座談会を開催 <p>5) 理事会議論活性化及び運営効率化の観点から、従来の第5回理事会を非開催とし、年間開催回数を年7回から6回に削減。一括審議の導入、一般報告事項の書面報告化などの効率化施策を実施。議事の決議類型を定め、議事結果を明確化。</p> <p>6) 部門・支部協議会への執行部参加、論文編集委員会と連携した英論誌外注検討 WG 活動、企画委員会と連携した Conference/Publication/Member Activities Task Force の活動フォロー実施。</p> <p>7) 事務局員との個別面談、事務局員の退職に伴う体制変更への対応実施。</p> <p>8) コロナ感染拡大予防のための学会活動ガイドラインの策定と周知</p>

2020 年度事業計画・実施報告

組織名	企画委員会	担当	藤田委員長（副会長）、伊藤副委員長
-----	-------	----	-------------------

2020 年度事業計画（主な重点施策）本組織担当分
<ul style="list-style-type: none"> ・ SICE ミッションの策定と各組織への展開 ・ 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守（13.1）

2020 年度事業計画	2020 年度実施結果
<p>●1～6 月 委員会開催 委員の決定 委員会開催 2～3 回</p> <p>1. 学会活動の将来に向けた課題の洗い出しと整理拡大理事ワークショップへの展開。</p> <p>2. 2020 年度拡大理事ワークショップの準備 日時および場所の決定（1～6 月）、討議テーマとリーダーの決定（6 月～7 月）</p> <p>3. SICE 事業計画「7.1 SICE60 周年記念事業（Y60、2021 年）の実施と実行委員会への協力」に基づき、副担当組織として総務委員会のリーダーシップのもと Y60（SICE60 周年記念事業）実行委員会へ協力する (総務委、企画委、会誌委、AC 委)</p>	<p>●1～6 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 委員決定 ・ 委員会開催 0 回（総務委員会と連携） <p>1. 課題洗い出しと拡大理事 WS への展開 総務委員会と連携して、下記を実行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SICE ポストコロナ未来社会 WG の発足と WS の開催（第 1 回：6/6（土），第 2 回：7/22（水），第 3 回：8/29（土），第 4 回：（調整中），第 5 回以降は計画中） ・ SICE 出版活動の活性化のため Publication Activities Task Force の発足（Chair：倉林理事） ・ SICE 講演会活動の活性化のため Conference Activities Task Force の発足（Chair：望山理事） ・ SICE 会員活動の活性化のため Member Activities Task Force の発足（Chair：佐藤理事） <p>2. 拡大理事ワークショップ準備 第三回理事会にて、拡大理事ワークショップの開催、日時調整を企画委員会へ一任することを承認頂いた。SICE ポストコロナ未来社会 WG の活動報告と、それに関する討論を予定。</p> <p>3. Y60 特になし</p>

2020 年度事業計画	2020 年度実施結果
<p>●7～12 月 委員会開催：2～3 回</p> <p>1. 2020 年度拡大理事ワークショップを準備し実施する。</p> <p>2. 拡大理事ワークショップの討議結果等を 2021 年度 SICE 中期的課題と事業計画へ展開する。</p> <p>3. 各組織へ 2021 年度事業計画の提出を依頼する。</p> <p>4. 各組織の 2021 年度事業計画を確認し、理事会へ提案する。</p> <p>5. SICE 事業計画「7.1 SICE60 周年記念事業（Y60、2021 年）の実施と実行委員会への協力」に基づき、副担当組織として総務委員会のリーダーシップのもと Y60（SICE60 周年記念事業）実行委員会へ協力する (総務委、企画委、会誌委、AC 委)</p>	<p>●7～12 月 ・総務・企画合同委員会開催（12/7）</p> <p>1. 拡大理事 WS の企画、開催 「組織、運営のスリム化」と「コア事業の充実」をテーマに、直轄委員会/部門/支部を 7 グループに分けて分散開催。事前の説明会を 9/9, 10 にオンライン開催。</p> <p>2. 事業計画への展開 7 回の拡大理事 WS 開催結果をまとめて、「拡大理事 WS クイックレビュー」を全理事、部門長、支部長を対象に実施(11/13)し、情報共有と意見交換を実施。総務・企画合同委員会を開催し(12/7)、拡大理事 WS の検討結果を SICE 中期的課題と事業計画の案へ反映。</p> <p>3. SICE 中期的課題と事業計画の案を各組織に提示し、事業計画への反映を依頼。</p> <p>4. 第 5 回理事会にて、2021 年度事業計画を理事会に提案。</p> <p>5. Y60 総務委員会と連携して、活動をフォロー。</p>

2020 年度事業計画・実施報告

組織名	財務委員会	担当	山本(秀)委員長、望山副委員長
-----	-------	----	-----------------

2020 年度事業計画（主な重点施策）本組織担当分
<ul style="list-style-type: none"> ・部門へのインセンティブルールの見直し（10.2） ・事業および業務適正化による収支改善と財務基盤の強化（12.2） ・継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守（13.1）

2020 年度事業計画	2020 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <p>【定常業務】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 期末決算・事業報告作成（1～3 月） 2. 期末決算・事業報告内閣府提出準備（3 月） 3. 期末決算・事業報告 内閣府提出（3 月末） 4. 新役員変更届内閣府提出（4 月末） 5. 上期活動計画の見直し（4～6 月） 6. 中間決算（6 月末） <p>【財務基盤強化、業務見直し・効率化推進】</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 収益事業新設の検討 <ol style="list-style-type: none"> 8. 国際化 5 カ年特別費用準備資金の運用確認、見直し・修正を適宜実施 <ol style="list-style-type: none"> 9. 中期的な財務シミュレーション <ol style="list-style-type: none"> 10. 財務構造の見直し （受取会費の法人・公益配分比率、等） 	<p>●1～6 月</p> <p>【定常業務】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 期末決算・事業報告作成（1～3 月） 2. 期末決算・事業報告内閣府提出準備（3 月） 3. 期末決算・事業報告 内閣府提出（3 月末） 4. 新役員変更届内閣府提出（4 月末） 5. 上期活動計画の見直しは特に実施していない 6. 中間決算について、直轄委員会、部門、支部へ依頼 <p>【財務基盤強化、業務見直し・効率化推進】</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 収益事業新設の検討 ・コロナ影響により、現構造での財務安定化が急務となったため、本検討は先送りとする。 <ol style="list-style-type: none"> 8. 国際化 5 カ年特別費用準備資金の運用確認、見直し・修正を適宜実施 ・運用状況を確認。オンライン化のための新規使用もあるが、コロナ影響での実会合開催減少等を受けて予算執行額減少。 <ol style="list-style-type: none"> 9. 中期的な財務シミュレーション ・インセンティブルール検討の準備として、2014 年財務危機以後、管理会計導入の経緯、2019 年までの財務状況の推移を整理。 <ol style="list-style-type: none"> 10. 財務構造の見直し →特に実施なし <p>【インセンティブルール見直し】</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. インセンティブルールの運用確認、見直し・修正を実施 最重要課題であるため、前倒しで実施。 ・会計一元化後の財務状況とインセンティブルール見直しの考え方を第 2 回部門協議会、第 1 回支部協議会にて説明し、意見伺い、継続議論を依頼。 ・インセンティブルール施行の課題や要望等、また管理会計の問題点や要望等について、各部門へのヒアリング実施(6/1～3)。 ・上記ヒアリング結果を踏まえて、特定費用準備資金の枠組みを利用するとしての、部門・支部のインセンティブルール設計に着手

2020 年度事業計画	2020 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p>【定常業務】</p> <p>1. 上期活動計画・中間決算結果報告（7 月）</p> <p>2. 事業計画策定・予算策定（7～10 月）</p> <p>3. 事業計画・予算レビュー（11 月）</p> <p>4. 事業計画・予算内閣府提出準備（11～12 月）</p> <p>5. 事業計画・予算内閣府提出（12 月末）</p> <p>6. 期末決算（12 月）</p> <p>【財務基盤強化、業務見直し・効率化推進】</p> <p>7. 収益事業新設に伴う実施体制・ルールを検討</p> <p>8. 国際化 5 カ年特別費用準備資金の運用確認、見直し・修正を適宜実施</p> <p>【インセンティブルール見直し】</p> <p>9. インセンティブルールの運用確認、見直し・修正を実施</p>	<p>●7～12 月</p> <p>【定常業務】</p> <p>1. 上期活動計画・中間決算結果報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中間決算結果を、第 2 回財務委員会(9/9)にて報告、第 4 回理事会(10/5)にて決議。 ・ 上期活動におけるコロナ影響を確認。 <p>2. 事業計画策定・予算策定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 予算策定方針を、第 2 回財務委員会(9/9)にて協議、第 4 回理事会(10/5)にて決議。直轄委員会、部門、支部に、該方針に基づく 2021 年度予算策定を依頼。 <p>3. 事業計画・予算レビュー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 財務委員会にて、直轄委員会、部門、支部から提出された予算案の取り纏めと今後の取り扱いを確認(11 月)。 <p>4. 事業計画・予算内閣府提出準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 八役予算策定会議(12/4)にて、2021 年度予算全体の確認。 ・ 第 5 回理事会(12/24)にて予算の承認受ける。 <p>5. 事業計画・予算内閣府提出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2021 年度予算を内閣府に提出(12 月末)。 <p>6. 期末決算</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 期末決算を実施。第 6 回理事会(2/5)報告予定。 <p>【財務基盤強化、業務見直し・効率化推進】</p> <p>7. 収益事業新設に伴う実施体制・ルールを検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ影響により、現構造での財務安定化が急務となったため、本検討は先送りとする。 <p>8. 国際化 5 カ年特別費用準備資金の運用確認、見直し・修正を適宜実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 運用状況を確認。コロナ影響での実会合開催減少等を受けて予算執行額減少。 ・ 本年までの未執行額分のオープン SICE プロジェクト準備資金(2021 年度～)への積み直し検討。 <p>【インセンティブルール見直し】</p> <p>9. インセンティブルールの運用確認、見直し・修正を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特定費用準備資金の枠組みでのインセンティブルールの設計(“オープン SICE プロジェクト準備資金”として策定)。 ・ 上記ルール設計内容に関して部門・支部にヒアリング(8/24～26, 31)し、ルール練り上げ。 ・ オープン SICE プロジェクト準備資金の資金積立・取崩計画案及び内閣府申請内容を作成、特

2020 年度事業計画	2020 年度実施結果
	定費用準備資金の運用内規を作成し、第 5 回理事会(12/24)にて決議。

2020 年度事業計画・実施報告

組織名	学会賞委員会	担当	田中委員長（副会長）
-----	--------	----	------------

2020 年度事業計画（主な重点施策）本組織担当分
<ul style="list-style-type: none"> ・他団体表彰への SICE 推薦制度の整理と検討（6. 3） ・継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守（13. 1）

2020 年度事業計画	2020 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 2019 年度学術奨励賞の選考作業 2) (他団体表彰) 2020 年度油空圧機器技術振興財団論文顕彰への推薦論文選考作業 3) 2020 年度学会賞（論文賞、技術賞、著述賞、新製品開発賞、教育貢献賞、国際標準化賞）の選考作業 4) (他団体表彰) 2020 年度 FA 財団論文賞への推薦論文選考作業 5) (他団体表彰) 島津科学技術振興財団論文賞への推薦作業 6) (功績賞選考委員会) 2020 年度功績賞授与候補者選考作業 7) (フェロー選考委員会) 2020 年度フェロー称号授与候補者選考作業 8) SICE 2020 Annual Conference Award 選考作業 9) (随時) 部門等からの SICE Young Authors Award 募集要項提案の検討・承認および理事会への提案 	<p>●1～6 月</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 2019 年度学術奨励賞の選考作業を行った。結果は SICE の Web ページ等で発表した。 2) 2020 年度油空圧機器技術振興財団に推薦した以下の論文が顕彰対象に決定した <ul style="list-style-type: none"> ・安藤博昭、青柳多慶夫、村山栄治、荒井邦晴：油圧ショベルの均し作業精度向上のためのスミス補償器の活用 3) 2020 年度学会賞（論文賞、技術賞、著述賞、新製品開発賞、教育貢献賞、国際標準化賞）の選考作業を行った。新型コロナウイルスの影響で、選考作業が遅れたため、全体のスケジュールを遅らせて、表彰日程を 10 月末とした。 4) (他団体表彰) 2020 年度 FA 財団論文賞への推薦を行った。例年どおり、とりまとめは SI 部門へ取りまとめを依頼し、SICE として 3 篇の論文を推薦した。 5) (他団体表彰) 島津科学技術振興財団論文賞への推薦推薦を依頼した。推薦期限は 7 月 31 日。 6) (功績賞選考委員会) 2020 年度功績賞に関する推薦があり、功績賞選考委員会の設置および委員が承認された。 7) (フェロー選考委員会) 2020 年度フェロー称号授与に関する推薦があったので、フェロー推薦委員会の設置および委員が承認された。 8) SICE 2020 Annual Conference Award 選考作業として、各分野から推薦された選考委員会委員が承認された。SICE AC までに Award の選考が行われる。 9) SI 部門から提案された SICE International Young Award について、オンライン開催となった場合でも、対面の場合と同額の副賞として表彰することとなった。

2020 年度事業計画	2020 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) SICE 2020 Annual Conference Award 選考作業 2) (随時) 部門等からの SICE Young Authors Award 募集要項提案の検討・承認および理事会への提案 3) 学会賞委員会、各部門、各支部が所掌する賞の整理と見直し 4) 各賞の選考作業の見直し 5) 2020 年度学術奨励賞の選考作業 6) 2021 年度学会賞（論文賞、技術賞、著述賞、新製品開発賞、教育貢献賞、国際標準化賞）受賞候補の推薦募集 7) 2021 年度功績賞授与候補者の推薦募集 8) 2021 年度フェロー称号授与候補者の推薦募集 	<p>●7～12 月</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) SICE 2020 Annual Conference Award 選考作業を行った。結果は、SICE の Web ページ等で発表した。 2) 部門等からの SICE Young Authors Award 募集要項提案の検討・承認および理事会への提案を行った。 3) 学会賞委員会、各部門、各支部が所掌する賞の整理と見直しとして、SICE の Web の学会賞のページの、部門賞・支部賞などの項目を増やすことが検討された。 4) 2020 年度学術奨励賞の選考作業が行われた。 5) 2021 年度学会賞（論文賞、技術賞、著述賞、新製品開発賞、教育貢献賞、国際標準化賞）受賞候補の推薦募集のアナウンスを行った。 6) 2021 年度功績賞授与候補者の推薦募集のアナウンスを行った。 7) 2021 年度フェロー称号授与候補者の推薦募集のアナウンスを行った。 8) 新型コロナウイルスの影響で、例年、Annual Conference で行われていた受賞式が開催できなかったため、今年度は 12 月 23 日の理事会前にオンラインによる授賞式を行った。

2020 年度事業計画・実施報告

組織名	会誌出版委員会	担当	大重委員長、倉林副委員長
-----	---------	----	--------------

2020 年度事業計画（主な重点施策）本組織担当分
<ul style="list-style-type: none"> ・ イベントや会誌発行における Society5.0 に関する積極的情報発信(1. 2) ・ AI、IoT、ビッグデータ等新しい技術に関する SICE 企画 (2. 1) ・ 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守 (13. 1)

2020 年度事業計画	2020 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <p>1. 学会誌特集の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 企業会員にも魅力的なテーマ選定、キーワード解説の充実 特に分野を超えた読者が理解しやすい基礎編（解説編）、部門間連携分野、学術から産業応用へ広がりのある技術の企画 ・ 企業研究者/エンジニア、産業応用大学研究者による産業応用記事のさらなる拡充 <p>※特集の前半を大学教員メインで解説を含めた執筆を拡充し、後半に産業応用記事を積極的に掲載。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 女性研究者、若手研究者(40 歳以下)を紹介する“FACE the future” の人選と継続 <p>2. 新テクノロジーシリーズの出版・企画継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前年度に企画・公募した新テクノロジーシリーズの出版。 ・ 新たな公募テーマの企画 ・ 出版継続体制構築に向けた出版担当委員の拡充。 <p>3. 学会誌のあり方検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ より魅力的な表紙デザインの検討(前年度継続検討項目) ・ 「執筆のしおり」「チェックリスト」の見直し ・ 適正な会誌価格の検討(前年度継続検討項目) <p>4. 電子出版化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 過去アーカイブ : Vol. 51 (2012 年) 半期分 (7 月から 12 月号) <p>5. より魅力的な会誌を出版するための運営体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会誌出版委員会への若手/女性研究メンバーの積極的採用 ・ 会誌出版委員への企業関係者の更なる採用 ・ 事業会員サービスで進められている SNS 活性化との連携 	<p>●1～6 月</p> <p>1. 学会誌特集の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 予定通り 6 巻の会誌を発行。Society5.0、IoT、ビッグデータ活用などに関係する特集も組んだ。 ・ 例年 6 月に実施していた来年度の特集企画のための特別会誌編集委員会をコロナ感染症影響のため、下期に実施することを決定。 ・ それに向けて、①各部門長への特集企画への協力依頼、②部門直下で現在精力的に活動している専門委員会・WG への企画立案のお誘いを実施。 ・ Face the future 継続掲載。 <p>2. 新テクノロジーシリーズの出版・企画継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前年度決定した 3 件は、予定通り執筆中。 ・ 今年度も公募を実施 (7/31 〆切)。 ・ 委員会内 W/G 再編により、出版 WG 体制を強化。 <p>3. 学会誌のあり方検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 表紙デザイン、「執筆のしおり」「チェックリスト」については、WG にて検討中。 <p>4. 電子出版化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 過去アーカイブ : Vol. 51 (2012 年) 半期分 (7 月から 12 月号) を実施。 <p>5. より魅力的な会誌を出版するための運営体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度の委員選出においては、一部部門について特に難航。足元の対策として、部門協議会とも連携し、各部門のバックアップをお願いするとともに、中長期的には Publication Activities Task Force (PATF) にて議論を行うことになった。

2020 年度事業計画	2020 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学会誌特集の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・企業会員にも魅力的なテーマ選定、キーワード解説の充実 ・企業研究者/エンジニア、産業応用大学研究者による産業応用記事の充実 ・新連載記事の検討 計測、制御の関わる文化的位置付け（もう少し文系の内容を検討できないか） 2. SICE の企業会員/若手会員増加施策への貢献 <ul style="list-style-type: none"> ・SICE 特集と他のセミナー・講演会のリンクによるより魅力的な情報発信の検討 3. 新テクノロジーシリーズの企画 <ul style="list-style-type: none"> ・新テクノロジーシリーズの編集開始 4. 電子出版化 <ul style="list-style-type: none"> ・過去アーカイブ：過去アーカイブ：Vol. 51 2012 年：(半期分 7 月から 12 月号)は上半期で実施 5. より魅力的な会誌を出版するための次年度運営体制の構築 <ul style="list-style-type: none"> ・会誌出版委員会への若手/女性研究メンバーの採用等の検討 ・企業からの委員選出を推進 	<p>●7～12 月</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学会誌特集の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・予定通り 6 巻の会誌を発行。 ・来年度予定の企画（Y60 特集号、飛び込み企画のポストコロナ関連を含む）を準備。 2. SICE の企業会員/若手会員増加施策への貢献 <ul style="list-style-type: none"> ・来年度の企画でシンポジウムベースの特集を検討。 ・Conference Activities Task Force (CATF)、Members Activities Task Force (MATF) とも連携を図っていくことになった。 3. 新テクノロジーシリーズの企画 <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の企画に基づく原稿執筆推進。今年度の企画に基づき 3 件採択、原稿執筆開始。 4. 電子出版化 <ul style="list-style-type: none"> ・当初予定の 7～12 月に加え、6 月を実施。過去アーカイブの整備加速を検討。 5. より魅力的な会誌を出版するための次年度運営体制の構築 <ul style="list-style-type: none"> ・各部門長へ委員推薦依頼。

2020 年度事業計画・実施報告

組織名	論文集委員会	担当	石川委員長 新妻副委員長(和)、伊藤副委員長(英)
-----	--------	----	------------------------------

2020 年度事業計画（主な重点施策）本組織担当分
<ul style="list-style-type: none"> ・ 英文論文集の国際的評価基準（ESCI、Citation Index 等）獲得へ向けた活動の継続（4.3） ・ 企業成果の効果的発信と論文発表形式の見直し（5.2） ・ 和文論文誌と英文論文誌の位置づけおよび編集方針の見直しによる投稿数拡大（9.1） ・ 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守（13.1）

2020 年度事業計画	2020 年度実施結果
<p>●1～6月</p> <p>1. 論文誌出版業務体制の見直し</p> <p>1-1 事務局業務体制の見直しと連動し、外注化を視野に入れた出版業務体制の検討を行う。</p> <p>2. 論文集委員会の開催</p> <p>2-1 論文投稿、査読、採択、編集の一連の流れの可視化を進め、今後の論文集事業の戦略検討を深める（投稿・査読システムの改善による査読期間の短縮、「実用性」を重視するなど企業成果を広く受け入れるための査読方針の見直し、採択率の最適化による投稿数・掲載数の増加、などの提言に対し、具体的な実現可能性について検討し採否を見極める。）</p> <p>2-2 論文原稿のカラー化、電子論文への統一など、今後の出版体制を踏まえつつ時代に即した論文出版のあり方について検討を行う。</p> <p>2-3 プレプリントサーバへの対応、CC ライセンスへの対応など、電子出版化独自の課題について関連直轄委員会と連携しながら検討する。</p> <p>3. 和論文誌の発行</p> <p>3-1 特集号の企画促進などを行い、投稿数、掲載論文数の増加をはかる。</p>	<p>●1～6月</p> <p>1. 論文出版業務体制の見直し</p> <p>1-1 英論誌 JCMSI の外注化に向けて、国内外のオープンアクセス誌の運営状況の収集、論文集委員会、和英編集委員会、部門・支部協議会等に対し意見招請・アンケート収集などを行った。</p> <p>1-2 総務委員会との合同 WG を立ち上げ、これらを踏まえて集中的に議論を行った結果、海外出版社 Taylor and Francis 社よりオープンアクセス誌として出版することを理事会に付議し、承認を得た。</p> <p>1-3 同時に、論文誌のありかた、存在意義についての根本的な議論の必要性を認識し、会誌編集委員会との合同で出版タスクフォース（PATF）を立ち上げて継続審議することとなった。</p> <p>2. 論文集委員会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2月4日(火) 2019 年度第3回委員会開催 ・ 4月3日(金) 2020 年度第1回委員会開催 <p>3. 和論誌の発行</p> <p>以下の通り論文集を発刊した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第1号 特集：第19回 計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会特集号、特集号論文:5編

<p>4. JCMSI 誌の発行</p> <p>4-1 論文誌の地位向上のためのインパクトファクター取得に向けて、編集体制、論文誌の掲載内容など継続的な検討、改善を進める。</p> <p>4-2 Predatory Journal 対策として、論文誌の健全性・国際的信頼性を担保するための取り組みを検討、実施する。</p> <p>4-3 引き続き海外から Editor を招聘するとともに、これまでの分野別から技術キーワード別に変更するなど Editorial Board の国際化に対応した体制を構築する。</p> <p>4-4 会員へ英文誌投稿を支援するサービス（英文チェック、セミナーなど）提供を検討する。</p> <p>5. 論文セミナー実施</p> <p>5-1 昨年の開催状況を踏まえ、開催形態、内容、実施回数等の見直しを図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第2号 一般論文:4編、ショート・ペーパー:1編、開発・技術ノート:1編 ・第3号 特集:第6回制御部門マルチシンポジウム論文特集号、特集号論文:13編 ・第4号 一般論文:8編 ・第5号 一般論文:8編 ・第6号 一般論文:4編 ・募集開始した特集号企画 <p>1)第57巻第1号:第20回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会特集号</p> <p>2)第57巻第3号:第7回制御部門マルチシンポジウム論文特集号</p> <p>4. JCMSI 誌の発行</p> <p>以下の通り論文集を発行した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1号 一般論文:3編 ・第2号 一般論文:3編 ・第3号 特集号:Special Issue on SICE Annual Conference 2019 特集号論文:15編 <p>5. 論文セミナー実施</p> <p>3月の制御部門マルチシンポジウムにて、慶應義塾大学教授 足立修一氏による論文執筆セミナーを予定していたが、残念ながらシンポジウムの開催中止にともない延期されることとなった。</p>
--	--

2020 年度事業計画	2020 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p>1. 論文誌出版業務体制の変更</p> <p>1-1 事務局業務体制の見直しと連動し、出版業務体制の変更を実施する。</p> <p>2. 論文集委員会の開催</p> <p>2-1 論文投稿、査読、採択、編集の一連の流れの可視化を進め、今後の論文集事業の戦略検討を深める（投稿・査読システムの改善による査読期間の短縮。「実用性」を重視するなど企業成果を広く受け入れるための査読方針の見直し。採択率の最適化による投稿数・掲載数の増加。などの提言に対し、具体的な実現可能性について検討し採否を見極める。）</p> <p>2-2 論文原稿のカラー化、電子論文への統一など、今後の出版体制を踏まえつつ時代に即した論文出版のあり方について検討を行う。</p> <p>3. 和論文誌の発行</p> <p>3-1 特集号の企画促進などを行い、投稿数、掲載論文数の増加をはかる。</p> <p>4. JCMSI 誌の発行</p> <p>4-1 論文誌の地位向上のためのインパクトファクター取得に向けて、編集体制、論文誌の掲載内容など継続的な検討、改善を進める。</p> <p>4-2 Predatory Journal 対策として、論文誌の健全性・国際的信頼性を担保するための取り組みを検討、実施する。</p> <p>4-3 引き続き海外から Editor を招聘するととも</p>	<p>●7～12 月</p> <p>1. 論文誌出版業務体制の変更</p> <p>1-1 事務局の担当者交替と連動し、2021 年度以降の運営体制の見直しを行った。</p> <p>1-2 和文誌については、これまで事務局および印刷業者（三美印刷）で担っていた Editorial Manager 運用、データ整理、論文集製作・出版等の業務を一括して外部業者に委託する方針とし、検討を行った。</p> <p>1-3 英文誌については、前期の決議を受けて T&F 社に出版業務を包括的に委託することとし、移行にともなう詳細な業務体制の設計を Editorial Board を中心として行った。また新体制の業務フローに合わせて Editorial Procedures の改訂を行った。</p> <p>2. 論文集委員会の開催</p> <p>2-1 2020 年 9 月 15 日に論文集委員会を開催（同日に和文誌編集委員会、英文誌編集委員会も開催、いずれもオンライン）し、前項の新たな業務体制についての方針説明、SICE 論文誌の意義と位置づけ、今後の方向性などについて議論を行った。</p> <p>2-2 PATF への参画 会誌出版委員会との合同による Publication Activity Task Force (PATF) に各理事・和英編集委員長が参画し、論文誌のありかた、今後の方向性、Annual Conference との連携などについて集中的な審議を行った。</p> <p>3. 和論誌の発行 以下の通り論文集を発行した。 ・第 7 号 一般論文：4 編 ・第 8 号 一般論文 3 編、ショート・ペーパー：1 編 ・第 9 号 一般論文：3 編 ・第 10 号 一般論文：4 編 ・第 11 号 特集論文：4 編 ・第 12 号 第 25 回ロボティクスシンポジウム特集号、一般論文：5 編</p> <p>4. JCMSI 誌の発行 以下の通り論文集を発行した。 ・第 4 号 一般論文：6 編 ・第 5 号 一般論文：5 編 ・第 6 号 一般論文：6 編 また、SICE Annual Conference 2020 特集号論文（2021 年 5 月発行予定）を募集し、多数の投稿が得られた。</p>

<p>に、これまでの分野別から技術キーワード別に変更するなど Editorial Board の国際化に対応した体制を構築する。</p> <p>4-4 J-STAGE 上でフリーアクセス状態である電子論文のオープンアクセス化を推進する。</p> <p>4-5 会員へ英文誌投稿を支援するサービス（英文チェック、セミナーなど）提供を検討する。</p> <p>5. 論文セミナー実施</p> <p>5-1 前期の検討結果を踏まえて、セミナーを開催する。</p>	<p>5. 論文セミナー実施</p> <p>前年度の MSCS2020 で中止となった論文セミナー MSCS2021 で実施することとした。</p>
--	--

2020 年度事業計画・実施報告

組織名	Annual Conference (AC) 委員会	担当	金子委員長
-----	----------------------------	----	-------

2020 年度事業計画（主な重点施策）本組織担当分
<ul style="list-style-type: none"> • AC (SICE2020) のタイ開催に向けた準備 (4. 1) • 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守 (13. 1)

2020 年度事業計画	2020 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <p>1. SICE2020 (タイ) の実施に向けた準備</p> <p>1-1 論文採択戦略の議論</p> <p>1-2 開催地の文化や観光情報なども発信するなど、PR 方法の改善・強化を実施</p> <p>1-3 日本語イベント (WS や企業展示) を企画し、賛助会員へ宣伝、展示は出展勧誘も実施</p> <p>1-4 セッションプレゼンテーション賞の実施</p> <p>1-5 SICEWEEK2020 の企画・準備</p> <p>1-6 海外コミュニティ活動の支援・準備・実施</p> <ul style="list-style-type: none"> • ASEAN Workshop (日本留学経験のある ASEAN 研究者・技術者に関連の ASEAN 地域学生の支援) • SICE 2020 コミュニティ支援企画 <p>2. SICE2021 (東京) の準備、広報</p> <p>2-1 SICE2021 の準備、実行委員会等の決定</p> <p>2-2 SICE2020 バンケット等での広報</p> <p>2-3 SICE60 周年記念事業の実施、実行委員会への協力</p> <p>3. SICE2019 (広島) の実績解析、問題点の把握と改善</p> <p>4. SICE2022 (熊本) の準備、実行委員会等の決定</p> <p>5. SICE2023 の開催地検討</p>	<p>●1～6 月</p> <p>1. 当初は現地開催の予定であったが、COVID19 の影響により、遠隔開催となった。その他、実行委員会とも連携し、AC2020 の円滑な遠隔のための橋梁を行う。</p> <p>1-1. 論文採択戦略については引き続き議論。論文投稿の活発化の一つとしては、例年同様、投稿されたレギュラーペーパーの IEEE Xplore への掲載、ポジションペーパーの JCMSI 特集号への投稿推薦などのリンク、といったように、研究成果の発信機会としての仕組みを本年度も行うこととした。</p> <p>1-2～1-6 については現地開催でなくなったため 2020 では行わないこととなった。</p> <p>2. SICE 2021 について引き続き準備を行った。</p> <p>2-1 2021 の会期・場所を現時点では決定。ただし、開催形態など詳細については、COVID19 の状況と照らして検討する</p> <p>2-2 バンケットが企画されないため行わないが、他多くの媒体で広報を行うことを予定</p> <p>2-3 記念事業については、実行委員会からの協力要請を受けることとしている</p> <p>3. AC2020 は海外、AC2021 は 60 周年記念との併催とのため、次の似たような地方開催として 2022 年の熊本の実行委員側に、2019 (やそれ以前) での問題点やノウハウを継承した。</p> <p>4. SICE AC 2022 熊本開催におけるプログラム委員長、開催場所を仮押さえした。会期も仮決めをした。</p> <p>5. SICE AC 2023 については、2020 年 6 月に立ち上がった Conference Activity Task Force (CATF) でも議論されており、AC 単独でなく、支部開催と他の会議などとも連携する必要があるとの認識にいたった。また開催地も、COVID19 の影響のため、しばらくは遠隔開催が主流になることから、会議運営を開催地主体にしていまいかという議論や、分散開催の案などもあり、こちらも引き続き検討している。</p>

<p>6. 海外での定例開催（2023 or 2024 以降, 3 年ごと? or 5 年ごと?）についての議論. 支部協議会とも連携</p> <p>7. AC 参加者データベースの構築（継続）</p>	<p>6. 項目 5 と同じで, 開催地, 開催形態, 他の支部開催の学会との連携など, 検討しているところである. 海外開催の含め方についても, 大規模国際学会の日本開催（IFAC2023 等）とのバランスも考えて, 議論しているところである.</p> <p>7. データベースの構築は引き続き継続. なお, 今回はキャンセルとなったが, ASEAN Workshop の企画において, 過去の留学生参加者の情報を活用した.</p>
---	---

2020 年度事業計画	2020 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. SICE 2020 (タイ) の実施 <ol style="list-style-type: none"> 1-1 日本語イベントの実施 1-2 セッションのプレゼン賞の選考・表彰 1-3 SICEWEEK2020 の実施 1-4 ASEAN Workshop の実施 SICE コミュニティ支援企画の実施 2. SICE2021 (東京) の準備 (継続) <ol style="list-style-type: none"> 2-1 SICE2021 の準備 (継続) 2-2 SICE60 周年記念事業の実施、実行委員会への協力 (継続) 3. SICE2020 (タイ) の実績解析、問題点の把握と改善 4. SICE2022 準備 5. SICE2023 の開催地決定 6. 海外での定例開催 (2023 or 2024 以降, 3 年ごと? or 5 年ごと?) についての議論. 支部協議会とも連携 海外開催地・共催相手の議論 (継続) 7. AC 参加者データベースの構築 (継続) 	<p>●7～12 月</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. SICE 2020 のオンライン実施開催 <ol style="list-style-type: none"> 1-1 現地開催でなくなったため中止 1-2 のセッション賞は中止 1-3 SICE WEEK 2020 ROBOT Challenge をタイにて開催 1-4 ASEAN Workshop も現地開催でなくなったため中止. 2. SICE2021 (東京) の準備 (継続) <ol style="list-style-type: none"> 2-1 SICE2021 の準備 (継続) 支援を行った. 各部門へのプログラム委員選出, Track Chair の選出依頼を行った. 2-2 SICE60 周年記念事業の実施、実行委員会への協力 (継続) に関しては, 引き続き要請に従い協力することになっている. 3. SICE2020 (タイ) の実績解析, とくにオンライン開催の結果解析を引き続き行っている。 4. SICE2022 準備は引き続き行っている. なお, IFAC ROCOND の開催年度変更に伴い, AC2022 年も日程変更. 開催場所もそれに応じて仮予約をした. 5. SICE2023 の開催地は, その開催形態も含めては AC 委員会でも議論したが, 引き続き検討中である. 6. 海外での定例開催についても, 5 に関連して, 2024 年以降も含め, その開催方法や海外開催地・共催相手の議論を, AC 委員会中で議論したが, 引き続き継続の必要がある. 7. AC 参加者データベースの構築も継続している.

2020 年度事業計画・実施報告

組織名	国際委員会	担当	三浦委員長、蛭原副委員長
-----	-------	----	--------------

2020 年度事業計画（主な重点施策）本組織担当分
<ul style="list-style-type: none"> ・ SICE が主催、共催する国際会議、および招聘/現地組織する国際会議（IMEK02021、 IROS2022、 IFAC2023）への開催支援（4.2） ・ 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守（13.1）

2020 年度事業計画	2020 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <p><u>1-1 海外学会との交流</u></p> <p>1-1-1 海外学会との共催・協賛、ならびに Technical Co-Sponsorship の締結・推進</p> <p>① MOU(自動)更新方法の検討, 更新可否の議論および理事会への報告</p> <p>② 韓国 ICROS, 中国 TCCT, タイ ECTI, 台湾 CACS, ISA との Tech. Co. を締結</p> <ul style="list-style-type: none"> - Tech. Co. 案内発信→受諾受領→IEEE 登録 - <p>③ IEEE 登録 (Conference Application)</p> <ul style="list-style-type: none"> - Tech. Co. 締結と SICE 側 Tech. Co. 登録 - IEEE/CSS/RAS/IES - 韓国 ICROS, 中国 TCCT, タイ ECTI <p>1-1-2 海外学会・団体への代表者派遣</p> <p>① 各種国際会議への SICE 派遣代表者決定, 主な派遣先: ECTI-CON, CCC, ICCAS, ICROS, IECON, CACS, IROS, CDC 等</p> <p>② 派遣先との調整 (派遣連絡, 代表者の役割確認, 重要会議出席調整等)</p> <p>1-1-3 海外学会・団体との関係強化</p> <p>① 各種国際会議への SICE AC2020 案内発信</p> <p>② 新規の関係強化方法, 代表者派遣先, 派遣再開, SICE AC 活性化(海外投稿数増)方法等の検討</p> <p>③ IROS への貢献強化, 国内投稿数増等活性化方法の検討</p> <p>1-2 Annual Conference を通じた国際活動</p> <p>1-2-1 SICE AC 2020 対応着手</p> <p>① VIP Reception 計画検討開始 (Invitation 案, 宛先リスト作成 (事務局))</p> <p>② Friendship Lunch Meeting 等の計画検討開始 (Invitation 案, 招待客リスト作成(事務局))</p> <p>③ STGA 準備 (募集事項検討・WEB 掲載依頼・審</p>	<p>●1～6 月</p> <p><u>1-1 海外学会との交流</u></p> <p>1-1-1 海外学会との共催・協賛、ならびに Technical Co-Sponsorship の締結・推進</p> <p>① 各 MOU 更新について理事会報告、審議済み</p> <ul style="list-style-type: none"> IEEE：更新文書合意済/締結手続中 IEEE CSS：更新文書合意済/締結手続中、 ICORS：更新済 TCCT：文書合意済/AC2020 オンライン化に伴いサイニングセレモニーで締結手続き検討中 <p>② 韓国 ICROS、中国 TCCT、タイ ECTI、台湾 CACS、ISA より Tech. Co. 受諾受領済</p> <p>③ AC 実行委員会側から行った IEEE 登録に不備があり、Conference Application の登録修正が必要な状況。至急対応が必要。事務局・実行委員会と対応を進める</p> <p>1-1-2 海外学会・団体への代表者派遣</p> <p>① SICE 派遣代表者計画作成完了</p> <p>② コロナ影響を受けて案件毎に調整対応中</p> <p>7/E までの国際会議 (ECTI-CON, IFAC, CCC) はすべてオンライン開催が決定した。ECTI-CON (6/E) は Video Presentation を実施</p> <p>1-1-3 海外学会・団体との関係強化</p> <p>① SICE AC2020 案内発信済</p> <p>② 代表者派遣等で利用するノベルティ発注</p> <p>ポストコロナでも有効な関係強化方法の検討を下期以降で進める方向</p> <p>③ SIYA-IROS 贈賞を継続予定</p> <p>1-2 Annual Conference を通じた国際活動</p> <p>1-2-1 SICE AC 2020 対応着手</p> <p>※AC2020 のオンライン開催対応で①③は中止</p> <p>① オンライン開催対応により中止</p> <p>② Friendship Lunch Meeting は Friendship Meeting (オンライン) として計画検討着手</p> <p>③ オンライン開催対応により中止</p>

<p>査委員決定)</p> <p>1-3 国際団体への協力活動</p> <p>1-3-1 IMEKO 委員会との連携 (日本学術会議総合工学委員会内 IMEKO 委員会と SICE の IMEKO 委員会連携)</p> <p>① IMEKO 委員会参加 ② TC 等 IMEKO 関連行事参加支援</p> <p>③ IMEKO2021 世界大会(横浜)に向けた活動支援 (国際化準備資金活用)</p> <p>④ 計測部門との連携</p> <p>1-3-2 IFAC 委員会との連携</p> <p>① IFAC2023 実行委員会参加</p> <p>② IFAC2023 世界大会(横浜)開催支援(体制助言、国際化準備資金活用)</p> <p>③ IFAC 関連会議活動広報 ④ 制御部門との連携</p> <p>1-3-3 IROS2022 に向けた活動支援</p> <p>① IROS 実行委員会、SI 部門との関係整理 ② IROS2022(京都)実行委員会との連携・活動支援 (国際化準備資金活用) ③ SI 部門との連携</p> <p>2-1 SICE の国際プレゼンス向上活動</p> <p>2-1-1 海外人材育成</p> <p>① アジア地区他学会カンファレンス支援 - 韓国 ICROS Joint Session 検討着手 - タイ ECTI Joint Session 検討着手</p> <p>② 英文論文誌インパクトファクター獲得 - 調査・獲得手続き継続(事務局・論文集委)</p> <p>③ 海外人事育成への貢献 - アジア地区人材育成貢献策検討 - 相互インターンシップ等検討</p> <p>2-1-2 海外コミュニティ活動支援</p> <p>① SICE2020 コミュニティ支援企画 - コミュニティ WS 企画(AC 委, Y60) - ASEAN 地域学生支援(AC 委, 実行委員会)</p>	<p>1-3 国際団体への協力活動</p> <p>1-3-1 IMEKO 委員会との連携</p> <p>①② IMEKO 委員会参加継続。6月の定例委員会はコロナ影響により不開催。8月予定の IMEKO 理事会は11月に延期。</p> <p>③ コロナ影響により日本学術協会からの承認が遅れ、寄付募集活動に影響が出ている状況。IMEKO2021 は開催形態を検討中(オリンピックの影響も受けてオンライン化の可能性あり)</p> <p>④計測部門と連携中(リエゾン)</p> <p>1-3-2 IFAC 委員会との連携</p> <p>①③IFAC2023 実行委員会参加。IFAC2020@ベルリンにて IFAC2023 を広報</p> <p>②IFAC2023 開催支援継続、自動制御協議会発足に伴い SICE との共催 MOU 締結準備中</p> <p>④制御部門と連携中(リエゾン)</p> <p>1-3-3 IROS2022 に向けた活動支援</p> <p>① IROS 実行委員会、SI 部門との関係整理中 ② IROS2022 実行委員会からリエゾンメンバを調整する方向で検討中 ③ SI 部門と連携中(リエゾン)</p> <p>2-1 SICE の国際プレゼンス向上活動</p> <p>2-1-1 海外人材育成</p> <p>① アジア地区他学会カンファレンス支援 - 韓国 ICROS Joint Session 検討予定 - タイ ECTI Joint Session 検討中</p> <p>② 英文論文誌インパクトファクター獲得 論文集委員会が海外ジャーナル誌への出版委託契約準備中(主体:総務・論文集委・事務局)</p> <p>③ 海外人材育成への貢献 AC2020 ASEAN Friendship WS の成果に基づき検討予定であったが、AC オンライン化によりイベント中止</p> <p>2-1-2 海外コミュニティ活動支援</p> <p>① SICE2020 コミュニティ支援企画 AC2020 ASEAN Friendship WS 企画支援を予定していたが、AC オンライン化によりイベント中止</p>
--	---

2020 年度事業計画	2020 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p>1-1 海外学会との交流</p> <p>1-1-1 海外学会との共催・協賛、ならびに Technical Co-Sponsorship の締結・推進</p> <p>① MOU(自動)更新方法の検討, 更新可否の議論および理事会への報告</p> <p>② 2021 年の韓国 ICROS, 中国 TCCT, ならびにタイ ECTI との Tech. Co. 締結手続き開始</p> <ul style="list-style-type: none"> - Tech. Co. 案内発信→受諾受領→IEEE 登録 <p>③ IEEE 登録作業着手 (②受諾受領後)</p> <ul style="list-style-type: none"> - Tech. Co. 締結と SICE 側 Tech. Co. 登録 - IEEE/CSS/RAS/IES - 韓国 ICROS, 中国 TCCT, タイ ECTI <p>1-1-2 海外学会・団体への代表者派遣</p> <p>① 各種国際会議への SICE 代表者派遣, 報告書受理・理事会報告, 主な派遣先: ECTI-CON, CCC, ICCAS, MICONEX (要検討), IECON, CACS, IROS, CDC 等</p> <p>② 派遣先との調整 (派遣連絡, 代表者の役割確認, 重要会議出席調整等)</p> <p>1-1-3 海外学会・団体との関係強化</p> <p>① 各種国際会議への SICE AC 2020/2021 案内早期発信</p> <p>② 新規の関係強化方法, 代表者派遣先, 派遣再開, SICE AC 活性化(海外投稿数増)方法などの検討</p> <p>③ IROS への貢献強化, 国内投稿数増等活性化方法の検討</p> <p>1-2 Annual Conference を通じた国際活動</p> <p>1-2-1 SICE AC 2020 対応</p> <p>① Invitation の早期発行 (ビザ必要国)</p> <p>② VIP Reception 実施 (プログラム, 司会等)</p> <p>③ Friendship Lunch Meeting 実施 (記念品準備, 司会, 協力関係確認 (SICE 事務局と協力))</p> <ul style="list-style-type: none"> - ICROS, ECTI, TCCT 等 <p>④ STGA 選考・表彰 (応募受理・整理 (事務局)、審査・選考、表彰状 (事務局)、Award Ceremony 司会)</p> <p>1-3 国際団体への協力活動</p> <p>1-3-1 IMEKO 委員会との連携 (日本学術会議総合工学委員会内 IMEKO 委員会と SICE の IMEKO 委員会連携)</p> <p>① IMEKO 委員会参加</p> <p>② TC 等 IMEKO 関連行事参加支援</p> <p>③ IMEKO2021 (横浜)に向けた活動支援 (国際化準</p>	<p>●7～12 月</p> <p>1-1 海外学会との交流</p> <p>1-1-1 海外学会との共催・協賛、ならびに Technical Co-Sponsorship の締結・推進</p> <p>① IEEE 本体, IEEE CSS, TCCT との MOU を更新。今年度分の MOU 更新完了</p> <p>②韓国 ICROS, 中国 TCCT, タイ ECTI, 台湾 CACS に SICE2021 Tech. Co. 依頼, 受諾受領完了。</p> <p>③ SICE2020 について Conference Application の登録および開催形態変更 (オンライン化)に伴う登録更新を完了</p> <p>SICE2021 について IEEE 登録作業着手</p> <p>1-1-2 海外学会・団体への代表者派遣</p> <p>① 各種国際会議に対応する SICE 代表者調整, 理事会報告を実施。対象国際会議: ECTI-CON, IFAC, CCC, ICCAS, IECON, CACS, IROS, CDC, SII</p> <p>② 派遣先との調整実施 (w/事務局)</p> <p>今年度はすべての国際会議がオンライン開催となり会議毎に調整 (Video Message/ Video Presentation, イベントのオンライン参加など)</p> <p>1-1-3 海外学会・団体との関係強化</p> <p>① SICE AC2020・AC2021 案内発信</p> <p>② 代表者派遣用に製作したノベルティはコロナ影響で現地派遣がなかったため未使用。60 周年ロゴ入りのため, 次年度活用予定。</p> <p>友好団体との Friendship Meeting を企画・実施 (→1.2 ③)</p> <p>③ SIYA-IROS 贈賞を継続 (主体: 学会賞委)</p> <p>1-2 Annual Conference を通じた国際活動</p> <p>1-2-1 SICE AC 2020 対応着手</p> <p>① オンライン開催のため中止</p> <p>② オンライン開催のため中止</p> <p>③ オンライン開催のため中止</p> <p>AC 期間後 (2020 年 10 月および 11 月) に各友好団体 (韓国 ICROS, 中国 TCCT, タイ ECTI) とのオンライン Friendship Meeting を企画し, 実施済</p> <p>④ オンライン開催のため中止</p> <p>1-3 国際団体への協力活動</p> <p>1-3-1 IMEKO 委員会との連携 (日本学術会議総合工学委員会内 IMEKO 委員会と SICE の IMEKO 委員会連携)</p> <p>① IMEKO 委員会参加継続</p> <p>② IMEKO 関連行事参加支援継続</p> <p>③ IMEKO 委員会活動支援継続。コロナ影響を受</p>

<p>備資金の活用等)</p> <p>④ 計測部門との連携</p> <p>1-3-1 IFAC 委員会連携</p> <p>① IFAC2023 実行委員会への参加</p> <p>② IFAC2023 世界大会(横浜)開催支援(体制助言、国際化準備資金活用)</p> <p>③ IFAC 関連会議活動広報</p> <p>④ 制御部門との連携</p> <p>1-3-2 IROS2022 に向けた活動支援</p> <p>① IROS2022(京都)実行委員会との連携・活動支援(国際化準備資金活用)</p> <p>② SI 部門との連携(リエゾン(SI 部門国際委員)設置等)</p> <p><u>2-1 SICE の国際プレゼンス向上活動</u></p> <p>2-1-1 海外人材育成</p> <p>① アジア地区他学会カンファレンス支援</p> <ul style="list-style-type: none"> - 韓国 ICROS Joint Session 検討着手 - タイ ECTI Joint Session 検討着手 <p>② 英文論文誌インパクトファクター獲得</p> <ul style="list-style-type: none"> - 調査・獲得手続き継続(事務局・論文集委) <p>③ 海外事人材育成への貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> - アジア地区人材育成貢献策検討 - 相互インターンシップ等検討 <p>2-1-2 海外コミュニティ活動支援</p> <p>① SICE2020 コミュニティ支援企画</p> <ul style="list-style-type: none"> - コミュニティ WS 企画(AC 委, Y60) - ASEAN 地域学生支援(AC 委, 実行委員会) 	<p>け、カンファレンスはバーチャル開催の予定。</p> <p>④ 計測部門と連携継続(リエゾン)</p> <p>1-3-2 IFAC 委員会との連携</p> <p>① IFAC2023 実行委員会参加</p> <p>② IFAC2023 開催支援継続。自動制御協議会(一般社団法人)が発足し実行委員会が同協議会に帰属することとなったため、共催 MOU の更新を検討、第 5 回理事会にて締結承認完了。</p> <p>③ IFAC2023 広報支援</p> <p>④ 制御部門と連携継続(リエゾン)</p> <p>1-3-3 IROS2022 に向けた活動支援</p> <p>① IROS 実行委員会、SI 部門との連携を開始</p> <p>② SI 部門と連携中(リエゾン)</p> <p><u>2-1 SICE の国際プレゼンス向上活動</u></p> <p>2-1-1 海外人材育成</p> <p>① アジア地区他学会カンファレンス支援</p> <ul style="list-style-type: none"> - 韓国 ICROS Joint Session 検討着手 - タイ ECTI Joint Session 検討着手 <p>② 英文論文誌インパクトファクター獲得</p> <p>(主体:総務・論文集委・事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> - 海外ジャーナル誌への出版委託契約完了 <p>③ 海外人材育成への貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> - AC2020 ASEAN Friendship WS(2-1-2)の成果に基づき検討予定であったが、AC オンライン化によりイベント中止 <p>2-1-2 海外コミュニティ活動支援</p> <p>① SICE2020 コミュニティ支援企画</p> <p>AC オンライン化により関連イベントである AC2020 ASEAN Friendship WS 中止</p>
--	--

2020 年度事業計画・実施報告

組織名	国際標準化委員会	担当	藤田委員長（副会長）
-----	----------	----	------------

2020 年度事業計画（主な重点施策）本組織担当分
<ul style="list-style-type: none"> ・国際規格の作成に向けた活動とそのプロモーション（4.4） ・継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守（13.1）

2020 年度事業計画	2020 年度実施結果
<p>●1～6 月 委員会開催：2 回以上予定</p> <p>1) SICE 2020（9 月タイ チェンマイ）に向けた OS 企画の策定（実行、運営は下期）</p> <p>2) 国際標準化動向の調査</p> <p>3) 国際標準化関連セミナーの開催検討</p> <p>4) 国際標準化賞の推薦 功績賞と奨励賞の候補者についてその妥当性を評価・審議し、適当と認められた者を学会賞委員会に推薦する。</p> <p>5) JIS 規格の定期見直しと改廃の検討</p> <p>6) SICE 年度計画「1.1 Society 5.0 の概念整理・用語整備と WG 設置」に関して総務委員会に協力する。</p> <p>7) 国際標準化の課題検討</p>	<p>●1～6 月</p> <p>a) 第 1 回：6 月 15 日（Web）に開催</p> <p>1) SICE 2020 に向けた OS 企画の策定 a) SICE 2020（9 月）での OS 企画案を策定し推進中。セッションの主題は「International Standardization for Industry4.0」 b) 産業応用部門との共同企画を承認</p> <p>2) 国際標準化動向の調査 調査中</p> <p>3) 国際標準化関連セミナーの開催検討 今年度は実施しない方向で検討中。</p> <p>4) 国際標準化賞の推薦 今年度の推薦はなし。 推薦依頼を周知してもらえよう展開方法を確認。次回に向けて推薦を検討中。</p> <p>5) JIS の定期見直し 廃止検討の 2 件について継続検討中。</p> <p>6) （総務委員会・企画委員会と協力して） SICE ポストコロナ未来社会 WG の発足と WS の開催（第 1 回：6/6（土）、第 2 回：7/22（水）、第 3 回：8/29（土）、第 4 回：（調整中）、第 5 回以降は計画中）</p> <p>7) 国際標準化の課題検討 検討中</p>

2020 年度事業計画	2020 年度実施結果
<p>●7～12 月 委員会開催：2 回以上予定</p> <p>1) SICE 2020 (9 月タイ チェンマイ) での OS を企画・実施する。</p> <p>2) 国際標準化動向の調査</p> <p>3) 国際標準化関連セミナーの開催検討</p> <p>4) 国際標準化賞の推薦 (上期にて実施)</p> <p>5) JIS 規格の定期見直しと改廃の検討</p> <p>6) SICE 年度計画「1.1 Society 5.0 の概念整理・用語整備と WG 設置」に関して総務委員会に協力する。</p> <p>7) 国際標準化の課題検討</p>	<p>●7～12 月</p> <p>a) 第 2 回：10 月 19 日 (Web) に開催 第 3 回：12 月 7 日 (Web) に開催</p> <p>1) SICE 2020 に向けた OS 企画・実施 a) SICE 2020 (9 月) での国際標準化委員会企画 OS および産業応用部門との共同企画のパネルセッションを実施</p> <p>OS セッションの主題は 「International Standardization for Industry4.0」</p> <p>2) JEMIMA, MSTC などリエゾン団体からの参加委員、および TC65 国内委員会からの委員の方と国際標準化動向等について情報交換を実施</p> <p>3) 国際標準化関連セミナーの開催検討 実施しなかった</p> <p>4) 国際標準化賞の推薦 (上期にて報告)</p> <p>5) JIS 規格の定期見直しと改廃の検討 4 件の JIS の定期見直し依頼があり、関連団体等に確認したところ、今回は見直しの必要なしとの結論にいたった</p> <p>6) (総務委員会・企画委員会と協力して) SICE ポストコロナ未来社会 WS の開催 (第 2 回：7/22 (水), 第 3 回：8/29 (土), 第 4 回：9/11 (金), 第 5 回：10/30 (金), 第 6 回：11/28 (金))</p> <p>7) 国際標準化の課題検討 検討中</p>

2020 年度事業計画・実施報告

組織名	事業会員サービス委員会	担当	長谷川委員長、角龍副委員長
-----	-------------	----	---------------

2020 年度事業計画（主な重点施策）本組織担当分
<ul style="list-style-type: none"> ・企業会員のためのチュートリアル講演会の企画・実施。新WG の検討 (5. 1) ・企業成果の効果的発信と論文発表形式の見直し (5. 2) ・SICE 内相談窓口機能の設置検討（技術相談、講演相談等） (6. 1) ・企業（賛助会員等）を対象としたイベント開催による企業技術者教育と情報発信強化、非会員に向けた情報発信 (6. 2) ・継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守 (13. 1)

2020 年度事業計画	2020 年度実施結果
<p>●1～6 月 委員会活動：3 回</p> <p>◆企業会員のための施策の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新WG によるチュートリアル講演会の企画 ・企業による効果的発信と論文発表形式の見直し検討 <p>◆会員への情報発信と教育支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「安全のための計測・制御・システムを考える会」の活動 〈定期的な会合〉 <ul style="list-style-type: none"> ・体験セミナー・企業見学会 年間計画策定(3 月) －準備, 実施, フォローアップ ・産業応用セミナー(教育・認定委員会と連携) －実施, フォローアップ ・その他友好団体との連携 －男女共同参画学協会連絡会への参加 －夏の学校出展準備・SICE 内相談窓口機能の設置に向けた検討 ・会員増強施策の検討 ・SNS コンテンツの拡充フォロー <p>◆広報・リエゾン機能の強化活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ISCIE 連携 －ステアリング会議(5 月) －SSH 出展準備 ・横幹連合連携 －一定時総会(4 月) 	<p>●1～6 月 ⇒ 委員会活動：4/13, 6/11(Web 開催)</p> <p>⇒ コロナ禍により 3/9 に開催を予定していたチュートリアルセミナーの延期を決断 ⇒ Web 開催を決定 実施日 7/17 プログラム 6 本 ⇒ 下期着手</p> <p>⇒ コロナ禍により 2 月以降当初計画を変更, 延期とした。サロンの Web 開催について議論し実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1/24(TF サロン実開催) 5/29, 6/5, 6/9, 6/30(TF のみ Web 開催) 6/23(TF サロン Web 開催) <p>⇒ コロナ禍により今年度は中止とした。</p> <p>⇒ Web 開催を検討中</p> <p>⇒ 1 年間の活動延期が決定</p> <p>⇒ 現状, 有効な手段が見出せない状態。 セミナー方式(実+Web), 講演テーマの検討。 ⇒ SICE HP, SNS の有効活用について下期検討</p> <p>⇒SSH 出展：コロナ禍により中止</p> <p>⇒第 11 回横幹連合コンファレンスは 10/8 に Web 開催で検討段階。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・その他学会連携 －他学会行事協賛(随時) ・JEMIMA 等工業会との連携 －計測展へのブース参加 ・日本学術会議と連携（多分野応用小委員会） －自動制御連合講演会開催地決定準備 ・リエゾン機能を持つ組織（委員会、WG 等）の検討 ・学生会員卒業時の資格自動変更の見直し 	<p>⇒他学協会からの国内行事協賛依頼を、随時、審査・承認した。協賛:28 後援:2 理事会（2/28, 4/24, 6/17）で報告。</p> <p>⇒ コロナ禍により今年度の参加は見送り（セミナー集客数と参加費用の投資対効果を考慮）</p> <p>⇒ 開催日、開催方法の変更が行なわれる。新しい開催日は11月21日22日オンラインでの開催となった。</p> <p>⇒ 検討段階</p> <p>⇒ 現在の会員本人の承諾がないまま会費増額となる自動的な資格変更は消費者契約法の平成29年改正により無効な契約となると指摘されたことをふまえ、本会としてはこれを改めるため、会員規定の改定と今後の運用方法を規定することを事務局と推進中。</p>
---	---

2020 年度事業計画	2020 年度実施結果
<p>●7～12 月 委員会活動：3 回</p> <p>◆企業会員のための施策の強化 ・新 WG によるチュートリアル講演会の企画</p> <p>・企業による効果的発信と論文発表形式の見直し 検討まとめ</p> <p>◆会員への情報発信と教育支援 ・「安全のための計測・制御・システムを考える会」の活動 －定期的な会合</p> <p>・体験セミナー・企業見学会 －年間計画策定フォロー（準備，実施）</p> <p>・産業応用セミナー（教育・認定委員会と連携） －実施 －フォローアップ</p> <p>・その他友好団体との連携 －男女共同参画学協会連絡会への参加 －夏の学校出展（8 月）</p> <p>・SICE 内相談窓口機能の設置に向けた具現化</p> <p>・会員増強施策の検討まとめ</p> <p>・SNS コンテンツの拡充フォロー</p> <p>◆広報・リエゾン機能の強化活動 ・ISCIE 連携 －ステアリング会議（11 月） －SSH 出展</p> <p>・横幹連合連携</p> <p>・その他学会連携 －他学会行事協賛（随時）</p> <p>・JEMIMA 等工業会との連携 －JEMIMA-SICE 連携会議（3 月） －計測展 2020（大阪 10 月）へのブース参加</p> <p>・日本学術会議と連携（多分野応用小委員会） －自動制御連合講演会開催⇒富山（2020 は幹事学会）</p> <p>・リエゾン機能を持つ組織（委員会、WG 等）の検討まとめ</p>	<p>●7～12 月 ⇒ 委員会活動：9/10, 12/10 (Web 開催)</p> <p>⇒ 下期計画を進めたが，運営上の課題から下期は中止とし，来期再スタートを決めた。</p> <p>⇒ 来期へ持ち越し</p> <p>⇒ サロンの Web 開催を実現し，多くの参加者の元，実施。</p> <p>会合：13 回 サロン：6 回 を実施</p> <p>⇒ コロナ禍により上期同様に下期も中止。 Web 開催では体験，見学が感じてもらえない</p> <p>⇒ 本年度中止</p> <p>⇒ 本年度中止</p> <p>⇒ 実施に向けた議論までに至らなかった。 来期継続とする。</p> <p>⇒ 施策の前に，会員の退会理由，期待との乖離をセミナー等通してアンケート収集，分析することで，最適な施策を生み出すことを確認。</p> <p>⇒ 拡充以前に，運営方法から見直す（来期）</p> <p>⇒ 予定通り Web にて実施 ⇒ SSH 出展：コロナ禍により中止</p> <p>⇒：第 11 回横幹連合コンファレンス 10/8 に数理統計研究所（オンライン開催） 来年は 11 月 B に筑波大学で開催計画 ⇒ 随時，審査・承認した。協賛：59 後援：6</p> <p>⇒ コロナ禍により今年度の参加は見送り 上期に決定 （セミナー集客数と参加費用の投資対効果を考慮）</p> <p>⇒ 11/20 Web 開催 参加者 502 名 講演 274 件。 ⇒ 検討段階（継続）</p>

2020 年度事業計画・実施報告

組織名	教育・認定委員会	担当	佐藤委員長
-----	----------	----	-------

2020 年度事業計画（主な重点施策）本組織担当分
<ul style="list-style-type: none"> ・AI/IoT/ビッグデータ塾（仮称）の検討と企画（2.2） ・継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守（13.1）

2020 年度事業計画	2020 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <p>1. 計測制御エンジニア資格</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ WG 会合（3, 5 月） ・ 問題の改訂 ・ 関東（本部）、北海道、九州各支部での実施の日程場所の確定・準備 ・ 実施支部の検討 ・ 受験者増対策の検討、受験者勧誘 学生受講者のインセンティブとして事業会員委員会と連携して「産業応用セミナー」を実施する <p>2. プロセス塾</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プロセス新塾 2018 スクーリング（3 月・第 5 回目） ・ プロセス新塾 2019 スクーリング（6 月・第 1 回目） ・ WG 会合 ・ 教育内容を検討（通年） ・ 次年度計画の検討 <p>3. CPD ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ポイント集計と表彰者決定 <p>4. JABEE</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報収集（通年） ・ 審査支援（通年） <p>5. 新教育プログラム事業計画検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 企業エンジニアの学び直しの場の提供 ・ AI/IoT/ビッグデータ塾（仮称）を企画 ・ 高等教育機関への学び直しの新たな場 	<p>●1～6 月</p> <p>→ コロナ禍のため、実開催ではなく、Web 開催実施を検討</p> <p>→ コロナ禍のため、筆記試験も Web 上で問題を解答する形式に変更することを検討</p> <p>→ コロナ禍のため、5 月 8 日に Web 開催・工場見学は中止</p> <p>→ 実開催を中止し Web 開催を検討。開催スケジュールを大幅に見直して Web 開催を 10 月より実施することになった。</p> <p>→ 拡大 WG(Web 開催)4/3、4/17、4/24、4/28、5/29、6/5、6/19、6/26</p> <p>・ ポイント集計を行い表彰者を決定した（6/17 第 3 回理事会にて決議された）</p>

2020 年度事業計画	2020 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p>1. 計測制御エンジニア資格</p> <ul style="list-style-type: none"> ・WG 会合(7, 9 月) ・関東(本部), 北海道, 九州各支部で試験実施(10 月～12 月) ・北海道講師選定 ・遠隔面接準備 ・受験者増施策を実施 <p>2. プロセス塾</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロセス新塾スクーリング(第 2, 3, 4 回) 実施 ・WG 会合 ・教育内容を検討(通年) <p>3. CPD ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表彰式・賞状授与 <p>4. JABEE</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報収集(通年) ・審査支援(通年) <p>5. 新教育プログラム事業計画検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業エンジニアの学び直しの場の提供 ・AI/IoT/ビッグデータ塾(仮称)を企画 ・高等教育機関への学び直しの新たな場 	<p>●7～12 月</p> <p>→コロナ禍のためと SICE Y60 教育改革に連動した試験制度の見直しも含めて試験実施形態の変更を検討した。2021 年 1 月に試行試験を実施し, 2021 年末より新しい資格試験制度の立ち上げに向けて検討を進めた。</p> <p>→10 月 9 日(第 1 回)に開校式と塾長, 講師による Web スクーリング, 交流会を実施。11 月 13 日(第 2 回), 12 月 11 日(第 3 回)にそれぞれスクーリングを実施した。</p> <p>→拡大 WG(Web 開催) 8/18, 9/4, 9/16/, 10/28</p> <p>→9 月 16 日の WG 会合では, 最終的なスクーリングの打合せ, 今後の運営方針について確認した。</p> <p>→CPD ポイントについては 2019 年度の CPD ポイントを集計し, 第 3 回理事会(6/17)にて決議された高得点者(授与 3 名)への表彰状の送付を実施。</p> <p>→新教育プログラム事業の WG を立ち上げ, 教育プログラム制度の検討を開始した。</p>

2020 年度事業計画・実施報告

組織名	部門協議会	担当	山本(大)議長、玉置副議長
-----	-------	----	---------------

2020 年度事業計画（主な重点施策）本組織担当分
<ul style="list-style-type: none"> ・ Society5.0 における SICE の役割明示とそのプロモーションのために、講習会開催や会誌発行による情報発信（1. 2） ・ AI、IoT、ビッグデータ等新しい技術に関する SICE 企画（2. 1） ・ 部門へのインセンティブルールの見直し（10. 2） ・ 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守（13. 1）

2020 年度事業計画	2020 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 部門活動の促進サポート <ul style="list-style-type: none"> ・ 3 回の部門協議会を開催 2. 支部協議会との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・ 支部協議会への参加と情報共有 ・ 合同の協議会を開催し合同講演会開催の検討 3. 企画委員会などとの連携強化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 財務委員会、企画委員会に参加し、内容を部門へ報告 4. 部門活性化方策の検討と活動の広報の見直し <ul style="list-style-type: none"> ・ 会員情報 DB 整備、部門ごとの名簿の整理 ・ 各 WG と専門委員会の活動状況把握 ・ 企業会員向けサービス WG の立ち位置検討 5. 部門運営の負荷の把握および効率化の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各部門における活動の把握 	<p>●1～6 月</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 部門活動の促進サポート <ul style="list-style-type: none"> ・ 3 回の部門協議会(2 月(メール審議)、4 月、6 月(オンライン会議))を開催。 2. 支部協議会との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・ 支部協議会への参加 ・ 部門支部合同協議会を、支部と連携して 5 月オンライン会議にて開催 3. 企画委員会などとの連携強化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 財務委員会への参加、加えて、4 月の部門協議会(実質新年度初回)に、会長に参加頂き、意見交換。 4. 部門活性化方策の検討と活動の広報の見直し <ul style="list-style-type: none"> ・ 部門大会参加者の会員数など、調査。 (・企業会員向けサービス WG は今年より事業サービス委員会管轄) 5. 部門運営の負荷の把握および効率化の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・ 部門から SICE 本体委員会への委員等、部門への負担について調査

2020 年度事業計画	2020 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 部門活動の促進サポート <ul style="list-style-type: none"> ・ 4 回の部門協議会を開催 2. 支部協議会との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・ 合同の協議会を開催し合同講演会開催の検討 3. 企画委員会などとの連携強化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 財務委員会、企画委員会に参加し、内容を部門へ報告 4. 部門活性化方策の検討と活動の広報の見直し <ul style="list-style-type: none"> ・ 発信力強化に関して、部門協議会で議論 ・ 会員情報 DB 整備、部門ごとの名簿に基づく部門へのインセンティブルールについて協議 5. AC 活性化、OS 企画・貢献 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各部門で個別実施 6. 部門運営の負荷の把握および効率化の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・ 上期の協議結果を踏まえて、2021 年度の計画を立案 	<p>●7～12 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2 回の部門協議会(8 月、12 月(オンライン会議))および 3 回の臨時メール審議(いずれも 9 月)を開催。(理事会数減に併せて開催数減) <ol style="list-style-type: none"> 2. 支部協議会との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・ 支部協議会への参加 3. 企画委員会などとの連携強化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 財務委員会、総務・企画合同委員会への参加。 4. 部門活性化方策の検討と活動の広報の見直し <ul style="list-style-type: none"> ・ 部門大会登録会員数等、調査。 ・ 拡大理事 WS 等への参加を通じ、部門活動把握 5. AC 活性化、OS 企画・貢献 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各部門で個別実施 ・ 新たに技術専門委員会「自動車制御とモデリング委員会」の設置承認。 6. 部門運営の負荷の把握および効率化の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・ 部門から SICE 本体委員会への委員等、部門への負担について調査 ・ 部門協議会関連規程見直し検討

2020 年度事業計画・実施報告

組織名	計測部門	担当	高山部門長
-----	------	----	-------

2020 年度事業計画（主な重点施策）本組織担当分
<ul style="list-style-type: none"> ・AI、IoT、ビッグデータ等新しい技術に関する SICE 企画（2.1） ・部門へのインセンティブルールの見直し（10.2） ・継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守（13.1） ・支部再編に向けた意向調査に基づく協議と部門へのインセンティブルールの見直し ・Society5.0における SICE の役割明示とそのプロモーションのために、講習会開催や会誌発行による、メーカー・サービス・ユーザ企業さらに異業種を含む社会への情報発信 ・IMEKO2021 開催に向けた国際委員会との連携推進

2020 年度事業計画	2020 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <p>2 月</p> <ul style="list-style-type: none"> - 先端電子計測部会 講演会 - 第112回力学量計測部会行事：力学量計測部会講演会・見学会 - 計測部門運営委員会 - センシングフォーラム運営委員会 <p>3 月</p> <ul style="list-style-type: none"> - パターン計測部会共同企画・動的画像処理実利用化ワークショップ(DIA2020) - 第45回リモートセンシングシンポジウム - - 第150回温度計測部会温度計測部会見学会 <p>5 月</p> <ul style="list-style-type: none"> - 第104回パターン計測部会研究会 <p>6 月</p> <ul style="list-style-type: none"> - 力学量計測部会運営委員会 - 第 113 回部会行事：有機微量分析合同シンポジウム（力学量計測部会） - 先端電子計測部会運営委員会 - 計測部門運営委員会 - センシングフォーラム運営委員会 	<p>●1～6 月</p> <p>2 月</p> <ul style="list-style-type: none"> - 先端電子計測部会 講演会 [開催延期] - 2 月 18 日 第 112 回部会行事：力学量計測部会講演会・見学会（東京都立産業技術研究センター：参加者 12 名） - 2 月 18 日 第 1 回計測部門運営委員会(SICE 事務局) - 2 月 18 日 第 1 回センシングフォーラム運営委員会（SICE 事務局） <p>3 月</p> <ul style="list-style-type: none"> - 3 月 9～10 日 動的画像処理実利用化ワークショップ 2020（パターン計測部会協賛）（沖縄高専：発表 97 件）[開催中止，予稿集のみ配布] - 3 月 13 日 第 1 回リモートセンシング部会運営委員会（メール審議） - 第 45 回リモートセンシングシンポジウム [開催中止] - 第 150 回温度計測部会温度計測部会見学会 [開催中止] <p>5 月</p> <ul style="list-style-type: none"> - 第 104 回パターン計測部会研究会 → 11 月開催 予定のパターン計測シンポジウムへ統合 <p>6 月</p> <ul style="list-style-type: none"> - 6 月 23 日 第 109 回力学量計測部会運営委員会（メール審議） - 6 月 11～12 日 第 113 回部会行事：第 37 回有機微量分析合同シンポジウム（力学量計測部会共催）（島根大学：発表 32 件，参加者 0 名）[開催中止，要旨集のみ発行] - 先端電子計測部会運営委員会 [開催中止] - 6 月 30 日 第 2 回計測部門運営委員会（Web 開催） - 6 月 30 日 第 2 回センシングフォーラム運営委員会（Web 開催）

2020 年度事業計画	2020 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p>8 月</p> <ul style="list-style-type: none"> - パターン計測部会協賛、画像の認識・理解シンポジウム (MIRU2020) - 第 37 回センシングフォーラム - 計測部門運営委員会 - センシングフォーラム運営委員会 <p>9 月</p> <ul style="list-style-type: none"> - <p>10 月</p> <ul style="list-style-type: none"> - <p>11 月</p> <ul style="list-style-type: none"> - 第 25 回パターン計測シンポジウム - 第 151 回温度計測部会講演会 - スマートセンシングシステム部会 研究会 (電子情報通信学会と併催) - 第 112 回部会行事: 力学量計測部会 計量史をさぐる会 - APMF2020 アジア太平洋力学量計測フォーラム (力学量計測部会) <p>12 月</p> <ul style="list-style-type: none"> - パターン計測部会共同企画・ビジョン技術の実利用ワークショップ ViEW 2020 	<p>●7～12 月</p> <p>8 月</p> <ul style="list-style-type: none"> - 8 月 2, 3 日 第 23 回 画像の認識・理解シンポジウム MIRU2020 (パターン計測部会協賛) (Web 開催: 発表 271 件, 参加者 1277 名) <p>9 月</p> <ul style="list-style-type: none"> - 9 月 3・4 日 第 37 回センシングフォーラム計測部門大会 (Web 開催[当初は高知工科大学]: 発表 40 件, 参加者 79 名) - 9 月 4 日 第 3 回計測部門運営委員会 (Web 開催) - 9 月 4 日 第 3 回センシングフォーラム運営委員会 (Web 開催) <p>10 月</p> <ul style="list-style-type: none"> - 10 月 16 日 第 114 回部会行事: 計量史をさぐる会 2020 (力学量計測部会共催) (計量会館: 発表 4 件, 参加者約 10 名) <p>11 月</p> <ul style="list-style-type: none"> - 第 151 回温度計測部会講演会 [開催中止] - スマートセンシングシステム部会 研究会 [開催中止] - APMF2020 アジア太平洋力学量計測フォーラム [開催無し] <p>12 月</p> <ul style="list-style-type: none"> - 12 月 3, 4 日 ビジョン技術の実利用ワークショップ 2020 (パターン計測部会協賛) (ハイブリッド Web 開催・横浜: 発表 106 件, 参加者 607 名) - 12 月 7 日 スマートセンシング部会委員会 (Web 開催) - 12 月 15 日 第 110 回力学量計測部会運営委員会 (Web 開催) - 12 月 18 日 第 25 回パターン計測シンポジウム: 第 105 回パターン計測研究会 (Web 開催: 発表 5 件, 参加者 7 名) - 12 月 18 日 パターン計測部会運営委員会 (Web 開催)

2020 年度事業計画・実施報告

組織名	制御部門	担当	藤崎部門長
-----	------	----	-------

2020 年度事業計画（主な重点施策）本組織担当分
<ul style="list-style-type: none"> ・ AI、IoT、ビッグデータ等新しい技術と連携した制御分野に関する SICE 企画 (2.1) ・ 部門へのインセンティブルールの見直し (10.2) ・ 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守 (13.1) ・ Society5.0 における SICE の役割明示とそのプロモーションのために、OS、WS 開催や会誌発行等による、メーカー、ユーザー企業、さらに異業種を含む社会への情報発信

2020 年度事業計画	2020 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <p>第 7 回制御部門マルチシンポジウム (MSCS2020) 開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SICE International Symposium on Control Systems 2020 ・ 第 48 回 制御理論シンポジウム ・ 第 11 回 プラントモデリングシンポジウム ・ 第 20 回 適応学習制御シンポジウム ・ 第 37 回 誘導制御シンポジウム ・ 第 6 回 システム構築と制御技術シンポジウム <p>将来構想検討タスクフォースによる検討</p> <p>MSCS における産業応用部門との Joint OS の開催</p> <p>部門賞贈呈式</p> <p>第 1 回制御部門運営委員会開催</p> <p>各委員会・部会・調査研究会の運営委員会・研究会・講演会・見学会・セミナーなどの実施</p>	<p>●1～6 月</p> <p>第 7 回制御部門マルチシンポジウム (MSCS2020) 新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催取り止め。研究資料の公開のみ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SICE International Symposium on Control Systems (ISCS) ・ 第 48 回 制御理論シンポジウム ・ 第 11 回 プラントモデリングシンポジウム ・ 第 20 回 適応学習制御シンポジウム ・ 第 37 回 誘導制御シンポジウム ・ 第 6 回 システム構築と制御技術シンポジウム <p>講演予定件数 254 件(うちポスター50 件)</p> <p>特別講演 1 件</p> <p>招待講演 3 件 (うち ISCS 1 件)</p> <p>チュートリアル 3 件 (うち ISCS 1 件)</p> <p>受賞記念講演 3 件</p> <p>ワークショップ 1 件</p> <p>MSCS における産業応用部門との Joint OS 1 件予定が中止</p> <p>部門賞贈呈式中止。SICE 制御部門 HP に MSCS2020 実行委員への感謝ページ掲載</p> <p>第 1 回制御部門運営委員会を 4 月 10 日に WebEx によるオンライン開催</p> <p>各委員会・部会・調査研究会の運営委員会・研究会・講演会・見学会・セミナーなどを計画にしたがって実施 (別添の個別事業実施報告参照)</p>

2020 年度事業計画	2020 年度実施結果
<p>●7～12 月 第 2 回制御部門運営委員会開催</p> <p>将来構想検討タスクフォースによる提案</p> <p>第 8 回制御部門マルチシンポジウム(MSCS2021)の 企画・検討・準備</p> <p>部門賞の選考</p> <p>産業応用部門大会における Joint OS の開催</p> <p>第 3 回制御部門運営委員会開催</p> <p>各委員会・部会・調査研究会の運営委員会・研究会 ・講演会・見学会・セミナーなどの実施</p>	<p>●7～12 月 第 2 回制御部門運営委員会を 10 月 2 日に WebEx に よるオンライン開催</p> <p>第 8 回制御部門マルチシンポジウム (MSCS2021) 2021 年 3 月 1 日～4 日オンライン開催予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SICE International Symposium on Control Systems (ISCS) ・ 第 49 回 制御理論シンポジウム ・ 第 12 回 プラントモデリングシンポジウム ・ 第 21 回 適応学習制御シンポジウム ・ 第 38 回 誘導制御シンポジウム ・ 第 7 回 システム構築と制御技術シンポジウム <p>特別講演 1 件 招待講演 2 件 (うち ISCS 1 件) 受賞記念講演 2 件 ワークショップ 2 件 セミナー 1 件</p> <p>部門賞 木村賞 1 件 パイオニア賞 1 件 制御部門大会賞 2 件 制御部門大会技術賞 2 件 制御部門研究奨励賞 5 件 制御部門技術奨励賞 4 件</p> <p>産業応用部門大会の開催が 2021 年 8 月 25 日～ 27 日に延期された</p> <p>第 3 回制御部門運営委員会を 12 月 4 日に WebEx に よるオンライン開催</p> <p>各委員会・部会・調査研究会の運営委員会・研究会 ・講演会・見学会・セミナーなどを計画にした がって実施 (別添の個別事業実施報告参照)</p>

2020 年度事業計画・実施報告

組織名	システム・情報部門	担当	高橋部門長
-----	-----------	----	-------

2020 年度事業計画（主な重点施策）本組織担当分
<ul style="list-style-type: none"> ・AI、IoT、ビッグデータ等新しい技術に関する SICE 企画（2.1） ・部門へのインセンティブルールの見直（10.2） ・継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守（13.1）

2020 年度事業計画	2020 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部門大会における部会・研究会とのシンポジウム共催の検討 ・部門大会の実行委員会などの組織化・開催準備 ・部会シンポジウムなどの開催（適宜、部門間ならびに部門内での連携・協調の可能性・有効性を模索） ・部門賞選考プロセス（表彰委員会の構成・発表賞の選考）の点検・見直し ・部門大会特集号の論文募集・査読プロセス管理・採録論文決定 ・活動計画実施状況のレビューと PDCA による評価・見直しのねらい・ポイントの再確認・明確化 ・部会・研究会の決算報告や部門予算管理におけるインセンティブの運用方策・方式について検討 ・Society5.0 における SICE の役割明示とそのプロモーションのための情報発信方法の検討 ・会員情報 DB の整備と部門大会活性化の検討 <p>【1 月】</p> <p>－自律分散システム・シンポジウム</p> <p>【3 月】</p> <ul style="list-style-type: none"> －第 62 回システム工学部会研究会 －知能システムシンポジウム －賢さの先端研究会 －知能工学部会運営委員会 －第 3 回分子ロボティクス年次大会 －第 21 回社会システム部会研究会 －第 67 回離散事象システム研究会 －第 1 回システム工学部会運営委員会 －社会システム部会運営委員会 	<p>●1～6 月</p> <p>【1 月】</p> <p>1 月 25 日 スマターワールド実現のための新たなシステムズアプローチの実展開を目指す調査研究会第 1 回研究会（同志社大学，発表 1 件，参加 13 名）を開催した。</p> <p>1 月 25 日 第 1 回スマターワールド実現のための新たなシステムズアプローチの実展開を目指す調査研究会運営委員会（同志社大学，議題 1 件，参加 13 名）を開催した。</p> <p>1 月 25・26 日 第 32 回自律分散システム・シンポジウム（芝浦工業大学，発表 38 件，参加 81 名）を開催した。</p> <p>1 月 25 日 第 1 回自律分散システム部会運営委員会（芝浦工業大学，議題 5 件，参加 25 名）を開催した。</p> <p>【3 月】</p> <p>3 月 2 日-5 日（5 月 31 日までオンライン） 第 47 回知能システムシンポジウム（オンライン開催，発表 40 件，参加 62 名）を開催した。</p> <p>3 月 9 日 第 62 回システム工学部会研究会を開催中止した。なお発表 8 件を予稿集に収録した。</p> <p>3 月 9-16 日 第 1 回システム工学部会運営委員会（オンライン，議題 5 件，参加 52 名）を開催した。</p>

2020 年度事業計画	2020 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部門大会における部会・研究会とのシンポジウム共催の検討 ・部門大会の実行委員会などの組織化・開催準備 ・部門賞選考プロセス（表彰委員会の構成・発表賞の選考）の点検・見直し ・部門大会特集号の論文募集・査読プロセス管理・採録論文決定 ・活動計画実施状況のレビューと PDCA による評価・見直しのねらい・ポイントの再確認・明確化 ・部会・研究会の決算報告や部門予算管理におけるインセンティブの運用方策・方式について検討 ・Society5.0 における SICE の役割明示とそのプロモーションのための情報発信方法の検討 ・会員情報 DB の整備と部門大会活性化の検討 <p>【7 月】 —分子ロボティクス月例研究会</p> <p>【8 月】 —BIOMOD 国内大会 —第 23 回社会システム部会研究会 —社会システム部会運営委員会</p>	<p>●7～12 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部門大会における CI 部会のシンポジウム開催、部門大会前日に自律分散部会の研究会を開催し、連携を行った。 ・実行委員会を毎月 web にて開催し、準備に務めた。 ・部門賞を選考し、部門大会で贈呈を行った。 ・特集号に関しては部門運営委員会にて継続審議となった。 ・部門運営委員会において活動計画の実施状況のレビューを行った。 ・部会・研究会の予算策定を行い部門の予算として積み上げを行い、本部に提出した。 ・将来構想委員会にて検討を行った。 ・部門幹事団および部門運営委員会で部門大会活性化について検討を行った。 <p>7 月 11 日 社会・経済システム学会研究会（共催）（Web 開催，発表 3 件，参加者 44 名）を開催した。</p> <p>7 月 31 日 知能分子ロボティクス調査研究会第 1 回研究会（Web 開催，発表 3 件，参加者 33 名）を開催した。</p> <p>8 月 1 日 スマーターワールド実現のための新たなシステムズアプローチの実展開を目指す調査研究会第 3 回研究会（Web 開催，発表 1 件，参加者 15 名）を開催した。</p> <p>8 月 1 日 第 3 回 スマーターワールド実現のための新たなシステムズアプローチの実展開を目指す調査研究会運営委員会（Web 開催，議題 1 件，参加者 15 名）を開催した。</p> <p>8 月 24 日 第 23 回 社会システム部会研究会（Web 開催，発表 55 件，参加者 66 名）を開催した。</p>

<p>【9月】 —自律分散サマースクール —第68回離散事象システム研究会 —離散事象システム部会運営委員会</p> <p>【10月】 —第3回分子ロボット倫理国際会議 —境界と関係性を視座とするシステムズアプローチ調査研究会</p> <p>【11月】 —部門学術講演会 (SSI2020) —賢さの先端研究会 —CI フォーラム 2020 —人工知能学会合同研究会 (人工知能学会分子生物情報研究会共催) —第2回システム工学部会運営委員会 —知能工学部会運営委員会 —自律分散システム部会研究会 —社会システム部会運営委員会</p>	<p>8月31日 自律分散サマースクール (Web開催, 発表4件, 参加者60名) を開催した.</p> <p>8月31日 第4回 自律分散システム部会運営委員会 (Web開催, 議題6件, 参加者16名) を開催した.</p> <p>9月12日～13日 境界と関係性を視座とシステムズアプローチ調査研究会第1回研究会 (Web開催, 発表12件, 参加者27名) を開催した.</p> <p>9月12日 第1回 境界と関係性を視座とシステムズアプローチ調査研究会運営委員会 (Web開催, 議題2件, 参加者5名) を開催した.</p> <p>9月30日 BIOMOD JAPAN OPEN 2020 (共催) (Web開催, 発表5件, 参加者73名) を開催した.</p> <p>10月1日 第3回システム・情報部門運営委員会 (議題6件, 参加10名) をオンラインにて開催した.</p> <p>10月6日 知能分子ロボティクス調査研究会第2回研究会 (Web開催, 発表3件, 参加者27名) を開催した.</p> <p>10月17日 スマターワールド実現のための新たなシステムズアプローチの実展開を目指す調査研究会第4回研究会 (Web開催, 発表1件, 参加者17名) を開催した.</p> <p>10月17日 第4回 スマターワールド実現のための新たなシステムズアプローチの実展開を目指す調査研究会運営委員会 (Web開催, 議題1件, 参加者17名) を開催した.</p> <p>11月8日～9日 第4回分子ロボティクス年次大会 (Web開催, 発表48件, 参加者67名) を開催した.</p> <p>11月14日 第67回自律分散システム部会研究会 (Web開催, 発表2件, 参加者23名) を開催した.</p> <p>11月14日 第5回 自律分散システム部会運営委員会 (Web開催, 議題8件, 参加者14名) を開催した.</p> <p>11月15日～17日 システム・情報部門学術講演会 SSI2020 (Web開催, 発表199件, 参加者268名) を開催した.</p>
--	---

<p>【12月】 一分子ロボティクス月例研究会 一第18回 CI研究会</p>	<p>11月15日 第2回 コンピューテーショナル・インテリジェンス部会運営委員会 (Web開催, 議題6件, 参加者14名) を開催した.</p> <p>11月16日 第4回システム・情報部門運営委員会 (議題12件, 参加12名) をオンラインにて開催した.</p> <p>11月18日~25日 第2回 システム工学部会運営委員会 (メール審議, 議題6件, 参加者52名) を開催した.</p> <p>11月28日 CIフォーラム2020 (Web開催, 発表3件, 参加者162名) を開催した.</p> <p>12月5日 スマートワールド実現のための新たなシステムズアプローチの実展開を目指す調査研究会第4回研究会 (Web開催, 発表3件, 参加者17名) を開催した.</p> <p>12月9日 知能分子ロボティクス調査研究会第3回研究会 (Web開催, 発表3件, 参加者24名) を開催した.</p> <p>12月13日 境界と関係性を視座とシステムズアプローチ調査研究会第2回研究会 (Web開催, 発表2件, 参加者24名)</p>
---	---

2020 年度事業計画・実施報告

組織名	システムインテグレーション部門	担当	野田部門長
-----	-----------------	----	-------

2020 年度事業計画（主な重点施策）本組織担当分
<ul style="list-style-type: none"> ・ AI、IoT、ビッグデータ等新しい技術に関する SICE 企画（2.1） ・ 部門へのインセンティブルールの見直（10.2） ・ 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守（13.1） ・ 技術委員会による新分野の開拓、部門内外の連携強化

2020 年度事業計画	2020 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 部門運営委員会（幹事団）による前年度計画した部会活動の実施と状況把握、および予算書・企画書等の事務手続きの着実な実施のフォロー ・ 部門運営委員会（幹事団）での部会行事や部門講演会の支部連携の検討と推奨の実施 ・ 新年度体制・各種情報等の着実な HP 更新 ・ 広報情報委員（HP 担当）による行事の情報発信の継続 ・ 部会の各種情報等の HP 更新 ・ SICE の HP での部門・部会活動の積極的な広報 ・ 防災学術連携体への情報提供 ・ システムインテグレーションに関する新しい技術分野の開拓（新調査研究委員会の立ち上げ） ・ SI2019 会計処理/優秀講演選考のフォロー ・ SII2020 会計処理/優秀講演選考のフォロー ・ SI2020 運営企画のフォロー ・ SI2021 に向けた実行委員長の運営組織立上げフォロー ・ SI2022 に向けた実行委員長の運営組織立上げフォロー 	<p>●1～6 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 通常形態 2 回、メール審議 2 回の部門運営委員会により部会活動の実施と状況把握、および予算書・企画書等の事務手続きの着実な実施のフォローを実施。問題なく進行中。部会行事や部門講演会の支部連携の検討と推奨を実施。 ・ 新年度体制・各種情報等の着実な HP 更新について https://sice-si.org/ にて実施済のうえ随時新着情報を更新中、広報情報委員（HP 担当）による行事の情報発信が継続中。 ・ 部会の各種情報等の HP 更新について、部門技術委員会により問題なく更新されていることを把握、いくつかの部会について更新支援中。 ・ 部門サイトで実施中の広報活動を、SICE の HP での部門・部会活動の積極的な広報をどう実現するかについて今後部門協で協議する。 ・ 防災学術連携体への情報提供について今後どのようにするか検討する。 ・ システムインテグレーションに関する新しい技術分野の開拓（新調査研究委員会の立ち上げ）システムインテグレーションの学理を追求する行事を準備中（他学会、業界団体と共催） ・ SI2019 について、会計報告を確認した。優秀講演は選考され本人に通知が行っていることを確認した。 ・ SI2020 について実行委員会の意見を聞いた上で部門運営委員会でオンライン化を議決、予算含め必要な措置を進行中。 ・ SI2021, SI2022 に向けて運営が問題なく進行していることを確認。SI2023 の実行委員会組織化が進行中。

<ul style="list-style-type: none"> • SII2021 開催に向けた SII Steering Committee の運営フォローと SII2022 以降の開催地、実行委員長選定、企画運営のフォロー • 特定費用準備資金による IROS 事業支援 • 表彰委員会組織化 • 部門賞募集と選定 • FA 財団賞ノミネート • 運営委員会の部門協議会に合わせた開催 • 第 1 回運営委員会 (1 月 7 日予定) • 第 2 回運営委員会 (1 月 27 日～1 月 31 日：メール審議) • 第 3 回運営委員会 (3 月：メール審議) • 第 4 回運営委員会 (5 月) 	<ul style="list-style-type: none"> • SII2021 開催に向けて SII Steering Committee, 実行委員会と相談し、開催形態の検討を進めている。7 月中旬には判断される。 • 特定費用準備資金による IROS 事業支援として SIYA-IROS 賞選考を進めている。副賞 10 万円を減額せずに贈賞することを部門運営委員会で議決、部門協を経て学会賞委員会に上奏中。 • 表彰委員会は、ノミネーション委員会+表彰委員会の構成を取ることとし、運用しながら構成の熟成をはかっている。 • 部門賞募集と選定を計画通り実施中。 • FA 財団賞ノミネート 理事会からの依頼を受け、FA 財団賞選考委員会を立ち上げ 5/30 に会合をオンラインで開催 候補 9 件中から議論により 3 件を選出 SICE 事務局経由で学会賞委員会に上申 理事会議決を経て先方に回答した。 • 運営委員会の部門協議会に合わせた開催は継続実施中で、部門の意見を集約し上申している。 • 第 1 回運営委員会 日時：1 月 7 日 13 時～17 時 場所：首都大東京秋葉原 • 第 2 回運営委員会 1 月 27 日～1 月 31 日：メール審議 • 第 3 回運営委員会 3 月 4 日～3 月 8 日：メール審議) • 第 4 回運営委員会 (5 月) 日時：5 月日 13 時～17 時 場所：金沢あためオンライン開催
---	--

2020 年度事業計画	2020 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部門運営委員会（幹事団）による前年度計画した部会活動の実施と状況把握と予算書・企画書等の事務手続きの着実な実施のフォロー ・部門運営委員会（幹事団）での部会行事・部門講演会での支部との連携検討と推奨の実施 ・広報委員（HP 担当）による行事の継続的な情報発信 ・部会の各種情報等の HP 継続的な更新 ・システムインテグレーションに関する新しい技術分野の継続的な開拓（新調査研究委員会の立ち上げ） ・表彰委員会による部門賞選定と部門学術講演会における贈賞 ・レスキューロボットコンテスト ・RT ミドルウェアコンテスト ・SI2020 企画と実施のフォロー ・SI2021 運営企画のフォロー ・SI2022 の実行委員長の運営組織立上げフォロー ・SI2023 の開催地と実行委員長の決定 ・SII2021 開催に向けた SII Steering Committee の運営フォロー ・SII2022 開催に向けた SII Steering Committee の運営フォローと実行委員長の運営組織立上げフォロー ・SII2023 開催に向けた SII Steering Committee の運営フォロー 	<p>●7～12 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常形態 2 回、メール審議 3 回の部門運営委員会により部会活動の実施と状況把握、および予算書・企画書等の事務手続きの着実な実施のフォローを実施。問題なく進行中。部会行事や部門講演会の支部連携の検討と推奨を実施。 ・広報委員（WWW サイト担当）により https://sice-si.org/ にて行事の継続的な情報発信を実施した。 ・SI 部門技術委員会にて、部会の各種情報等の WWW サイトによる継続的な更新を支援し、全部会 WWW サイト公開を達成した。 ・システムインテグレーションの学理を追求する行事を実施、新調査研究委員会の立ち上げを準備中（他学会、業界団体と共催） ・表彰委員会により部門賞選定と部門学術講演会におけるオンライン贈賞を実施した。部門学術業績賞 1 件、部門技術業績賞 1 件、部門研究奨励賞 2 件、部門若手奨励賞 5 件、部門功績賞 1 件、部門貢献表彰 7 件。 ・レスキューロボットコンテストはコロナ禍により残念ながら今年度は中止した。 ・RT ミドルウェアコンテストを実施した。 ・SI2020 はオンライン化し例年どおりの規模で大盛会で成功裡に完了。 ・SI2021 運営企画を、部門運営委員会でフォローを実施。 ・SI2022 の実行委員長の運営組織立上げを部門運営委員会でフォロー実施。 ・SI2023 の開催地と実行委員長の決定を部門運営委員会で確認した。 ・SII2021, 2022, 2023 開催に向けた SII Steering Committee の運営フォローを実施した。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 2021 年度体制の決定と予算策定の実施 ・ 特定費用準備資金による IROS 事業支援 ・ 第 5 回運営委員会 (8 月：メール審議) ・ 第 6 回運営委員会 (9 月) ・ 第 7 回運営委員会 (10 月：メール審議) ・ 第 8 回運営委員会 (11 月：メール審議) ・ 第 9 回運営委員会 (12 月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2021 年度体制と予算について部門運営委員会で議決し本部に報告した。 ・ IROS-SIYA 賞 6 件を選定・贈賞することにより，事業支援を実施した。IROS 会議自体がオンライン化され，本件表彰式もオンライン実施した。 ・ 左記計画に従い，下記を開催した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 5 回運営委員会 (8 月：メール審議) ・ 第 6 回運営委員会 (9 月) ・ 第 7 回運営委員会 (10 月：メール審議) ・ 第 8 回運営委員会 (11 月：メール審議) ・ 第 9 回運営委員会 (12 月) <p style="text-align: right;">以上</p>
--	---

2020 年度事業計画・実施報告

組織名	産業応用部門	担当	小池部門長
-----	--------	----	-------

2020 年度事業計画（主な重点施策）本組織担当分
<ul style="list-style-type: none"> ・AI、IoT、ビッグデータ等新しい技術に関する SICE 企画（2.1） ・部門へのインセンティブルールの見直（10.2） ・継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守（13.1）

2020 年度事業計画	2020 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部門運営委員会 新年度運営体制構築 部門大会企画準備 部門の在り方の議論を実施 インセンティブルールの検討 ・制御部門マルチシンポジウムとの連携の企画・実施 ・産業応用分野に関する他部門等との連携行事の検討 ・産業応用部門大会における制御部門 OS およびその他合同企画の調整と依頼 ・部門賞候補者推薦募集 ・各部会・エンジニア会主催行事の準備・実施 ・企業会員サービス WG の新技術に関するチュートリアル講演会に協力 	<p>●1～6 月</p> <p>部門運営委員会（開催日と主な議題）</p> <p>20.2.13 第1回部門運営委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020 年度運営体制 ・2020 年度部門大会基本方針検討 <p>20.4.6 第2回部門運営委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20 年度運営体制確定 ・部門大会の開催方法検討（対面、web） ・部門賞会告審議 ・AC2020 国際標準化委員会とのコラボ 検討 <p>20.6.4 第3回部門運営委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20 年度運営体制確定（メール担当確認） ・国際標準化委員会との連携準備開始 ・論文査読委員選任…負荷から免除希望 ・インセンティブ 予算検討…仕組みを理解し積極的な活動の支援材料とすることで合意。 <p>制御部門マルチシンポジウムとの連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3/2～3/5 開催に向け準備するも新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。研究資料公開となった。 <p>産業応用分野に関する他部門等との連携行事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部門協議会（Web）で他部門、支部とのコミュニケーションを図るも行事企画まで到達せず <p>産業応用部門大会における制御部門 OS</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制御部門と「ポストコロナ未来社会検討」WG が部門大会での連携に向けて活動を開始した。（ネット部会主導） <p>部門賞候補推薦募集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会誌5月号に募集を掲載 <p>各部会・エンジニア会主催行事の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・流体計測制御部会：流体計測制御シンポジウム会告を会誌5月号に掲載。 ・産業ネットワーク・システム部会：産業ネットワーク・システムシンポジウム開催準備、制御部門との OS 検討開始。 ・計装技術交流部会：「(仮) 誰にでもわかる計装設計」セミナー企画検討中（21 年度開催予定） <ul style="list-style-type: none"> ・7/17 開催への準備支援を実施した。

2020 年度事業計画	2020 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部門運営委員会 部門大会の企画確認、各種広報 部門大会の実施 次年度部門大会での OS 連携に向けた企画調整 ・SICE AC におけるスペシャルセッションや 関連 OS の運営・実施 ・産業応用部門大会の実施 ・部門賞候補者推薦締切、審査・決定、表彰の実施 ・各部会・エンジニア会主催行事の準備・実施 ・企業会員サービス WG の新技術に関する チュートリアル講演会に協力 	<p>●7～12 月</p> <p>部門運営委員会（開催日と主な議題）</p> <p>20. 7. 6 第 4 回部門運営委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部門協議会連絡事項 ・20 年度部門大会開催形態検討 (形態、参加費用) ・部門賞 応募状況確認 ・部会報告 <p>20. 8. 6 第 5 回部門運営委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チュートリアルセミナー実施報告 ・プロセス塾オンライン開講の連絡 ・会誌編集委員会 リレー記事募集 ・AC2020 国際標準化委員会合同 OS ・部門大会運営について (コマ割り、オンラインツール検討) ・部門賞 状況フォロー・部会活動報告共有 <p>20. 8. 26 第 6 回部門運営委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部門協議会状況報告 ・部門大会 運営についての詳細検討 会告改訂、参加登録方法 プログラム詳細 会告の詳細など ・部門賞 フォロー <p>20. 10. 1 第 7 回部門運営委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部門会計関連 確認 ・会誌関連 リレー記事選出 ・代議員 推薦 ・拡大理事会関連の活動 共有化 ・部門大会 運営詳細事項確認 詳細プログラム、リハ日程 <p>20. 12. 18 第 8 回部門運営委員会</p> <p>産業応用部門大会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11/5 オンライン zoom+Webex 2 本並列で実施 ・参加者 40 名 ・収入 24.3 万円 支出 20.4 万円 益 3.9 万円 ・基調講演 明治大学・小山紀教授 <p>部門表彰 オンライン表彰式実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・功績賞 明治大学・小山紀氏 ・奨励賞 住友重機 峰村今朝明氏 ・技術賞 なし ・受賞記念スピーチ 2 名 <p>産業ネットワーク・システム部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部門大会併設産業ネットワークシステムシンポジウムを開催 ・同、制御部門との合同 OS 実施 ・新事業創出 WG 検討会 <p>流体計測制御部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部門大会併設 流体計測制御シンポジウム開催 ベストプレゼンテーション賞 東京医科歯科大学 林 滉之氏 <p>計装技術交流部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計装技術ノウハウ伝承セミナー企画中 <p>計測制御エンジニア会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営会議開催 10/21 活動休止を決定。12/18 部門協議会へ報告

2020 年度事業計画・実施報告

組織名	ライフエンジニア部門	担当	塩澤部門長
-----	------------	----	-------

2020 年度事業計画（主な重点施策）本組織担当分
<ul style="list-style-type: none"> • AI、IoT、ビッグデータ等新しい技術に関する SICE 企画 (2.1) • 部門へのインセンティブルールの見直し (10.2) • 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守 (13.1) • Society5.0 における SICE の役割明示とそのプロモーションのために、講習会開催や会誌発行による、メーカー、サービス、ユーザ企業さらに異業種を含む社会への情報発信 • 部門と支部を中心とした会員情報 DB の整備による会員管理及び 会員数拡大 • 国際化に向けて部門シンポジウム・研究会の国際化・海外研究者との交流等を推進

2020 年度事業計画	2020 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 電気生理運動学部会において、研究会を実施する。 2. 日本生体医工学会、電子情報通信学会 ME と バイオサイバネティクス研究会等と合同で生体医工学に関する講演会を実施する。 3. 統合情報生物工学部会において、研究会を実施する。 4. 前、現、次期、次次期部門長会議により、中期ビジョンが達成できる組織運営を築く。 5. 部門・部会合同運営委員会を実施することにより、効率的な管理体制を構築し、財務体質の健全化を図る。 6. 部門・部会のイベント開催や諸事業の収益構造の改善を通じて部門の財務体質の健全化を図る。 	<p>●1～6 月</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 第 1 回部門・4 部会合同運営委員会(5 月 22 日、オンライン開催)において、前部門長、現部門長、次期部門長の間で中期ビジョン達成に関して具体的な意見交換を行った。 2. 第 1 回部門・4 部会合同運営委員会(5 月 22 日、オンライン開催)において、今後の部門のあり方や会員数を拡大させる方策に関して、意見交換を行った。 3. ライフエンジニアリング 部門シンポジウム 2020 の開催 (12 月、オンライン開催予定) に向けて、SICE Conference オンライン化特別チームと連携して準備を進めている。 4. 企業会員向けサービス強化 WG に参画して、企業会員数拡大を目的とした第 1 回チュートリアルセミナー(7 月 17 日オンライン開催、新型コロナウイルスの影響で 3 月開催がずれ込み、生体医工学に関する講演を実施予定)の開催準備を進めた。

2020 年度事業計画	2020 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ライフエンジニアリング部門シンポジウム／生体・生理工学シンポジウムを部門主導のもと、全部会の協力で実施する。 2. ライフエンジニアリング分野の若手研究者の研究を奨励するため、ライフエンジニアリング部門シンポジウム発表者の中から、優秀な研究者を選抜し、研究奨励賞を授与する。 3. 日本生体医工学会、電子情報通信学会 ME とバイオサイバネティクス研究会等と合同で大学院生、若手研究者を対象に、生体医工学に関するサマースクールを実施する。 4. ユビキタスヘルスケア部会において、研究会を実施する。 5. 上期に引き続き、前、現、次期、次次期部門長会議により、中期ビジョンが達成できる組織運営を築く。 6. 上期に引き続き、部門・部会合同運営委員会を実施することにより、効率的な管理体制を構築し、財務体質の健全化を図る。 <p>※上期に引き続き、部門・部会のイベント開催や諸事業の収益構造の改善を通じて部門の財務体質の健全化を図る</p>	<p>●7～12 月</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 第 1 回部門・4 部会合同運営委員会(5 月 22 日、オンライン開催)において、前部門長、現部門長、次期部門長の間で中期ビジョン達成に関して具体的な意見交換を行った。 2. 第 1 回部門・4 部会合同運営委員会(5 月 22 日、オンライン開催)において、今後の部門のあり方や会員数を拡大させる方策に関して、意見交換を行った。 3. ライフエンジニアリング 部門シンポジウム 2020 の開催 (12 月、オンライン開催予定) に向けて、SICE Conference オンライン化特別チームと連携して準備を進めている。

2020 年度事業計画・実施報告

組織名	支部協議会	担当	鈴木(高)議長、山田副議長
-----	-------	----	---------------

2020 年度事業計画（主な重点施策）本組織担当分
<ul style="list-style-type: none"> ・ Society5.0 における SICE の役割明示とそのプロモーションのために、講習会開催や会誌発行による情報発信 (1. 2) ・ AI、IoT、ビッグデータ等新しい技術に関する SICE 企画 (2. 1) ・ 支部新設・再編に向けた意向調査に基づく協議の継続 (10. 1) ・ 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守 (13. 1)

2020 年度事業計画	2020 年度実施
<p>●1～6 月</p> <p>2 月 支部協議会準備会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各支部の新体制の確認 ・ 支部現況に関する情報共有 ・ 支部再編における検討状況の確認と情報共有 ・ SICE 行事 Web アプリの試用状況の確認 ・ 行事 DB に基づく、部門との連携企画を含めた部門・支部の企画検討に関する情報共有 ・ 支部評価に関する検討状況の情報共有 ・ 支部評価項目および評価データの確認と情報共有 ・ SICE- AC2020 への企画，投稿の呼び掛け <p>3 月 部門・支部合同会議（信州大学）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 部門体制，支部体制の再編に関する議論 ・ 各支部活動の状況と好事例の共有 ・ 部門，支部，産業，地域の連携に関する議論 ・ 会員情報 DB 整備と活用方法に関する議論 ・ Society5.0 における SICE の役割明示とプロモーションに関する検討 <p>4 月 第 1 回支部協議会（SICE 事務局）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 支部再編に関する検討状況、調査結果等の情報共有 ・ 各支部活動の状況の確認 	<p>●1～6 月</p> <p>2/17 支部協議会準備会開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各支部の新体制の確認 ・ R2 年度支部協議会事業計画の確認 ①支部協議会 年 4 回開催 ②部門・支部合同会議 2 回開催し議論 ③支部再編協議 ④支部活動貢献インセンティブ継続検討 ⑤会員情報 DB 整備・活用方法に関する議論を主な活動として確認。 ・ R2 年度各支部事業計画の確認 (各支部新体制，支部現況の確認含む) ・ 支部再編の検討状況の情報共有 支部未所属 1 都 8 県のうち，2019 年度中には新潟，山梨の会員にアンケート実施。 各案に賛否両論あり要検討。 (北) 関東支部を群馬，新潟中心に検討。 部門・支部合同会議で議論していく。 ・ 支部活動活性化（インセンティブ）に関する検討状況の情報共有。 各支部の好事例の共有を先ず行う。 ・ 部門・支部合同講演会・合同協議会：下記通り 支部再編，支部インセンティブのほか，企業会員減少など執行部も参加して議論。 ・ 支部賞規程の制定について（北海道支部） 支部賞規則制定，今年度支部講演会から実施 (2020 年 3 月講演会中止により来年から) <p>3/11(予定) 部門・支部合同会議 エッサム神田ホールで開催予定 →新型コロナのため延期。 →5/19 にオンラインで開催（下記）</p> <p>4/13 第 1 回支部協議会（web 開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 支部再編，支部活動インセンティブ論点確認 ・ 中期的課題と事業計画 ・ 英文論文集の出版業務委託

<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続事業に関する準備・実施に関する確認 ・ 部門・支部の連携企画等の検討 ・ 支部評価に関する検討状況の情報共有 ・ 支部評価項目および評価データの確認と情報共有 ・ Society5.0に関する企画の検討 ・ AI, IoT, ビッグデータ等新しい技術に関する企画の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・ SICE2020 オンライン開催 ・ インセンティブルールについて ・ 各支部活動報告：周年行事準備状況, 他行事 ・ 学会関連行事コロナ対応ガイドライン ・ 部門・支部合同会議 <p>5/19 部門・支部合同会議 (Web 開催)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インセンティブルール ・ 部門・支部再編 ・ 論文誌外注について ・ DB システム活用について ・ 各部門・支部からの SICE 本体への要望について 2 グループに分かれ意見交換
---	--

2020 年度事業計画	2020 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p>7 月 第 2 回支部協議会 (SICE 事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 支部再編に関する検討 ・ 各支部活動の状況の確認 ・ 部門・支部の連携企画等の検討 ・ 支部評価に関する検討 ・ 拡大理事ワークショップにおける検討事項の確認 ・ AC2020 への参加促進 <p>8 月 部門・支部合同会議 (拡大理事ワークショップ会場、部門協議会と併催)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 部門・支部の連携企画等の確認と情報共有 <p>8 月 第 3 回支部協議会 (拡大理事ワークショップ会場)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 拡大理事ワークショップを受けての議論 ・ 支部再編に関する具体的検討 ・ 支部評価に関する具体的検討 ・ 部門・支部連携企画に関する具体的検討 ・ 次年度事業計画の立案に関する議論 	<p>●7～12 月</p> <p>7/31 第 2 回支部協議会 (オンライン) 開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 予算策定目標基準案の確認と意見聴取 ・ 支部再編：北関東支部新設について検討 ・ 各支部活動報告 ・ 支部周年行事準備状況報告： 北陸支部 25 周年、九州支部 50 周年 ・ その他 <p>8/24～8/31 部門・支部インセンティブヒアリング</p> <p>9/9, 10 拡大理事ワークショップ事前説明会</p> <p>10/2～10/23 (7 回分散開催) →支部協では 10/9, 20 に出席</p> <p>10/16 第 3 回支部協議会 (オンライン) 開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各支部活動報告、支部周年行事進捗状況報告 ・ 支部再編：新支部設立について検討 ・ 拡大理事ワークショップについて <ul style="list-style-type: none"> - 「組織、運営のスリム化について」、「コア事業の充実」について意見交換 ・ その他

2020 年度事業計画・実施報告

組織名	北海道支部	担当	近野支部長
-----	-------	----	-------

2020 年度事業計画（主な重点施策）本組織担当分
<ul style="list-style-type: none"> ・ AI、IoT、ビッグデータ等新しい技術に関する SICE 企画 (2. 1) ・ 支部新設・再編に向けた意向調査に基づく協議の継続 (10. 1) ・ 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守 (13. 1)

2020 年度事業計画	2020 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 支部会議 ・ 第 52 回計測自動制御学会北海道支部学術講演会（日本ロボット学会北海道ロボット技術研究専門委員会との共催） ・ 計測自動制御学会北海道支部主催特別講演会 ・ 共催行事：日本ロボット学会北海道ロボット技術研究専門委員会特別講演会 ・ 共催行事：複雑系マイクロシンポジウム ・ 支部運営委員会 	<p>●1～6 月</p> <p>1 月 27 日（月）北海道大学にて開催。参加者 5 名。</p> <p>3 月 9 日（月）、10 日（火）に実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響を受け、原稿の提出を持って講演が成立したとした。投稿件数 12 件、共催の RSJ-HRT への投稿が 8 件。</p> <p>3 月 9 日（月）に実施予定であったが、COVID-19 の影響を受け中止</p> <p>3 月 9 日（月）に実施予定であったが、COVID-19 の影響を受け中止</p> <p>3 月 1 日（日）に実施予定であったが、COVID-19 の影響を受け中止</p> <p>メール審議 1 件を行った（6 月 25 日（木））</p>

2020 年度事業計画	2020 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協賛事業：ロボットトライアスロン ・協賛事業：大規模環境 3 次元計測と認識・モデル化技術集中講演会 ・計測制御エンジニアセミナー ・計測制御エンジニア試験への協力 ・産業応用セミナー ・支部運営委員会 ・支部選挙 	<p>●7～12 月</p> <p>9 月 27 日（日）に生涯学習センターきらん（室蘭市）にて実施予定であったが、COVID-19 の影響を受け中止</p> <p>COVID-19 の影響を受け中止</p> <p>COVID-19 の影響を受け中止</p> <p>COVID-19 の影響を受け中止</p> <p>COVID-19 の影響を受け中止</p> <p>メール審議を 2 回実施</p> <p>令和 3 年度支部役員を選出するために実施</p>

2020 年度事業計画・実施報告

組織名	東北支部	担当	本間支部長
-----	------	----	-------

2020 年度事業計画（主な重点施策）本組織担当分
<ul style="list-style-type: none"> ・AI、IoT、ビッグデータ等新しい技術に関するSICE企画（2.1） ・支部新設・再編に向けた意向調査に基づく協議の継続（10.1） ・継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守（13.1） <p>支部活動に関する情報共有と円滑な運営を図ることを目的とし、総会1回、専門委員会7回を開催する。支部内における研究者間の学術交流を活性化させるため、各県の大学・高専が持ち回りで計7回の研究集会を開催する。</p> <p>学会への学生勧誘策の一環として、研究発表奨励賞の授与を行う。</p> <p>また、適宜共催事業・協賛事業を実施することで、学会員の枠を超えて広く社会に向けた支部活動の発信、および貢献を行う。</p>

2020 年度事業計画	2020 年度実施結果
<p>●1～6月 東北支部会議（1月）</p> <p>東北支部研究集会（第328回～330回）</p> <p>特別講演会（2月）</p> <p>東北支部優秀発表奨励賞（各研究集会ごと）</p> <p>東北支部専門委員会（第1回～第4回）</p> <p>【後援事業】 学都仙台・宮城サイエンス・デイ2019</p>	<p>●1～6月 新体制の確認、前年の活動報告、及び年間の活動予定について審議を行った。</p> <p>東北支部研究集会 ・第328回（3月16日、Web開催） 演題6件、参加者17名</p> <p>※特別講演会、第329回、第330回は新型コロナウイルス感染予防のため延期</p> <p>各研究集会で発表した30歳以下の登壇者の中から審査によって対象者を選定し、学会への入会を条件として奨励賞を授与した。1月～6月の受賞者は1名。</p> <p>東北支部専門委員会 ・第1回（3月6日～3月13日）議題3件</p>

2020 年度事業計画	2020 年度実施結果
<p>●7～12 月 東北支部研究集会（第 330 回～333 回）</p> <p>東北支部優秀発表奨励賞（各研究集会ごと）</p> <p>【共催事業】 電気自動車エコラン競技大会（8 月）東北支部特別賞（エコラン競技大会）</p> <p>【協賛事業】 中学生のための CG プログラミング講座（12 月）</p> <p>東北支部専門委員会（第 5 回～第 7 回）</p> <p>東北支部運営委委員・顧問・専門委員合同委員会（12 月）</p>	<p>●7～12 月 東北支部研究集会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 329 回（10 月 30 日，山形大学） 演題 11 件，参加者 23 名 ・第 330 回（12 月 2 日，Web 開催） 演題 8 件，参加者 24 名 <p>各研究集会で発表した 30 歳以下の登壇者の中から審査によって対象者を選定し，学会への入会を条件として奨励賞を授与した．7 月～12 月の受賞者は 2 名．</p> <p>特別講演会（12 月 2 日，Web 開催） 演題：「デジタル信号処理の研究と教育を振り返って ～計測と制御の立場から～」 講師：東北大学名誉教授 川又 政征 氏</p> <p>SICE Tohoku オンライン講演会（12 月 22 日，Web 開催） 演題 4 件，参加者 61 名</p> <p>【協賛事業】 計測自動制御学会システム・情報部門 コンピューターショナル・インテリジェンスフォーラム 2020（11 月 28 日）</p> <p>東北支部専門委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 2 回（8 月 5 日～8 月 17 日）議題 4 件 ・第 3 回（10 月 14 日～10 月 21 日）議題 3 件 ・第 4 回（11 月 20 日～11 月 25 日）議題 2 件

2020 年度事業計画・実施報告

組織名	中部支部	担当	金井支部長
-----	------	----	-------

2020 年度事業計画（主な重点施策）本組織担当分
<ul style="list-style-type: none"> ・AI、IoT、ビッグデータ等新しい技術に関するSICE企画（2.1） ・支部新設・再編に向けた意向調査に基づく協議の継続（10.1） ・継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守（13.1）

2020 年度事業計画	2020 年度実施結果
<p>●1～6 月 (1 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支部会議 ・特別講演会 ・支部賞表彰 ・第1回運営委員会・事業委員会 <p>(2 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第51期学業優秀賞審査 <p>(3 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第51期学業優秀賞表彰 <p>(4 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2回運営委員会・事業委員会 <p>(5 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有料講習会1 「ROS入門」 協賛：日本機械学会，日本ロボット学会 <p>(1-6 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支部研究委員会事業 	<p>●1～6 月 (1 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支部会議・特別講演会 1/25(土)名古屋工業大学 演題：「システム制御論散策：ユークリッド環と有向グラフを訪ねて」 講師：愛知工業大学 教授 早川 義一 氏 ・支部賞表彰 1/25(土)名古屋工業大学 第50期支部賞奨励賞表彰（3件） ○三菱重工サーマルシステムズ 大嶽宏之氏(他4名) 「空調機用アクティブフィルタの電流予測制御の開発」 ○岐阜大学 池田 貴公 氏「打音および画像による橋梁点検を可能とするモバイル搭載無人航空機に関する研究」 ○岐阜大学 森田 亮介 氏「ネットワークシステムにおける雑音の解析と制御への有効利用」 ・第1回運営委員会・事業委員会 1/25(土)名古屋工業大学 <p>(2 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第51期学業優秀賞審査を実施（申請17件） <p>(3 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第51期学業優秀賞表彰 17名表彰 <p>(4 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2回事業委員会 4/18(土)オンライン開催（WebEx） 第2回運営委員会は中止 <p>(5 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有料講習会1 → 新型コロナウイルス感染症拡大防止観点から中止（講習会の性格上，オンライン開催では効果が薄れてしまうため） <p>(1-6 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支部研究委員会事業 ○ 第167回教育工学研究会 3/16(月)大同大学滝春校舎S棟 → 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止

2020 年度事業計画	2020 年度実施結果
<p>●7～12 月 (7 月) ・第 3 回運営委員会・事業委員会</p> <p>(9 月) ・中部支部シンポジウム</p> <p>(10 月) ・見学会</p> <p>・第 51 期支部賞審査</p> <p>(11 月) ・有料講習会 2</p> <p>・若手研究発表会</p> <p>・第 4 回運営委員会・事業委員会 ・顧問会議</p> <p>(7-12 月) ・支部研究委員会事業</p>	<p>●7～12 月 (7 月) ・第 2 回運営委員会・第 3 回事業委員会 7/4(土) オンライン開催 (Zoom)</p> <p>(9 月) ・中部支部シンポジウム 各大学において新型コロナウイルスの影響で学生の研究指導が遅れている状況を考慮し、11 月に若手研究発表会と合同で、オンライン開催の形で実施 (詳細は後述).</p> <p>(10 月) ・見学会 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止. ・第 51 期支部賞審査 3 件の応募 (研究賞 2 件, 技術賞 1 件) について審査を実施. → 応募全てを受賞対象とすることに決定. 2021 年 1 月に表彰予定.</p> <p>(11 月) ・有料講習会 実際の PC の操作を伴う実習形式を特徴としていたものであったため、オンライン開催では効果が薄れてしまうことを懸念し中止. ・若手研究発表会 中部支部シンポジウムと合同で、オンライン (HP 掲示) で 11/16(月)-19(木) に実施. ポスター発表 36 件, 企業展示 (動画) 4 件 優秀発表賞 4 名表彰 ・第 4 回運営委員会・事業委員会, 顧問会議 11/14(土) オンライン開催 (Zoom)</p> <p>(7-12 月) ・支部研究委員会事業 ○第 122 回 電機計測制御技術ワーキング セミナー 9/7(月) オンライン開催 (Zoom) 協賛: 電気学会東海支部 ○第 168 回 教育工学研究会 10/16(月) オンライン開催 (Zoom) 優秀学生発表賞 1 件 協賛: 教育システム情報学会東海支部 ○第 123 回 電機計測制御技術ワーキング セミナー 10/27(火) オンライン開催 (Zoom) 協賛: 電気学会東海支部 ○第 124 回 電機計測制御技術ワーキング セミナー 11/7(土) オンライン開催 (Zoom) 協賛: 電気学会東海支部</p>

2020 年度事業計画・実施報告

組織名	北陸支部	担当	小柳支部長
-----	------	----	-------

2020 年度事業計画（主な重点施策）本組織担当分
<ul style="list-style-type: none"> ・AI、IoT、ビッグデータ等新しい技術に関する SICE 企画（2.1） ・支部新設・再編に向けた意向調査に基づく協議の継続（10.1） ・継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守（13.1）

2020 年度事業計画	2020 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <p>1 月 新旧合同運営委員会、支部会議、特別講演会</p> <p>3 月 優秀学生賞の募集・表彰</p> <p>3 月 日本機械学会北陸信越支部 第 57 期総会・講演会（共催）</p> <p>3 月 平成 31 年度北陸地区学生による研究発表会（共催）</p> <p>4 月 第 1 回運営委員会</p> <p>4 月 計測自動制御学会 北陸支部 SICE Annual Conference 学生発表助成の募集</p> <p>6 月 計測自動制御学会北陸支部 SICE Annual Conference 若手奨励賞の募集</p> <p>6 月 計測自動制御学会 北陸支部優秀論文発表賞の募集</p>	<p>●1～6 月</p> <p>1/18 IT ビジネスプラザ武蔵にて開催された新旧合同運営委員会には運営委員が 11 名参加し、10 議題について審議し可決した。支部会議には運営委員を含む会員が 15 名参加し、6 議題について審議し可決した。特別講演会は、大野 和則 氏（東北大学大学院情報科学研究科）による講演「イヌ研究のすゝめ」の発表 1 件で実施された。</p> <p>3/1 北陸地区の高等専門学校、大学、大学院 8 校より合計 11 名の学生を表彰した。</p> <p>3/8 長岡技術科学大学にて開催予定であったが、新型コロナウイルスの拡大に伴い中止された。</p> <p>3/8 石川工業高等専門学校にて開催予定であったが、新型コロナウイルスの拡大に伴い中止された。</p> <p>4/28 WEB 会議(zoom)にて開催され、7 名の運営委員によって、7 の議案が審議され可決した。</p> <p>7/6 募集終了</p> <p>8/3 募集終了</p> <p>9/4 募集終了</p>

2020 年度事業計画	2020 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p>7 月 第 2 回運営委員会（メール審議）</p> <p>8 月 SICE Annual Conference 学生発表助成</p> <p>9 月 電気・情報関係学会北陸支部連合講演会の主催</p> <p>9 月 第 3 回運営委員会の開催</p> <p>9 月 優秀論文発表賞の表彰</p> <p>9 月 SICE Annual Conference 若手奨励賞の表彰</p> <p>11 月 北陸先端大主催の産学官連携行事（Matching HUB）に後援・参加</p> <p>11 月 第 4 回運営委員会の開催（メール審議）</p> <p>11 月 第 1 回北陸支部講演会の開催</p> <p>12 月 日本生体医工学会北陸支部講演会（共催）</p> <p>12 月 第 2 回北陸支部講演会の開催</p> <p>12 月 第 3 回北陸支部講演会の開催</p>	<p>●7～12 月</p> <p>7/1-7/30 2 件の議題について審議し可決された。</p> <p>8/1 規定に基づき 3 名の学生に助成した。</p> <p>福井大学にて一般講演 189 件で実施された(zoom 開催)。</p> <p>9/13 zoom で開催され、8 名の運営委員によって、5 議案が審議され可決した。</p> <p>9/13 規程に基づき 1 名の学生を表彰することを決定した。</p> <p>9/13 規程に基づき 2 名の学生を表彰することを決定した。</p> <p>11/5-11/6 ANA クラウンプラザホテルにて参加者 1150 名で実施された。</p> <p>11/16-23 3 件の議題について審議し可決された。</p> <p>11/20 オンラインにて開催され、参加者 53 名があり、川端邦明氏による講演「遠隔操作ロボットによる廃炉作業を支援・促進するための取組み」の発表件数 1 件で実施された。</p> <p>12/12 オンラインにて参加者 29 名、発表件数 8 件で実施された。</p> <p>12/16 オンラインにて開催され、参加者 10 名があり、益井博史氏による講演「ビブリオバトルってなんだろう 一人を通して本を知る 本を通して人を知る」の発表件数 1 件で実施された。</p> <p>12/20 オンラインにて開催され、参加者 66 名があり、向井正和氏による講演「混合整数計画法を用いた自動車制御」の発表件数 1 件で実施された。</p>

	<p>た制御系設計」 申込者数 360 名, リアルタイム参加者 74 名 2020/01/04 時点の視聴回数 1150 回 6/23(火), 10:00-12:00 「ループ整形, 現代制御 理論の基礎」 申込者数 317 名, リアルタイム参加者 46 名 2020/01/04 時点の視聴回数 587 回</p>
--	--

2020 年度事業計画	2020 年度実施結果
<p>●7～12 月 (8 月) 令和 2 年度 第 3 回運営委員会</p> <p>(9 月) 会員交流企画</p> <p>(10 月) ・計測展 ・令和 2 年度 第 4 回運営委員会</p> <p>(11～12 月) 支部長賞の募集と選考</p> <p>(12 月) ・令和 2 年度 第 5 回運営委員会 ・支部長賞選考委員会</p>	<p>●7～12 月 (8 月) (9 月) ・令和 2 年度 第 3 回運営委員会 Zoom による遠隔開催 交通費等の電子決済導入</p> <p>(10 月) ・令和 2 年度 第 4 回運営委員会 Zoom による遠隔開催 学会インセンティブ活動提案の促し 支部長賞規程の改正(主に准会員対応)</p> <p>(11～12 月) 支部長賞の募集と選考</p> <p>(12 月) ・支部長賞選考委員会 事前検討と Zoom による遠隔開催 合計 5 件の自薦他薦から、奨励賞 2 件を受賞 対象とした。 公募: 2020 年 11 月 1 日(日)～30 日(月) 選考: 2020 年 12 月 16 日(水) 奨励賞: 今林亘(奈良先端科学技術大学院大学) 「フィードバック誤差学習制御における フィルタ設計と強正実性の達成」 奨励賞: 津屋朋花(大阪府立大学) 「予見する風速を用いた浮体式洋上風車の ブレードピッチ角制御」</p> <p>・令和 2 年度 第 5 回運営委員会 Zoom による遠隔開催 イベントの参加費の管理に Peatix 等を利用することを決定 シンポジウム企画準備 本年度決算と次年度人事、予算案審議</p> <p>・委員会開催(運営委員会外) 講習会委員会: ?回 シンポジウム委員会: Zoom 会議 4 回 見学会委員会: Zoom 会議 1 回, メールベース 3 回 支部長賞選考委員会: 事前の検討および 1 回の Zoom 会議</p> <p>・協賛事業 日本材料学会 関西支部 第 15 回若手シンポジウム 2020 年 12 月 5 日(土) オンライン開催</p>

2020 年度事業計画・実施報告

組織名	中国支部	担当	西村支部長
-----	------	----	-------

2020 年度事業計画（主な重点施策）本組織担当分
<ul style="list-style-type: none"> ・AI、IoT、ビッグデータ等新しい技術に関するSICE企画（2.1） ・支部新設・再編に向けた意向調査に基づく協議の継続（10.1） ・継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守（13.1） <p>支部再編を見据えた活性化と効率化のバランスを考慮した諸活動の推進</p>

2020 年度事業計画	2020 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <p>1. 第1回運営委員会 1月中旬, 近畿大学工学部にて開催</p> <p>2. 支部会議（総会） 1月中旬, 近畿大学工学部にて開催</p> <p>3. 主催講演会 1月中旬, 近畿大学工学部にて開催</p> <p>4. 拡大運営委員会 5月中旬, 近畿大学工学部にて開催</p>	<p>●1～6 月</p> <p>1. 第1回運営委員会 1月24日, 近畿大学工学部にて開催</p> <p>2. 支部会議（総会） 1月24日, 近畿大学工学部にて開催</p> <p>3. 主催講演会 1月24日, 近畿大学工学部にて開催 題目：「ひろしま生産技術の会」の取り組み紹介 講師：国枝 潤 氏（株）ヒロテック生産技術研究所</p> <p>4. 拡大運営委員会 5月29日, オンライン（Zoom）にて開催</p>

2020 年度事業計画	2020 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. チュートリアル講演会 8 月ごろ, 開催地未定 2. 計測制御シンポジウム 9 月ごろ, 開催地未定 3. 第 2 回運営委員会 (臨時) 10 月中旬, 必要に応じてメール会議 4. 学術講演会 11 月下旬, 近畿大学工学部にて開催 5. 第 3 回運営委員会 11 月下旬, 近畿大学工学部にて開催 	<p>●7～12 月</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 計測制御シンポジウム 9 月 18 日, オンライン (Zoom) にて開催 講演 題目: 空間内の音響制御とその応用 講師: 雫本 信哉 氏 (九州大学) 題目: 回転機械における軸受の振動診断 講師: 関口 泰久 氏 (近畿大学) 題目: 歯車を用いた機械システムの振動と騒音問題及びその低減策 講師: 李 樹庭 氏 (島根大学) 題目: 精密機器用除振装置の制御 講師: 藤原 靖也 氏 (倉敷化工 (株)) 参加者: 31 名 2. 学術講演会 11 月 28 日, オンライン (Zoom) にて開催 一般講演: 57 件 特別講演 題目: 小惑星探査機はやぶさ、はやぶさ 2 の挑戦 講師: 道上 達広 氏 (近畿大学) 支部学術講演会 優秀賞: 3 名 奨励賞: 8 名 技術賞: 該当なし 3. チュートリアル講演 12 月 18 日, オンライン (Zoom) にて開催 講演 題目: Arduino による制御系の実装と制御 講師: 吉田 和信 氏 (島根大学) 参加者: 79 名

2020 年度事業計画・実施報告

組織名	四国支部	担当	杉野支部長
-----	------	----	-------

2020 年度事業計画（主な重点施策）本組織担当分
<ul style="list-style-type: none"> ・AI、IoT、ビッグデータ等新しい技術に関するSICE 企画（2.1） ・支部新設・再編に向けた意向調査に基づく協議の継続（10.1） ・継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守（13.1） <p>Society5.0におけるSICEの役割明示とそのプロモーションのために、講習会開催や会誌発行による情報発信</p> <p>AI、IoT、ビッグデータ等新しい技術に関するSICE 企画</p> <p>支部新設・再編に向けた意向調査に基づく協議の継続</p> <p>継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守</p>

2020 年度事業計画	2020 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <p>1. <u>支部会議</u> 1 月中、メール会議 議題：支部再編に関する事項 2020 年度の各機関の担当委員選出等</p> <p>2. <u>第 1 回支部運営会議</u> 1 月に高知高専にて開催 議題：2020 年度の引継ぎ事項等 高知高専→阿南高専</p> <p>3. <u>LED 総合フォーラム 2020 in 徳島</u> 2020 年 2 月 29 日に開催 SICE 四国支部は協賛（2019 年も協賛）</p> <p>4. <u>第 1 回支部学術講演会実行委員会</u> 5 月中、メール会議 議題：実行委員会、プログラム委員会メンバーの決定、CFP 案と今後の予定等</p> <p>5. <u>第 1 回電気関係学会四国支部連合大会実行委員会</u> 5 月中に開催 → 6 月に分担金を支給</p>	<p>●1～6 月</p> <p>1. <u>支部会議および 2. 第 1 回支部運営委員会</u> 3 月 28 日（月）に高知工業高等専門学校にて第 1 回四国支部運営委員会を実施した。2019 年度の事業報告および会計報告が行われた。また、2020 年度の事業計画、支部役員選出および予算案について説明が行われ、承認された。支部再編については、2019 年 12 月 7 日（土）に高知工業高等専門学校で行われた拡大実行委員会での議論にもあったように、再編後も四国地区内で別途の学術講演会を開催したいという考えが確認された。</p> <p>3. <u>LED 総合フォーラム 2020 in 徳島</u> 2020 年 2 月 29 日に開催予定だったが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止された。</p> <p>4. <u>第 1 回支部学術講演会実行委員会</u> 5 月に阿南高専内にて、日程、対面型かフルオンライン型について議論し、新型コロナウイルス対応でフルオンライン型の開催が望ましいとの結論になった。日程については、12 月 5 日（土）を予定している。支部内での承認を得られれば、8 月中に案内を開始する。</p> <p>5. <u>第 1 回電気関係学会四国支部連合大会実行委員会</u> 第 1 回実行委員会が 6 月 3 日（水）に Web 会議の形式にて開催され、岡本庶務幹事と松浦会計幹事が出席した。事務局は愛媛大学、今年度大会の会場は愛媛大学城北キャンパスにて対面型で開催予定、新型コロナウイルスの状況が悪化した場合は大会を中止し、予稿集の発行で済ませる。SICE 四国支部は広告依頼係を担当することとなった。また、分担金について確認され、昨年度と同様で SICE として 11 万円の分担を依頼された。</p>

2020 年度事業計画	2020 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p>6. <u>第 2 回電気関係学会四国支部連合大会実行委員会</u> 8 月中、メール会議</p> <p>7. <u>第 2 回支部学術講演会実行委員会</u> 9 月中、メール会議 各委員会の業務分担の確認 9 月末に学術講演会ホームページを公開し、講演受付を開始 目標発表件数は 60 件程度 開催日の一カ月前を原稿締切り予定</p> <p>8. <u>電気関係学会四国支部連合大会</u> (SICE 四国支部共催) 9 月中に開催</p> <p>9. <u>第 37 回センシングフォーラム</u> (SICE 計測部門、四国支部共催) 9 月 3 日～4 日に高知工科大学で開催</p> <p>10. <u>四国移動型&自律型ロボットトーナメント</u> <u>2020 (SMART2020)</u> 毎年 11 月～12 月に開催 SICE 四国支部は毎年後援 →協賛金を支給</p> <p>11. <u>第 3 回電気関係学会四国支部連合大会実行委員会</u> 会 11 月中に開催</p> <p>12. <u>四国支部学術講演会</u> 12 月中、徳島県にて開催 (担当：阿南高専) ※優秀な若手発表者に対して毎年表彰</p> <p>13. <u>第 2 回支部拡大運営委員会</u> 12 月中、四国支部学術講演会にて開催</p>	<p>●7～12 月</p> <p>6. <u>第 2 回電気関係学会四国支部連合大会実行委員会</u> メール会議にて開催日については 9 月 26 日開催に決定されたが、新型コロナ対応で開催中止の可能性も示唆された。</p> <p>7. <u>第 2 回支部学術講演会実行委員会</u> 8 月にメール会議を実施し、以下の 4 つの開催方法を協議した。 ①完全中止 ②対面で開催計画するが、四国エリアにおける新型コロナの状況で中止（講演論文集は発行） ③対面とオンラインのハイブリッドで開催 ④フルオンライン型での開催 協議の結果④のフルオンライン型で開催することが決定し、LMSmoodle を使ったポスターセッション形式の提案を四国支部事務局から提案した。</p> <p>8. <u>電気関係学会四国支部連合大会</u> (SICE 四国支部共催) 9 月 26 日開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、本年度は開催中止した。講演論文集は発行し、協力金は返還されることになった。</p> <p>9. <u>第 37 回センシングフォーラム</u> (SICE 計測部門、四国支部共催) 高知工科大学主管で 9 月 3 日 4 日にオンライン形式にて開催された。</p> <p>10. <u>四国移動型&自律型ロボットトーナメント</u> <u>2020 (SMART2020)</u> 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、本年度は開催中止され、来年度での開催方法への協議が検討されることになった。</p> <p>12. <u>四国支部学術講演会</u> 阿南高専主管で 12 月 12 日にオンライン形式で開催された。フルオンラインではあったが、42 件の発表があり、ビデオ会議システム zoom による開会式・特別講演・閉会式ならびに LMSmoodle によるポスターセッションとオンラインチャットによる質疑応答も活発であった。</p> <p>13. <u>第 2 回支部拡大運営委員会</u> 12 月 12 日、四国支部学術講演会閉会式の後に zoom によるオンライン形式で開催し、今年度の振り返りと来年度への引継ぎ等の協議をした。</p>

2020 年度事業計画・実施報告

組織名	九州支部	担当	松尾支部長
-----	------	----	-------

2020 年度事業計画（主な重点施策）本組織担当分
<ul style="list-style-type: none"> ・ AI、IoT、ビッグデータ等新しい技術に関する SICE 企画 (2.1) ・ 支部新設・再編に向けた意向調査に基づく協議の継続 (10.1) ・ 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守 (13.1) <p>Society5.0 における SICE の役割明示とそのプロモーションのために、講習会開催や会誌発行による情報発信</p> <p>AI、IoT、ビッグデータ等新しい技術に関する SICE 企画</p> <p>支部新設・再編に向けた意向調査に基づく協議の継続</p> <p>継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守</p>

2020 年度事業計画	2020 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和 2 年度九州支部第 1 回運営委員会 (新旧合同) ・ 九州支部第 50 期支部 顧問会議 (新旧合同) ・ 九州支部第 50 期支部会議 ・ 支部奨励賞発表 ・ 産業応用セミナー ・ 令和 2 年度九州支部第 2 回運営委員会 ・ 研究会 ・ 講演会 ・ 連携団体、組織、学会との協賛事業 	<p>●1～6 月</p> <p>1 月 25 日 令和 2 年度九州支部第 1 回拡大運営委員会 (新旧合同) を実施し、今年度の活動計画を立案した.</p> <ul style="list-style-type: none"> a) SICE 九州フォーラム b) 九州支部学術講演会 特別講演会 学生発表交流会 <p>1 月 25 日 九州支部第 50 期支部会議を開催した. なお、支部奨励賞表彰は実施せず賞を郵送した.</p> <p>6 月 28 日に令和 2 年度九州支部第 2 回運営委員会を実施した. 主な内容は以下のとおりである.</p> <ul style="list-style-type: none"> a) 会計報告、SICE 九州フォーラム、第 1 回支部協議会報告、九州支部 50 周年記念／第 40 回九州支部学術講演会、 b) 第 39 回九州支部学術講演会について

2020 年度事業計画	2020 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SICE 九州フォーラム ・ 令和 2 年度九州支部第 1 回事業委員会 ・ 令和 2 年度九州支部第 3 回運営委員会 ・ 第 39 回九州支部学術講演会 (特別講演会と学生発表交流会を併設) ・ 令和 2 年度九州支部第 2 回事業委員会 ・ 国際会議 ICT-ROBOT2020 の韓国 ICROS との共催 ・ 計測制御エンジニア資格試験 ・ 研究会 ・ 講演会 ・ 連携団体, 組織, 学会との協賛事業 	<p>●7～12 月</p> <p>9 月下旬に令和 2 年度九州支部第 1 回事業委員会およびメール審議を実施し, 学術講演会プログラムを決定した.</p> <p>10 月 23 日に令和 2 年度九州支部第 3 回運営委員会を実施した. 主な内容は以下のとおりである.</p> <ul style="list-style-type: none"> a) 会計報告、事業報告、第 3 回支部協議会報告, 九州支部 50 周年記念/第 40 回九州支部学術講演会, 来年度事業計画 b) 第 39 回支部学術講演会 <p>10 月 18 日に SICE 九州フォーラム「海外で活躍する若者たち: コロナを乗り切る留学・就職・長期滞在のノウハウ」を Zoom にて開催した.</p> <p>11 月 28 日～29 日に第 39 回九州支部学術講演会を Zoom にて開催した. 講演申込件数 49 件 学生発表交流会申込件数 8 件 特別講演 1 件</p> <p>11 月下旬～12 月上旬に令和 2 年度九州支部第 2 回事業委員会およびメール審議を実施し, 学生発表交流会受賞者・支部奨励賞受賞者・本部奨励賞への推薦者を決定した.</p>

2. 2020 年度に実施した個別事業実施報告 (1～12 月)

2020 年度に実施した個別事業の詳細を、定款第 4 条に定められた本会の目的を達成するための事業ごとに分けて、以下に示します。(敬称略。開催場所・組織名などは一部省略。発表件数・参加者などは一部省略。)

1. 研究集会, 講演会及び教育・育成のための講習会等

実施月日	行事・事業・会議（・委員会）などの名称	開催場所	発表 件数	参加 者数
企画委員会				
6月6日	第1回SICEポストコロナ未来社会ワークショップ	Web開催	6	307
7月22日	第2回SICEポストコロナ未来社会ワークショップ	Web開催	5	123
8月29日	第3回SICEポストコロナ未来社会ワークショップ	Web開催	4	239
9月11日	第4回SICEポストコロナ未来社会ワークショップ	Web開催	5	142
10月30日	第5回SICEポストコロナ未来社会ワークショップ	Web開催	5	67
11月28日	第6回SICEポストコロナ未来社会ワークショップ	Web開催	6	76
事業会員サービス委員会				
1月24日	SICE安全のための 計測・制御・システムを考える会 第65回サロン	慶應義塾大学 日吉キャンパス	1	14
6月23日	SICE安全のための 計測・制御・システムを考える会 第66回サロン	Web開催	1	23
7月16日	ICE安全のための 計測・制御・システムを考える会 第67回サロン	Web開催	1	24
8月1日	ICE安全のための 計測・制御・システムを考える会 第68回サロン	Web開催	1	27
9月30日	ICE安全のための 計測・制御・システムを考える会 第69回サロン	Web開催	1	27
10月13日	ICE安全のための 計測・制御・システムを考える会 第70回サロン	Web開催	1	23
11月18日	ICE安全のための 計測・制御・システムを考える会 第71回サロン	Web開催	1	23
12月3日	ICE安全のための 計測・制御・システムを考える会 第72回サロン	Web開催	1	23
教育・認定委員会				
5月8日	プロセス新塾 2019年度第5回スクーリング	Web開催	—	44
10月9日	プロセス新塾 2020年度第1回スクーリング	Web開催	—	50
11月13日	プロセス新塾 2020年度第2回スクーリング	Web開催	—	46
12月11日	プロセス新塾 2020年度第3回スクーリング	Web開催	—	37
計測部門				
2月18日	力学量計測部会行事 第112回部会行事:力学量計測部会講演会・見学会	東京都立産業技術研究センター	—	12
9月3・4日	第37回センシングフォーラム計測部門大会	Web開催 (当初は高知工科大学)	40	79
12月18日	第25回パターン計測シンポジウム:第105回パターン計測研究会	Web開催	5	7
制御部門				
1月30日	Cyber-Physical & Human Systems 調査研究会 第2回講演会 サイバーフィジカルシステムと人間社会・AI	上智大学四谷キャンパス 2-309教室	4	
3月1日	第7回制御部門マルチシンポジウム 「Cyber-Physical & Human/Social System の最前線」	徳島大学	5	中止
3月2～5日	第7回制御部門マルチシンポジウム	徳島大学	307	422
3月2～5日	チュートリアル「DXを実現する実践型AI技術:AIの社会実装に立ちはだかる壁とその壊し方」	徳島大学	4	中止
3月2～5日	第7回制御部門マルチシンポジウム タイトル「超スマート社会実現のためのシステム」	徳島大学	1	中止

	制御：理論から実装まで」(超スマート社会調査研究会と共催)			
3月2～5日	第7回制御部門マルチシンポジウム OSと一般セッション(プラントモデリング部会)	徳島大学	25	中止
3月2～5日	第7回制御部門マルチシンポジウム チュートリアル(プラントモデリング部会)	徳島大学	4	中止
3月2～5日	第7回制御部門マルチシンポジウム 適応学習制御シンポジウム	徳島大学	14	中止
3月2～5日	第7回制御部門マルチシンポジウム 第36回誘導制御シンポジウム	徳島大学	17	中止
3月2～5日	第7回制御部門マルチシンポジウム OS4件「真なるダイナミクスの追求による次世代システム制御理論の構築(1)～(4)」 (真なるダイナミクスの追求による次世代システム制御理論調査研究会)	徳島大学	19	中止
3月2～5日	第7回制御部門マルチシンポジウム ワークショップ Cyber-Physical & Human/Social Systemsの最前線 (Cyber-Physical & Human Systems 調査研究会)	徳島大学	6	中止
3月3～5日	SICE International Symposium on Control 2020	徳島大学	8	中止
7月7日	真なるダイナミクスの追求による次世代システム制御理論の構築 Part 1	Web 開催	6	105
7月15日	真なるダイナミクスの追求による次世代システム制御理論の構築 Part 2	Web 開催	5	
7月23日	真なるダイナミクスの追求による次世代システム制御理論の構築 Part 3	Web 開催	6	
7月31日	真なるダイナミクスの追求による次世代システム制御理論の構築 Part 4	Web 開催	6	
9月23～26日	SICE Annual Conference 2020 OS2件の予定(真なるダイナミクスの追求による次世代システム制御理論調査研究会)	Web 開催	10	-
9月23～26日	SICE Annual Conference 2020 OS1件 Navigation, Guidance and Control of Vehicles and Aerospace Systems - Theory and Applications (航法誘導制御技術調査研究会)	Web 開催	7	
9月23～26日	SICE Annual Conference 2020 OS Theoretical Developments and New Application Area of Adaptation and Learning Control (データ駆動型社会を支える適応学習制御調査研究会)	Web 開催	3	
9月29日	プラントモデリング部会第1回研究会	Web 開催	3	62
9月29～30日	SICE セミナー「モデルベース制御系設計～モデリングから制御系設計までを系統的に学ぶ～」2020	Web 開催 (Zoom ウェビナー)	2	89
10月26日	DML Lunch Webinar 行列完成問題とその解法	Web 開催	1	15
11月21日	第63回自動制御連合講演会 OS スマート・適応制御技術の理論と応用 (データ駆動型社会を支える適応学習制御調査研究会)	Web 開催	5	30
11月21日	第63回自動制御連合講演会 企画セッション ガウス過程回帰に基づく状態推定とフィードバック制御 (データ駆動型社会を支える適応学習制御調査研究会)	Web 開催	2	50
11月22日	第63回自動制御連合講演会 OS	Web 開催	15	

	次世代制御理論を目指して (真なるダイナミクスの追究による次世代システム制御理論調査研究会)			
11月22日	第63回自動制御連合講演会 OS 確率システム制御理論のブレイクスルーを目指して (真なるダイナミクスの追究による次世代システム制御理論調査研究会)	Web 開催	4	
11月22日	第63回自動制御連合講演会 OS 人のためのシステム制御論：人間機械系の協調制御から社会システム管理まで (Cyber-Physical & Human Systems 調査研究会)	Web 開催	9	
11月21 ~22日	第63回自動制御連合講演会 OS 機械学習と調和する制御理論 (機械学習と調和する制御理論調査研究会)	Web 開催	9	50
11月21日	第63回自動制御連合講演会 OS 宇宙機・航空機の制御 ―理論から応用― (航法誘導制御技術調査研究会)	Web 開催	3	
11月22日	第63回自動制御連合講演会 SICE 企画セッション チュートリアル講演 (プラントモデリング部会)	Web 開催	3	
12月1日	SICE セミナー「モデル予測制御」2020	Web 開催 (Zoom ウェビナー)	1	82
12月22日	第1回講義会講義会講義会 擬似乱数のはなし―最新の研究成果から―	Web 開催	1	
システム・情報部門				
1月25日	スマートワールド実現のための新たなシステムズアプローチの実展開を目指す調査研究会第1回研究会	同志社大学	1	13
1月25日 ~26日	第32回 自律分散システム・シンポジウム	芝浦工業大学	38	81
3月2~5日 (5/31 まで オンライン)	第47回 知能システム・シンポジウム	Web 開催	40	62
3月9日	第62回 システム工学部会研究会	中止 (発表は成立)	8	18
3月15 ~17日	第22回 社会システム部会研究会	ホテルミヤヒラ	51	80
6月13日	スマートワールド実現のための新たなシステムズアプローチの実展開を目指す調査研究会第2回研究会	Web 開催	1	15
7月31日	知能分子ロボティクス調査研究会第1回研究会	Web 開催	3	33
8月1日	スマートワールド実現のための新たなシステムズアプローチの実展開を目指す調査研究会第3回研究会	Web 開催	1	15
8月24日	第23回 社会システム部会研究会	Web 開催	55	66
8月31日	自律分散サマースクール	Web 開催	4	60
9月12日 ~13日	境界と関係性を視座とシステムズアプローチ調査研究会第1回研究会	Web 開催	12	27
10月6日	知能分子ロボティクス調査研究会第2回研究会	Web 開催	3	27
10月17日	スマートワールド実現のための新たなシステムズアプローチの実展開を目指す調査研究会第4回研究会	Web 開催	1	17
11月8日 ~9日	第4回分子ロボティクス年次大会	Web 開催	48	67
11月14日	第67回自律分散システム部会研究会	Web 開催	2	23

11月15日 ～17日	システム・情報部門学術講演会 SSI2020	Web 開催	199	268
11月28日	CI フォーラム 2020	Web 開催	3	162
12月5日	スマートワールド実現のための新たなシステム ズアプローチの実展開を目指す調査研究会第4回 研究会	Web 開催	3	17
12月9日	知能分子ロボティクス調査研究会第3回研究会	Web 開催	3	24
12月13日	境界と関係性を視座とシステムズアプローチ調査 研究会第2回研究会	Web 開催	2	24
システムインテグレーション部門				
1月12日～ 1月15日	2020 IEEE/SICE International Symposium on System Integration (SII 2020)	Hawaii Convention Center	243	386
1月15日	第7回 i-Construction システム学寄付講座セミナー	東京大学	2	27
1月18日	ケア工学ハッカソン	慶應義塾大学	3	20
3月2日	日本バーチャルリアリティ学会ハプティクス研究 委員会第24回研究会	Web 開催	13	27
3月15,16 日	第25回ロボティクスシンポジウム	Web 開催	83	188
3月20日～ 3月22日	ロボカップジャパンオープン	愛知県国際展示場	—	中止
3月23日	共創システム部会第35回部会研究会	早稲田大学	14	23
3月23日	NICT 見学会(ユニバーサルデザインに活かす最新 無線伝送技術とデータ活用技術)	国立研究開発法人情 報通信研究機構本部	—	中止
4月11日	第52回望遠鏡および観測装置会議	大学コンソーシアム 京都	—	中止
6月28日, 7月5日, 8 月9日	第20回レスキューロボットコンテスト	神戸サンボーホール	21	中止
7月11日	第52回望遠鏡および観測装置会議	Web 開催	12	47
8月24日～ 8月28日	RT ミドルウェアサマーキャンプ 2020	Web 開催	5	11
10月9日	「視覚触覚に基づくロボットマニピュレーション」 講演会	Web 開催	12	92
10月9日	計測自動制御学会 SI 部門ソフトマテリアル応用部 会研究会 (講演会)	Web 開催	12	48
12月5日	第20回レスキューロボットコンテスト代替企画 RRC-コロナに負けるなキャンペーン	Web 開催	1	161
12月5日	レスキュー工学シンポジウム	Web 開催	3	71
12月15日	マニピュレーション冬の学校 2020	Web 開催	2	292
12月16日 ～12月18 日	第21回計測自動制御学会システムインテグレーション 部門講演会 (SI 2020)	Web 開催	766	1136
12月16日	RT ミドルウェアコンテスト 2020	Web 開催	5	40
12月17日	ソフトマテリアル応用部会 研究会 (講演会)	Web 開催	1	45
12月17日	RSNP を利用したロボットサービスコンテスト 2020	Web 開催	3	20
産業応用部門				
1月22日	新たな価値創造 WG (産業ネットワーク・システム部会)	バンドウイット コーポレーション 日本支社	3	13
2月12日	新たな価値創造 WG (産業ネットワーク・システム部会)	SICE 事務局	1	6

3月18日	新たな価値創造 WG (産業ネットワーク・システム部会)	Web 開催	2	10
5月27日	新たな価値創造 WG (産業ネットワーク・システム部会)	Web 開催	2	4
6月4日	新たな価値創造 WG (産業ネットワーク・システム部会)	Web 開催	1	4
6月23日	新たな価値創造 WG (産業ネットワーク・システム部会)	Web 開催	1	6
9月10日	新たな価値創造 WG (産業ネットワーク・システム部会)	Web 開催	2	26
9月23日 ～26日	SICE 2020 Special Panel Session: International Symposium on Safety and Secure Control System	WEB 開催	6	50
9月23日 ～26日	SICE2020 Organized Sessions: Innovation for New Value Creation in Manufacturing	WEB 開催	10	44
9月24日	新たな価値創造 WG (産業ネットワーク・システム部会)	Web 開催	1	2
10月15日	新たな価値創造 WG (産業ネットワーク・システム部会)	Web 開催	1	3
10月22日	新たな価値創造 WG (産業ネットワーク・システム部会)	Web 開催	1	3
11月3日	新たな価値創造 WG (産業ネットワーク・システム部会)	Web 開催	1	4
11月5日	産業応用部門大会 制御部門 /産業応用部門合同企画OS・産業 ネットワーク・システム シンポジウム	WEB 開催	7	40
11月13日	新たな価値創造 WG (産業ネットワーク・システム部会)	Web 開催	1	3
ライフエンジニアリング部門				
12月2 ～3日	ライフエンジニアリング部門シンポジウム 2020	Web 開催	20	42
北海道支部				
3月9日	第52回 計測自動制御学会北海道支部学術講演会	北海道大学	12	13
東北支部				
3月16日	東北支部 第328回 研究集会	Web 開催	6	17
10月30日	東北支部 第329回 研究集会	山形大学	11	23
12月2日	東北支部 第330回 研究集会	Web 開催	8	24
12月2日	特別講演会	Web 開催	1	32
12月22日	SICE Tohoku オンライン講演会	Web 開催	4	61
中部支部				
3月16日	第167回 教育工学研究会	中止	17	中止
9月7日	第122回 電機計測制御技術ワーキングセミナー	Web 開催	1	77
10月16日	第168回 教育工学研究会	Web 開催	6	16
10月27日	第123回 電機計測制御技術ワーキングセミナー	Web 開催	1	71
11月7日	第124回 電機計測制御技術ワーキングセミナー	Web 開催	14 うち 動画 発表 6	56
11月16日 ～19日	中部支部シンポジウム&若手研究発表会 2020	Web 開催	36	58
北陸支部				

1月18日	北陸支部 特別講演会 「イヌ研究のすゝめ」 講師：「大野 和則 氏（東北大学大学院情報科学研究科）」	IT ビジネスプラザ武蔵	1	15
9月13日	電気・情報関係学会北陸支部連合大会（主催）	オンライン開催		
11月5日 ～6日	Matching HUB Kanazawa 2020 Autumn （後援）（主催：北陸科学技術先端大学院大学 （JAIST）産学官連携総合推進センター）	ANA クラウンプラザ ホテル金沢	102	1150
11月20日	第1回北陸支部講演会 「遠隔操作ロボットによる廃炉作業を支援・促進 するための取組み」 講師：川端 邦明 氏（日本原子力研究開発機構檜葉 遠隔技術開発センター 遠隔基盤整備室 室長）	Web 開催	1	53
12月13日	日本生体医工学会北陸支部講演会（共催）	Web 開催	8	29
12月16日	第2回北陸支部講演会 「混合整数計画法を用いた自動車制御」 講師：向井 正和 氏（工学院大学 准教授）	Web 開催	1	66
12月20日	第3回北陸支部講演会 「ビブリオバトルってなんだろう 一人を通して 本を知る 本を通して人を知る」 講師： 益井 博史 氏（工学院大学）	Web 開催	1	10
関西支部				
1月10日	SICE 関西支部・ISCIE シンポジウム	大阪府立大学	48	75
1月10日	特別講演会	大阪府立大学	1	約 60
5月26日	オンライン勉強会	Web 開催	1	約 384
6月9日	オンライン勉強会	Web 開催	1	約 360
6月23日	オンライン勉強会	Web 開催	1	約 317
随時	オンライン勉強会の動画	(動画拝見)	1	120 0人 以上
中国支部				
1月24日	特別講演会	近畿大学	1	30
9月18日	計測制御シンポジウム2020 「振動と騒音の計測と制御」	Web 開催	4	20
11月28日	第29回計測自動制御学会中国支部学術講演会	Web 開催	60	155
12月18日	チュートリアル講演会2020 「Arduino による制御系の実装と制御」	Web 開催	1	80
九州支部				
10月18日	SICE 九州フォーラム2020	Web 開催	8	37
11月28日 ～29日	第39回計測自動制御学会九州支部学術講演会	Web 開催	57	104
補足事項	SICE 九州フォーラムの Web 開催で寄付募集の試 みを行い、3,000 円×12=36,000 円の寄付があっ た。			

2. 調査・研究及び資料収集

実施時期	書名、特集などの名称	記事・論文件数など	総ページ	発行部数
会誌出版委員会				

1月	計測と制御 第59巻第1号 特集：臨床現場を支えるリハビリテーション技術の最前線	19	84	5,890
2月	計測と制御 第59巻第2号 特集：SWARM：生物の群行動に学ぶ群ロボットシステム	14	72	5,820
3月	計測と制御 第59巻第3号 特集：ロバスト制御：実システムへの実装と最近の話題	13	82	5,860
4月	計測と制御 第59巻第4号 特集：保健医療・介護における人と情報技術の未来	13	56	5,800
5月	計測と制御 第59巻第5号 特集：LiDAR と Lidar — Hard Target と Soft Target を計測する技術と課題 —	18	78	5,800
6月	計測と制御 第59巻第6号 特集：オリンピック・パラリンピックを感じ、支えるためのシステム・情報技術	15	64	5,760
7月	計測と制御 第59巻第7号 特集：ドローンシステムの発展と応用	17	88	5,760
8月	計測と制御 第59巻第8号 特集：制御理論とデータ駆動科学で挑む流体制御・流体観測	15	96	5,740
9月	計測と制御 第59巻第9号 特集：広がるオープンライフデータの可能性と社会	18	74	5,740
10月	計測と制御 第59巻第10号 特集：スポーツパフォーマンスに貢献する三次元計測技術	17	84	5,770
11月	計測と制御 第59巻第11号 特集：アクティブソフトマテリアルのロボティクス・メカトロニクス応用へ向けて	22	112	5,800
12月	計測と制御 第59巻第12号 特集：スマートワールドへの実展開を目指す新たなシステムズアプローチ	19	100	5,830
和文論文集(計測自動制御学会論文集)				
発行回数：12回 総ページ数：580ページ 総投稿論文数：94 購読数：815				
1月	計測自動制御学会論文集 Vol.56(2020), No.1 特集：第19回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会特集号	特集号論文：5編	36	1,110
2月	計測自動制御学会論文集 Vol.56(2020), No.2	一般論文：4編 ショート・ペーパー：1編 開発・技術ノート：1編	36	1,110
3月	計測自動制御学会論文集 Vol.56(2020), No.3 特集：第6回制御部門マルチシンポジウム論文特集号	特集号論文：13編	114	1,110
4月	計測自動制御学会論文集 Vol.56(2020), No.4	一般論文：8編	70	1,110
5月	計測自動制御学会論文集 Vol.56(2020), No.5	一般論文：8編	68	1,110
6月	計測自動制御学会論文集 Vol.56(2020), No.6	一般論文：4編	34	1,110
7月	計測自動制御学会論文集 Vol.56(2020), No.7	一般論文：4編	34	1,110
8月	計測自動制御学会論文集 Vol.56(2020), No.8	一般論文：3編	30	1,080

		ショート・ペーパー：1編		
9月	計測自動制御学会論文集 Vol.56(2020), No.9	一般論文：3編	30	1,080
10月	計測自動制御学会論文集 Vol.56(2020), No.10	一般論文：4編	40	1,080
11月	計測自動制御学会論文集 Vol.56(2020), No.11	一般論文：4編	36	1,080
12月	計測自動制御学会論文集 Vol. 56(2020), No. 12 特集：第25回ロボティクスシンポジウム特集号	特集号論文：5編	52	1,080
英文論文集(JCMSI)				
発行回数：6回 総ページ数：308ページ 総論文投稿数：73 購読数：320				
1月	SICE Journal of Control, Measurement, and System Integration Vol.13(2020), No.1	一般論文：3編	22	420
3月	SICE Journal of Control, Measurement, and System Integration Vol.13(2020), No.2	一般論文：3編	26	420
5月	SICE Journal of Control, Measurement, and System Integration Vol.13(2020), No.3 Special Issue on SICE Annual Conference 2019	特集号論文：15編	116	420
7月	SICE Journal of Control, Measurement, and System Integration Vol.13(2020), No.4	一般論文：6編	50	420
9月	SICE Journal of Control, Measurement, and System Integration Vol.13(2020), No.5	一般論文：5編	42	400
11月	SICE Journal of Control, Measurement, and System Integration Vol.13(2020), No.6	一般論文：6編	52	400
ライフエンジニアリング部門				
12月3日	ライフエンジニアリング部門 研究奨励賞1件 豊吉巧也(立命館大学)	オンライン	賞状	1万円
12月3日	ライフエンジニアリング部門 学生奨励賞2件 土井公一朗(千葉大学)、井田直貴(東京電機大学)	オンライン	賞状	各5千円

3. 技術者の資格認定・付与

実施月日	認定資格などの名称 合格者名など	開催場所	受験者数	合格者数
	(2020年度は計測制御エンジニア試験制度見直しのため休止)			

4. 啓発・普及のための体験活動等

実施時期	行事・事業・会議(・委員会)など名称	開催場所	発表件数	参加者数
9月22日	SICE WEEK2020	Rajamangala University of Technology Lanna Chiang Mai (Doisaket Campus)	2	104
	(企業体験セミナーは新型コロナウイルス感染症拡大のため中止)			

5. 表彰及びコンクール

実施時期	顕彰などの名称 受賞者名・受賞論文/授賞理由など	開催場所	賞品	副賞
学会賞委員会				
2月28日	【2019年度学術奨励賞】 研究奨励賞・10名：	東京工業大学キャンパスイノベーション	賞状 楯	無

	<p>(1)佐藤和人「ルネバルグレンズを用いたテラヘルツレーダーの研究」、第36回センシングフォーラム 計測部門大会</p> <p>(2)小島 治「変位分布計測に基づく圧縮性を考慮した非一様な剛性率分布の推定」第36回センシングフォーラム 計測部門大会</p> <p>(3)安井浩太郎「ムカデの歩行・遊泳間の遷移に内在する自律分散制御則」、第31回自律分散システム・シンポジウム</p> <p>(4)顔 聡「支持脚接地点の滑り接触を考慮した2脚受動歩行の脚部揺動による安定化」、第19回システムインテグレーション部門講演会</p> <p>(5)古庄泰隆「ニューラルネットワークの埋め込み安定性と汎化能力の関係」、第14回コンピューターショナル・インテリジェンス研究会</p> <p>(6)野呂恭平「乳房X線画像における画像診断が難しい腫瘍に対する深層学習を用いた良悪性鑑別の試み」、第14回コンピューターショナル・インテリジェンス研究会</p> <p>(7)中島 允「超音波ミストビームによる遠隔冷覚提示」、第19回システムインテグレーション部門講演会</p> <p>(8)栗田泰輔「非平行軸配置を有する劣駆動関節機構の振動解析と非把持マニピュレーションへの適用」、第19回システムインテグレーション部門講演会</p> <p>(9)中山賢斗「凸分解を用いたロボットによる組立作業のためのツール選択手法」、第19回システムインテグレーション部門講演会</p> <p>(10)中野智文「運動イメージ療法支援システムのための Multi-ROI 3D Convolutional Neural Networks による脳機能分類の提案」、第19回システムインテグレーション部門講演会</p> <p>技術奨励賞・5名：</p> <p>(1)池 勇勲「人工物環境における直線情報を用いたカメラの外部パラメータ推定法」、第19回システムインテグレーション部門講演会</p> <p>(2)岡部圭佑「複合現実型視覚情報と振動触覚情報の提示による作業支援」、第19回システムインテグレーション部門講演会</p> <p>(3)齋藤 聡「衝撃応答制御のための応答適応型可変剛性機構の提案」、第19回システムインテグレーション部門講演会</p> <p>(4)Dabae KIM「正距円筒オブティカルフローパターンを均等化した E-CNN による全天球カメラの回転推定の精度向上」、第19回システムインテグレーション部門講演会</p> <p>(5)小山 渚「準静的環境下での複数ロボットによる地図更新」、第19回システムインテグレーション部門講演会</p>	<p>センター 国際会議室 ⇒新型コロナウイルス感染拡大を受け贈呈式は中止、賞状・楯は郵送とした 受賞者は会誌・Webにて公開</p>		
10月30日	<p>【2020年度学会賞】 功績賞・1名： 山本 裕（京都大学名誉教授）</p>	<p>新型コロナウイルス感染拡大を受け贈呈式実開催は中止 賞状等の郵送後、12</p>	賞状楯	なし

	<p>論文賞・6件20名： (蓮沼賞) 「GNSS ドップラを活用した都市部におけるレーンレベル位置推定の実現」 名城大学・荒川 拓哉、高野瀬 碧輝、 滝川 叶夢、目黒 淳一 (武田賞) 「連続時間 ADMM の提案と受動性に基づく収束性解析」 (株)豊田中央研究所・宮野 竜也、 東京工業大学・山下 駿野、畑中 健志 (株)豊田中央研究所・柴田 一騎、神保 智彦 東京大学・藤田 政之 (論文賞) 「PWM 型入力サンプル値系における多入力厳密線形化法」 宇都宮大学・鈴木 雅康、平田 光男 (友田賞) 「ヒューマンサービスにおけるサービス提供者の異動影響分析」 岩手県立大学・後藤 裕介 大阪府立大学・森田 裕之 大東文化大学・白井 康之 (論文賞) 「アクチュエータの弱さによる跳躍安定化メカニズム」 大阪大学・田中 颯樹、増田 容一、石川 将人 (論文賞) 「FDT2 Based Flow Configuration Software on IIoT Environment」 Yokogawa Electric Corporation・Akio ITO Yokogawa Engineering Asia, Singapore・CHAN Sin Wai Jason</p> <p>技術賞・3件16名： 「高炉溶銑温度制御ガイダンスの実用化」 JFE スチール(株)・橋本 佳也 JFE テクノリサーチ(株)・澤 義孝 京都大学・加納 学 JFE スチール(株)・北村 洋平、大橋 知弘、 岡本 悠揮、海瀬 達哉、益田 稜介</p> <p>「紫外線検知式火炎検出センサの感度波長調整技術の開発」 アズビル(株)・片桐 宗和、中島 有紀、 住吉 啓介、築田 菜々子</p> <p>「情報物理セキュリティを具現化した USB メモリ消去装置の開発と製品化」 横河電機(株)・新井 貴之、仲矢 実 (株)アルテクス・宇野 智貴、坂本 大輔</p> <p>著述賞・2件15名： 「実習で学ぶ モデルベース開発ー『モデル』を 共通言語とするV字開発プロセスー」</p>	<p>月23日、オンラインにて贈呈式を実施</p>	
--	---	---------------------------	--

	<p>山本 透 (編著) 脇谷 伸、原田 靖裕、香川 直己、足立 智彦、 沖 俊任、原田 真悟 (著)</p> <p>「基礎からわかる 自動車エンジンのモデルベース制御」 金子 成彦 (監修)、山崎 由大 (編著) 大森 浩充、平田 光男、水本 郁朗、 一柳 満久、松永 彰生、神田 智博 (共著)</p> <p>新製品開発賞・1社： 「流量計測制御機能付電動二方弁 ACTIVAL™」 アズビル株式会社</p>			
10月30日	<p>【2020年度フェロー称号授与】 フェロー称号：4名 新井 健生、新井 史人、太田 快人、鈴木 達也、 松村 基史</p>	<p>賞状等の郵送後、12月23日、オンラインにて贈呈式を実施</p>	<p>楯 バッ ジ</p>	<p>なし</p>
9月26日	<p>【2020 SICE Annual Conference Award】：3名 (International Award: Basic Technology) Chen, Weiya; Sawaragi, Tetsuo; Hiraoka, Toshihiro 「Driver's Mental Workload Measurement Concerning Cognitive Channels」 (International Award: Application) Koike, Masakazu; Ishizaki, Takayuki; Imura, Jun-ichi 「Monotonicity Analysis for Optimal Scheduling of Storage Batteries and Power Generators - Considering Ramp Limit of Thermal Power Plant -」 (Young Author's Award) Sasaki, Yasuo 「Design of Observers for the Flow around a Cylinder using Machine Learning Techniques」</p>		<p>賞状 楯</p>	<p>なし</p>
1月17日	<p>【SICE International Young Author's Award for SII 2020】：4名 Uehara, Akira, University of Tsukuba 「Lateral Swing Support System for Parkinsonism Patients with Freezing of Gait」 Koizumi, Shoichiro, Tokyo Institute of Technology 「Soft Robotic Gloves with Thin McKibben Muscles for Hand Assist and Rehabilitation」 Nakazawa, Shintaro, Shibaura Institute of Technology 「Announcement Capture System in Real Environments Using Recurrent Neural Network」 Wakabayashi, Youki, Tokyo Institute of Technology 「Design of a Guide Pulley Achieving Identical Wire Path Length for a Double Joint Mechanism」</p>	<p>Hawaii, USA</p>	<p>賞状</p>	<p>賞金</p>
9月23日	<p>【SICE International Young Author's Award for SICE 2020】：1名 Sota Wada, Tokyo City University</p>	<p>賞状郵送</p>	<p>賞状</p>	<p>賞金</p>

	「Model predictive formation control for quadcopters with towing cables」			
10月25日	<p>【SICE International Young Author's Award for IROS 2020】：6名 室岡貴之，東京大学 「Diabolo Orientation Stabilization by Learning Predictive Model for Unstable Unknown-Dynamics Juggling Manipulation」 岡本耕太，京都大学 「Disappearance of chaotic attractor of passive dynamic walking by stretch-bending deformation in basin of attraction」 藤倉大貴，東北大学 「Toward Enabling a Hundred Drones to Land in a Minute」 Turan Bilal，東京大学 「Detection and Control of Air Liquid Interface With an Open-Channel Microfluidic Chip for Circulating Tumor Cells Isolation From Human Whole Blood」 江口僚，慶應義塾大学 「Shift-Adaptive Estimation of Joint Angle Using Instrumented Brace With Two Stretch Sensors Based on Gaussian Mixture Models」 Yusheng Wang，東京大学 「ACMarker: Acoustic Camera-based Fiducial Marker System in Underwater Environment」</p>	オンライン開催 (11月12日)	賞状	賞金
12月22日	<p>【SICE International Young Author's Award for IEEE CDC 2020】：4名 Tatsuya Ibuki, Meiji University 「Distributed Collision-Free Motion Coordination on a Sphere: A Conic Control Barrier Function Approach」 Kenta Hoshino, Kyoto University 「Finite-Horizon Control of Nonlinear Discrete-Time Systems with Terminal Cost of Wasserstein Distance」 Yurid Nugraha, Tokyo Institute of Technology 「Dynamic Resilient Network Games Considering Connectivity」 Yunzhuo Wang, The University of Tokyo 「Preconditioned Distributed Trajectory Optimization Algorithm using Differential Dynamic Programming」</p>	Web開催	賞状	賞金
教育・認定委員会				
12月23日	CPDポイント表彰 受賞者: 山本 透氏(広島大学), 石井 抱氏(広島大学), 伊藤 章雄氏(横河電機株)	郵送のみ	表彰状	無
計測部門				
9月4日	第36回センシングフォーラム研究奨励賞 益山健太郎(山梨大学)・力覚提示技術を用いたノミ打撃・切削動作の人工現実感の創出 松井隼平(群馬大学)・励磁コイル加振による鉄筋振動変位計測を用いたコンクリート劣化診断への応用 千葉昭宏(東京大学)・磁束密度のフーリエ係数を	Web開催	賞状	メダル

	用いた回転磁気マーカの三次元位置推定 朱俊方 (産業技術総合研究所)・小容量実荷重式 力標準機の釣合い機構の支点感度			
9月4日	萌芽セッション優秀賞 藤井美結 (慶應義塾大学)・IMU を組み込んだス リッパ型デバイスによる個人識別手法の検討	Web 開催	賞状	図書 カード
9月4日	計測部門論文賞 中島利郎, 本藤利幸, 竹花一輝, 牧はるな (長野工 業高等専門学校), 的場修 (神戸大学)・近赤外光の 吸光特性を利用した水の相状態 (液相, 固相) の2 次元分布定量検出法 三輪空司, 鈴木智洋 (群馬大学)・六自由度バケッ ト位置姿勢推定法による地中建機用バケット一体 型地中レーダシステム	Web 開催	賞状	無
12月18日	パターン計測部会 優秀論文賞 稲井喜基, 栗原徹 (高知工科大学)・熱画像とカラ ー画像の位置合わせに関する基礎的検討	Web 開催	賞状	盾
制御部門				
3月4日 (中止・送 付)	制御部門・木村賞1件 氏名: 永原正章 (北九州市立大学) 受賞論文: Maximum Hands-Off Control: A Paradigm of Control Effort Minimization IEEE Transactions on Automatic Control Vol. 61, No. 3, pp. 735-747 (2016)	徳島大学	表彰 状 盾	賞金 (10 万円)
3月4日 (中止・送 付)	制御部門・パイオニア賞1件 氏名: 井上正樹 (慶應義塾大学) 受賞理由: 人の意思決定を含むシステムに対する制御理 論の開拓と展開	徳島大学	表彰 状 盾	無
3月4日 (中止・送 付)	制御部門・制御部門大会賞 2件 氏名: 井上 正樹, 吉村 翔 (慶應義塾大学) 発表題目: 都市インフラシステムにおける人間集団の "弱い"制御 (第6回制御部門マルチシンポジウムで発表) 氏名: 児島晃 (首都大学東京) 発表題目: Bernstein基底を用いたパラメータ依存LMIの 解法-ポリトープ型パラメータを扱う場合- (第6回制御部門マルチシンポジウムで発表)	徳島大学	表彰 状	無
3月4日 (中止・送 付)	制御部門・制御部門大会技術賞 2件 氏名: 洪水雅俊, 山本透 (広島大学), 小岩井 一茂, 山下耕治, 山崎洋一郎 (コベルコ建機) 発表題目: 油圧ショベルのアタッチメント重心速度に基 づく掘削制御系の一設計 (第6回制御部門マルチシンポジウムで発表) 氏名: 吉村僚太 (東京都立産業技術研究センター), 丸 田一郎, 藤本健治 (京都大学), 佐藤研, 小林祐介 (東京都立産業技術研究センター) 発表題目: 強化学習に基づく自律移動機械用地図の最適 化 (第6回制御部門マルチシンポジウムで発表)	徳島大学	表彰 状	無
3月4日 (中止・送 付)	制御部門研究奨励賞 5件 氏名: 濱田聖司 (京都大学) 氏名: 加藤光樹 (京都大学) 氏名: 吉岡弘人 (東京工業大学) 氏名: 伊東倫明 (早稲田大学) 氏名: 山下駿野 (東京工業大学)	徳島大学	表彰 状	無

	(第6回制御部門マルチシンポジウムで発表)			
3月4日 (中止・送付)	制御部門技術奨励賞4件 氏名：洪水雅俊（広島大学） 氏名：旭輝彦（宇都宮大学） 氏名：虎谷大地（海上・港湾・航空技術研究所） 氏名：大川佳寛（富士通研究所） (第6回制御部門マルチシンポジウムで発表)	徳島大学	表彰状	無
システム・情報部門				
11月17日	【部門論文賞・1件】 後藤裕介（岩手県立大学），森田裕之（大阪府立大学），白井康之（大東文化大学） “ヒューマンサービスにおけるサービス提供者の異動影響分析—組織サイバネティクスと計算組織理論に基づいたシミュレーション方法論の提案—”	Web 開催	表彰状	
11月17日	【部門技術賞・1件】 Hidetaka TANIGUCHI, Hiroshi SATO, Tomohiro SHIRAKAWA (National Defense Academy of Japan) “Implementation of Human Cognitive Bias on Neural Network and Its Application to Breast Cancer Diagnosis”	Web 開催	表彰状	
11月17日	【部門貢献賞・3件】 半田久志（近畿大学） 残間忠直（千葉大学） 礪川悌次郎（兵庫県立大学）	Web 開催	表彰状	
11月17日	【SSI 最優秀論文賞・1件】 ブイ・ドク・ヴェト（防衛大学校），白川智弘（防衛大学校），佐藤浩（防衛大学校） 「マルチタスク学習に基づく UAV による未知環境探索法の開発」	Web 開催	表彰状	
11月17日	【SSI 優秀論文賞・4件】 福本 有季子（電気通信大学），速水 陽平（電気通信大学），前川 佳幹（電気通信大学），高玉 圭樹（電気通信大学） 「個別探索から生成された行動系列の優先付けに基づくマルチエージェント逆強化学習」 武田 匡生（京都大学），堀口 由貴男（関西大学），池之上 辰義（京都大学），山田 ゆかり（京都大学），福岡 真悟（京都大学），榎木 哲夫（京都大学），中西 弘明（京都大学） 「特定保健指導記録から健康状態の典型を抽出するための多形式トピックモデル」 高橋 空悟（早稲田大学），山根 昇平（(株)富士通研究所），山田 広明（(株)富士通研究所），大堀 耕太郎（(株)富士通研究所），高橋 真吾（早稲田大学） 「マイクロダイナミクス分析技法を用いた実データに基づく回遊シミュレーション構築」 堀池 巧（東北大学大学院医工学研究科），市地 慶（東北大学大学院医学系研究科），本間 経康（東北大学大学院医学系研究科），張 曉勇（仙台高等専門学校），吉澤 誠（東北大学サイバーサイエンスセン	Web 開催	表彰状	

	ター) 「肺がん放射線治療のための目標範囲提示型呼吸誘導システムによる呼吸動態再現性向上の試み」			
11月17日	<p>【SSI 研究奨励賞・5件】</p> <p>受賞者：酒井 俊（防衛大学校） 受賞対象発表論文：酒井 俊，白川 智弘（防衛大学校），戸村 哲，齋藤 大蔵（防衛医科大学校），佐藤 浩（防衛大学校）「日本頭部外傷データベースに対するアンサンブル学習の評価」</p> <p>受賞者：皆本 啓太（近畿大学） 受賞対象発表論文：皆本 啓太，半田 久志（近畿大学）「見守りシステムのためのクラスラベルを用いたGANによる教師なし異常検知手法の提案」</p> <p>受賞者：熊谷 涼（電気通信大学） 受賞対象発表論文：熊谷 涼，高木 智章，高玉 圭樹，佐藤 寛之（電気通信大学）「MarioGAN と進化計算による多様なステージ生成に関する検討」</p> <p>受賞者：ブイ・ドク・ヴェト（防衛大学校） 受賞対象発表論文：ブイ・ドク・ヴェト，白川 智弘，佐藤 浩（防衛大学校）「マルチタスク学習に基づく UAV による未知環境探索法の開発」</p> <p>受賞者：長濱 章仁（立命館大学） 受賞対象発表論文：長濱 章仁，和田 隆広（立命館大学），柳澤 大地，西成 活裕（東京大学）「特定車種の群れに関する統計的研究」</p>	Web 開催	表彰状	
システムインテグレーション部門				
1月14日	SII 2020 Best Paper Award 1件	Hawaii Convention Center	表彰状	
1月14日	SII 2020 Best Student Paper Award 1件	Hawaii Convention Center	表彰状	
1月14日	<p>SIYA-SII 2020 4件</p> <p>Youki Wakabayashi, “Design of a Guide Pulley Achieving Identical Wire Path Length for a Double Joint Mechanism”</p> <p>Shintaro Nakazawa, “Announcement Capture System in Real Environments Using Recurrent Neural Network”</p> <p>Shoichiro Koizumi, “Soft Robotic Gloves with Thin McKibben Muscles for Hand Assist and Rehabilitation”</p> <p>Akira Uehara, “Lateral Swing Support System for Parkinsonism Patients with Freezing of Gait”</p>	Hawaii Convention Center	表彰状	10万円
11月7日	<p>SIYA-IROS 2020 3件</p> <p>Shinsuke Nakashima, “An Approach of Facilitated Investigation of Active Self-healing Tension Transmission System Oriented for Legged Robots”</p> <p>Hiroyuki Nabaе, “Soft Polymer-Electrolyte-Fuel-Cell Tube Realizing Air-Hose-Free Thin McKibben Muscles”</p> <p>Yunduan Cui, Reinforcement Learning Boat Autopilot: A Sample-efficient and Model</p>	Web 開催	表彰状	10万円

	Predictive Control based Approach”			
12月17日	計測自動制御学会 RT ミドルウェア賞 吉野大志, 渡部有隆, 矢口勇一, 中村啓太, 成瀬継太郎, 「OpenRTM-aist 用 MQTT 通信モジュール群と Mosquitto MQTT broker の組み合わせによる IoT システムの構築方法」	Web 開催	表彰状	10万円
12月17日	計測自動制御学会 RT システムインテグレーション賞 新田怜香, 大塚菜々, 加藤宏一朗, 田島仁奈, 松日楽信人 (芝浦工業大学), 橋本忠巳 (ダイコク電機) 「ヒューマノイドロボットを使った遠隔体操教示システムの開発」	Web 開催	表彰状	3万円
12月17日	部門研究奨励賞 2件 手嶋優風 (同志社大学), 晩田泰斗 (同志社大学), 三部有里奈 (同志社大学), 飛龍志津子 (同志社大学) 「コウモリの認識空間の可視化による, センシング戦略の検討」(SI2019 で発表) 吉田道拓 (北海道大学), 田中孝之 (北海道大学), 金子勇斗 (北海道大学), 土谷圭央 (苫小牧高専), 神島保 (北海道大学) 「X 線画像解析に基づく腰部締付力による人体腰部の関節剛性変化のモデル化」(第 25 回ロボティクスシンポジウムで発表)	Web 開催	表彰状	
12月17日	部門若手奨励賞 5件 萩原 大輝 (中央大学) 「蠕動運動型搬送装置のための直接加水方式による効率的な搬送」(SI2019) 船藏 優弥 (東北学院大学) 「MR 流体とデルタ機構を用いた生体軟組織圧排感覚提示」(SI2019) 笠井 宥佑 (名古屋大学) 「輸送渦の時空間的生成を用いたオンチップソーティング」(SI2019) 嵩 裕一郎 (ヤンマーホールディングス株式会社) 「自動航行のための海図生成技術 SEAMRESS の提案」(第 25 回ロボティクスシンポジウム) 矢木 啓介 (茨城大学) 「弾性体の飛び移り座屈機構を利用した人関節インピーダンスのカセンサレス推定」(第 25 回ロボティクスシンポジウム)	Web 開催	表彰状	
12月17日	部門学術業績賞 1件 川村貞夫 (立命館大学) 「ロボットのシステムインテグレーションのための理論と機構の開発と実用」	Web 開催	表彰状	
12月17日	部門技術業績賞 1件 久保田孝 (宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所) 「超小型探査ロボットシステム「ミネルバ2」の開	Web 開催	表彰状	

	発と小惑星移動探査の実現」			
12月17日	部門功績賞1件 新井史人(東京大学) 「マイクロ・ナノメカトロニクスを基盤とする先端的研究及びSI部門長としての貢献」	Web開催	表彰状	
12月17日	部門貢献表彰6件 高橋 悟(香川大学)「SI2019 実行委員長として貢献」 松野 隆幸(岡山大学)「SI2019 プログラム委員長 國井 康晴(中央大学)「SII2020 実行委員長として貢献」 Song K. Choi (University of Hawaii)「SII2020 実行委員長として貢献」 大原 賢一(名城大学)「SII2020 プログラム委員長として貢献」 鈴木 昭二(公立ほこだて未来大学)「第25回ロボティクスシンポジウム実行委員長として貢献」 前 泰志(関西大学)「第25回ロボティクスシンポジウムプログラム委員長として貢献」	Web開催	表彰状	
産業応用部門				
11月5日	産業応用部門 功績賞 1件 氏名: 小山 紀 (明治大学) 産業応用部門 奨励賞 1件 氏名: 峰村 今朝明 (住友重機械工業) 産業応用部門 流体計測制御シンポ ベストプレゼンテーション賞1件 氏名: 林 滉之 (東京医科歯科大学)	産業応用部門大会 Web開催	表彰状	2万円 2万円 1万円
東北支部				
3月16日	SICE 東北支部 第328回研究会優秀発表奨励賞 宇野健太郎「フリークライミングロボットのための不整地登攀実験環境の設計と開発」	Web開催	賞状	図書カード 5千円
10月30日	SICE 東北支部 第329回研究会優秀発表奨励賞 今佑太郎「Feature Fusion に基づく深層学習を用いた乳房 X 線画像上の小病変検出」	山形大学	賞状	図書カード 5千円
12月2日	SICE 東北支部 第330回研究会優秀発表奨励賞 石井玲真「深層学習に基づく転移学習を用いた胃 X 線画像におけるピロリ感染の鑑別に関する研究」	Web開催	賞状	図書カード 5千円
中部支部				
1月25日	第50期 中部支部 支部賞3件 ・技術賞(1件): 大嶽 宏之(三菱重工サーマルシステムズ株式会社), 渡辺 貴政(三菱重工サーマルシステムズ株式会社), 相場 謙一(三菱重工業株式会社), 角谷 敦之(三菱重工業株式会社), 早川 哲矢(三菱重工サーマルシステムズ株式会社) 「空調機用アクティブフィルタの電流予測制御の開発」 ・奨励賞(2件) 池田貴公(岐阜大学) 「打音および画像による橋梁点検を可能とするマ	名古屋工業大学	賞状	図書カード 二万円分

	ニピューレータ搭載無人航空機に関する研究 森田亮介(岐阜大学) 「ネットワークシステムにおける雑音の解析と制御への有効利用」			
3月(所属機関によって異なる)	第51期 中部支部 支部賞 学業優秀賞 17件	表彰者 所属機関にて表彰	賞状	図書カード 五千円分
3月(所属機関によって異なる)	第51期 中部支部 支部賞 学業優秀賞 17件	表彰者 所属機関にて表彰	賞状	図書カード 五千円分
10月16日	第168回教育工学研究会 ・学生優秀発表賞 森 大河(岐阜工業高等専門学校)	Web開催	賞状	図書カード3千円
11月19日	中部支部シンポジウム&若手研究発表会2020 ・優秀発表賞4件 1. 高田崇天, 河野託也(岐阜高専) 2. 佐々木航平, 新井俊希, 飯塚浩二郎(芝浦工業大学), 小西雄介(パーソルR&D(株)) 3. 渡邊智洋, 飯塚浩二郎(芝浦工業大学) 4. 北村悠人, 高山潤也(信州大学)	Web開催	賞状	図書カード5千円
北陸支部				
3月1日	北陸支部優秀学生賞(11件) 荒木雄太郎(金沢工業大学), 池上駿介(富山大学), 石倉優資(富山高等専門学校), 後藤航輝(福井工業大学), 武達也(金沢大学), 野尻晴太(金沢大学), 長谷川隆成(富山県立大学), 藤江謙伸(石川工業高等専門学校), 真柄尚弥(福井工業高等学校), 町田祐太(金沢工業大学), 松崎仁平(富山県立大学)	各所属機関にて表彰	賞状	図書カード5千円
9月13日	2020年計測自動制御学会北陸支部優秀論文発表賞(1件) 中山友瑛(福井大学):「外見的類似性は身体所有感の成立に必要か?」	福井大学	賞状	図書カード5千円
9月23日~26日	2020年計測自動制御学会北陸支部 SICE Annual Conference 若手奨励賞(2件) 高田大輔(富山県立大学):「Force control for a force display using a pneumatic actuator and improvement of the actuator」 盛田 修(富山県立大学):「Estimation of Relative Positions and Velocities in Distributed Cooperative Path Design of Multi-Agent Systems」	各所属機関にて表彰	賞状	現金2万円
関西支部				
1月10日(授賞式)	SICE 関西支部 2019年度支部長賞 特別賞(1名): 大須賀公一(大阪大学)「支部運営における活性化・効率化に向けた多大な貢献等」 奨励賞(2名): 橋本和宗(大阪大学)「Energy-aware networked	大阪府立大学	賞状	5万円(特別賞)と各2万

	control systems under temporal logic specifications] Deng Haoyang(京都大学)「並列計算を活用した非線形モデル予測制御の高速アルゴリズム」			円 (奨励賞)
中国支部				
1月24日	<p>第28回 中国支部学術講演会講演者表彰 優秀賞(3名): 小岩井 一茂 (コベルコ建機株式会社) 「油圧ショベルのデータベース駆動型技量評価システムの構築」 福田 有輝也 (宇部工業高等専門学校) 「顕著性マップを考慮した二分木に基づく色量子化法」 森山 大樹 (山口大学) 「色相と彩度の保存を考慮した局所色補正に基づく多重露光画像の融合法」 奨励賞(7名): 石橋 佳奈 (山口大学) 「細隙灯顕微鏡検査動画において硝子体混濁度評価のための評価領域の自動抽出」 佐倉 康 (山口大学) 「プレフィルタを適用した制御系の応答予測」 櫻井 麻稀 (岡山県立大学) 「駆動角度・角速度を用いた Acrobot の非線形振り下げ制御」 白井 雄一郎 (島根大学) 「舵角と舵速度の制限を考慮した船舶の変針制御」 高橋 瑛介 (宇部工業高等専門学校) 「花火アルゴリズムにおけるスパーク生成を取り入れた遺伝的アルゴリズムに関する研究」 松崎 久志 (岡山大学) 「無線通信を伴うマルチエージェント系に対する送信電力の削減と合意成功率の改善」 松本 洸太 (近畿大学) 「深層学習を用いた部屋の入室動作信号による個人識別技術」</p>	岡山大学	表彰状	優秀賞 (1万円) 奨励賞 (5千円)
九州支部				
1月26日	令和元年度 SICE 九州支部 支部奨励賞 2名 (坂本奨馬, 住友宣仁)	郵送	表彰状・盾	有 (1名につき ギフトカード 3万円)
11月28日	第39回計測自動制御学会九州支部学術講演会 学生発表交流会 最優秀賞1名 (永江快成), 優秀賞2名 (中川裕貴, 青野将大)	郵送	表彰状	有 (最優秀賞: 図書カード5)

				千円, 優秀賞: 図書カード3千円)
--	--	--	--	--------------------

6. その他本会の目的を達成するための事業

実施月日	行事・事業・会議（・委員会）などの名称	開催場所	発表件数	参加者数
計測部門				
3月9日 ～10日	動的画像処理実利用化ワークショップ2020（パターン計測部会協賛）【予稿集のみ配布】	沖縄高専	97	中止
6月11日 ～12日	第113回部会行事: 第37回有機微量分析合同シンポジウム（力学量計測部会共催）【要旨集のみ発行】	島根大学	32	中止
8月2日 ～3日	第23回 画像の認識・理解シンポジウム MIRU 2020（パターン計測部会協賛）	Web開催	271	127 7
10月16日	第114回部会行事: 計量史をさぐる会2020（力学量計測部会共催）	計量会館	4	約 10
12月3日 ～4日	ビジョン技術の実利用ワークショップ2020（パターン計測部会協賛）	ハイブリッド （Web開催・横浜）	106	607
システム・情報部門				
7月11日	社会・経済システム学会研究会（共催）	Web開催	3	44
9月30日	BIOMOD JAPAN OPEN 2020（共催）	Web開催	5	73
産業応用部門				
2月14日	制御システムセキュリティカンファレンス 2020（後援）	浅草橋ヒューリック ホール	7	307
東北支部				
11月28日	計測自動制御学会 システム・情報部門 コンピュータショナル・インテリジェンス フォーラム2020（協賛）	Web開催	3	162
中部支部				
1月10日	公益社団法人 日本設計工学会 東海支部 令和元年度設計フォーラム「動特性を考慮した解析と設計の最前線」（協賛）	名城大学	3	16
1月29日	豊橋技術科学大学博士課程教育リーディングプログラム・計測自動制御学会中部支部 共催 特別講演会（共催）	豊橋技術科学大学	1	21
9月7日	電気学会東海支部 環境対応型次世代パワーエレクトロニクス技術 若手セミナー（協賛）	Web開催	1	77
10月27日	電気学会東海支部 環境対応型次世代パワーエレクトロニクス技術 若手セミナー（協賛）	Web開催	1	71
12月4日	日本機械学会東海支部 第145回講習会: 基礎科目に立脚し最新の工学技術を学ぶ講習会「データサイエンスで拓く流体力学」（協賛）	Web開催	3	66
12月10日 ～17日	化学工学会東海支部 第54回 化学工学の進歩講習会「最新情報技術活用によるプロセス産業スマート化 -AI,IoT,MI の基礎から最前線まで（実践編）-」（共催）	Web開催	10 コマ	73
北陸支部				

8月1日	計測自動制御学会北陸支部 SICE Annual Conference 学生発表助成 (3件) 内田大智(金沢大学), 高田大輔(富山県立大学), 盛田修(富山県立大学)	各所属機関にて 助成通知		1万円
中国支部				
2月5日	電子情報通信学会中国支部講演会(共催) 「情報処理技術を活用したスマート農業への取り組み」	島根大学	1	60
7月21日 ~31日	電子情報通信学会中国支部学生会主催(計測自動制御学会中国支部後援) フレッシュ IT あわ〜ど 2020	Web 開催	58	
11月28日 ~29日	第22回 IEEE 広島支部シンポジウム(計測自動制御学会中国支部後援)	Web 開催	83	194
12月9日	日本機械学会中国四国支部主催(計測自動制御学会中国支部協賛)日本機械学会中国四国支部 技術フォーラム 2020 ものづくり産業のためのロボット技術〜これから先, 何が可能で何が必要か〜	Web 開催	4	60

7. その他、運営委員会など

実施時期	行事・事業・会議(・委員会)など名称	開催場所	議題数	参加人数
2月7日	第7回総務委員会	SICE 事務所	16	9
2月25日	理事会ランスルー			
3月24日	第1回 総務委員会	Web 開催	13	12
4月2日	臨時総務委員会(AC 開催方針等)	Web 開催	4	8
4月20日	臨時総務委員会 (理事会運営改善、コロナ対応、英文誌外注等)	Web 開催	7	9
4月24日	第2回 総務委員会	Web 開催	6	9
6月3日	臨時総務委員会(理事会運営改善)	Web 開催	1	9
6月11日	第3回 総務委員会	Web 開催	12	9
7月29日	臨時総務委員会	Web 開催	8	9
8月6日	臨時総務委員会	Web 開催	4	7
8月19日	臨時総務委員会	Web 開催	10	9
8月27日	臨時総務委員会	Web 開催	15	8
9月4日	臨時総務委員会	Web 開催	9	8
9月9日	臨時総務委員会	Web 開催	11	10
9月16日	臨時総務委員会	Web 開催	8	11
9月24日	臨時総務委員会	Web 開催	9	9
9月28日	第4回 総務委員会	Web 開催	7	8
10月19日	臨時総務委員会	Web 開催	11	8
10月26日	臨時総務委員会	Web 開催	11	9
11月6日	臨時総務委員会	Web 開催	11	9
11月13日	臨時総務委員会	Web 開催	8	9
11月16日	臨時総務委員会	Web 開催	8	9
12月4日	臨時総務委員会	Web 開催	9	11
12月14日	臨時総務委員会	Web 開催	7	8
12月18日	臨時総務委員会	Web 開催	5	8
12月21日	臨時総務委員会	Web 開催	2	9
財務委員会				
6月1~3日	インセンティブルール部門ヒアリング	Web 開催	—	20

6月5日	第1回 財務委員会	Web 開催	10	12
8月24 ~ 26, 31日	インセンティブルール案への部門・支部ヒアリング	Web 開催	—	21
9月9日	第2回 財務委員会	Web 開催	6	12
企画委員会				
1月10日	企画委員会	SICE 事務所	11	8
9月9,10日	拡大理事 WS 分散開催説明会	Web 開催	1	22
10月2日	拡大理事 WS (産業応用, LE, 国際, 標準化)	Web 開催	1	14
10月6日	拡大理事 WS (計測, 制御)	Web 開催	1	14
10月9日	拡大理事 WS (北海道, 北陸, 関西, 中国)	Web 開催	1	14
10月13日	拡大理事 WS (会誌, 論文集, 学会賞, 事業会員サピス)	Web 開催	1	15
10月20日	拡大理事 WS (東北, 中部, 四国, 九州)	Web 開催	1	15
10月22日	拡大理事 WS (シス情, SI)	Web 開催	1	13
10月23日	拡大理事 WS (AC, 国際, 学会賞, 教育認定, 外部)	Web 開催	1	13
11月13日	拡大理事 WS クイックレビュー	Web 開催	1	30
12月7日	総務・企画合同委員会	Web 開催	1	10
学会賞委員会				
4月6日	第1回学会賞委員会	Web 会議	8	19
5月25日	2020年 FA 財団論文賞選考委員会	Web 会議	—	—
8月5日	2020年度功績賞選考委員会	Web 会議	6	19
8月5日	2020年度フェロー選考委員会	Web 会議	5	10
8月6日	第2回学会賞委員会	Web 会議	6	19
9月26日	SICE 2020 Annual Conference Award 選考委員会	Web 会議	—	—
11月30日	第3回学会賞委員会	Web 会議	8	18
1月21日	第4回学会賞委員会	Web 会議	7	17
会誌出版委員会				
1月22日	第6回 会誌出版委員会 (2019年度)	SICE 事務局	10	18
3月10日	第1回 会誌出版委員会	SICE 事務局 +Web 開催	13	26
5月28日	第2回 会誌出版委員会	Web 開催	8	23
7月30日	第3回 会誌出版委員会	Web 開催	7	28
8月28日・ 31日	2020年度特別会誌出版委員会	Web 開催	4	28
9月17日	第4回 会誌出版委員会	Web 開催	6	25
11月30日	第5回 会誌出版委員会	Web 開催	6	19
論文集委員会				
2月4日	第3回論文集委員会 (2019年度)	SICE 事務局	5	15
4月3日	第1回論文集委員会	Web 開催	3	17
9月15日	第2回論文集委員会	Web 開催	4	15
9月15日	第1回 (和) 論文集編集委員会	Web 開催	3	28
9月15日	第1回 (英) 論文集編集委員会	Web 開催	4	18
AC委員会				
3月30日	第1回 AC 委員会	Web 開催	8	12
4月20日	臨時国際・AC 合同委員会	Web 開催	3	21
7月30日	第2回 AC 委員会	Web 開催	8	13
11月4日	第3回 AC 委員会	Web 開催	7	13
国際委員会				
3月25日	第1回 国際委員会	SICE 会議室	11	11
4月20日	臨時国際・AC 合同委員会	Web 開催	3	21
8月24日	第2回 国際委員会	Web 開催	10	10
10月26日	第3回 国際委員会	Web 開催	11	9

国際標準化委員会				
1月14日	第5回 国際標準化委員会 (2019年度)	SICE 会議室	10	11
6月15日	第1回 国際標準化委員会	Web 開催	7	14
10月19日	第2回 国際標準化委員会	Web 開催	4	12
12月7日	第3回 国際標準化委員会	Web 開催	4	14
事業会員サービス委員会				
4月13日	第1回事業会員サービス委員会	Web 開催	12	16
6月11日	第2回事業会員サービス委員会	Web 開催	12	19
9月10日	第3回事業会員サービス委員会	Web 開催	12	15
12月10日	第4回事業会員サービス委員会	Web 開催	12	14
教育・認定委員会				
4月3日	第1回人材育成塾・プロセス新塾拡大WG	Web 開催	—	8
4月17日	第2回人材育成塾・プロセス新塾拡大WG	Web 開催	—	11
4月24日	第3回人材育成塾・プロセス新塾拡大WG	Web 開催	—	17
4月28日	第4回人材育成塾・プロセス新塾拡大WG	Web 開催	—	16
5月29日	第5回人材育成塾・プロセス新塾拡大WG	Web 開催	—	15
6月5日	第6回人材育成塾・プロセス新塾拡大WG	Web 開催	—	14
6月19日	第7回人材育成塾・プロセス新塾拡大WG	Web 開催	—	15
6月26日	第8回人材育成塾・プロセス新塾拡大WG	Web 開催	—	11
8月18日	第9回人材育成塾・プロセス新塾拡大WG	Web 開催	—	17
9月4日	第9回人材育成塾・プロセス新塾拡大WG	Web 開催	—	15
9月16日	第9回人材育成塾・プロセス新塾拡大WG	Web 開催	—	18
10月28日	第9回人材育成塾・プロセス新塾拡大WG	Web 開催	—	10
部門協議会				
1月10日	第7回 部門協議会 (2019年度)	SICE 事務局	5	10
2月5日 ~2月14日	第8回&第1回 部門協議会	メール会議	6	14
4月9日	第2回 部門協議会	Web 開催	5	18
5月19日	2020年度 部門・支部合同会議	Web 開催	5	30
6月12日	第3回 部門協議会	Web 開催	5	14
8月21日	第4回 部門協議会	Web 開催	5	16
12月18日	第5回 部門協議会	Web 開催	5	13
計測部門				
2月18日	第1回センシングフォーラム運営委員会	SICE 事務局	5	11
2月18日	第1回計測部門運営委員会	SICE 事務局	9	7
3月13日	第1回リモートセンシング部会運営委員会	メール審議	1	-
6月23日	第109回力学量計測部会運営委員会	メール審議	7	-
6月30日	第2回センシングフォーラム運営委員会	Web 開催	4	16
6月30日	第2回計測部門運営委員会	Web 開催	8	8
9月4日	第3回センシングフォーラム運営委員会	Web 開催	5	15
9月4日	第3回計測部門運営委員会	Web 開催	9	7
12月7日	スマートセンシング部会委員会	Web 開催	4	8
12月15日	第110回力学量計測部会運営委員会	Web 開催	7	約30
12月18日	パターン計測部会 運営委員会	Web 開催	7	7
制御部門				
3月4日	第1回制御部門学術委員会	徳島大学		中止
4月10日	第1回制御部門運営委員会	オンライン開催		30
不定期	制御部門 HP (お知らせ) の更新	制御部門 HP		
不定期	制御部門 HP (行事予定) の更新	制御部門 HP		
不定期	メーリングリストの更新	制御部門 HP		

4月16日	制御部門 HP, 参考情報集の公開	制御部門 HP		
4月28日	第1回事業委員会	Web 開催		10
5月1日	第1回 MSCS2021 実行委員会	Web 開催		19
6月1日	第2回事業委員会	Web 開催		11
7月1日	第2回 MSCS2021 実行委員会	Web 開催		18
8月4日	第3回事業委員会	Web 開催		10
8月31日	第3回 MSCS2021 実行委員会	Web 開催		19
10月2日	第2回制御部門運営委員会	Web 開催		31
10月7日	第4回 MSCS2021 実行委員会	Web 開催		19
11月25日	第4回事業委員会	Web 開催		6
12月4日	第4回制御部門運営委員会	Web 開催		28
システム・情報部門				
1月25日	第1回 スマートワールド実現のための新たなシステムズアプローチの実展開を目指す調査研究会運営委員会	同志社大学	1	13
1月25日	第1回 自律分散システム部会運営委員会	芝浦工業大学	5	25
3月9日-16日	第1回 システム工学部会運営委員会	Web 開催	5	52
3月16日	第1回 社会システム部会運営委員会	ホテルミヤヒラ	5	15
4月20日	第2回 自律分散システム部会運営委員会	Web 開催	6	18
4月23日	第2回 システム・情報部門運営委員会	Web 開催	11	14
6月13日	第2回 スマートワールド実現のための新たなシステムズアプローチの実展開を目指す調査研究会運営委員会	Web 開催	1	15
6月15日	第3回 自律分散システム部会運営委員会	Web 開催	7	17
6月18日	第2回 システム・情報部門運営委員会	Web 開催	7	12
6月20日	第1回 コンピュータেশヨナル・インテリジェンス部会運営委員会	Web 開催	9	21
8月1日	第3回 スマートワールド実現のための新たなシステムズアプローチの実展開を目指す調査研究会運営委員会	Web 開催	1	15
8月31日	第4回 自律分散システム部会運営委員会	Web 開催	6	16
9月12日	第1回 境界と関係性を視座とシステムズアプローチ調査研究会運営委員会	Web 開催	2	5
10月17日	第4回 スマートワールド実現のための新たなシステムズアプローチの実展開を目指す調査研究会運営委員会	Web 開催	1	17
11月14日	第5回 自律分散システム部会運営委員会	Web 開催	8	14
11月15日	第2回 コンピュータেশヨナル・インテリジェンス部会運営委員会	Web 開催	6	14
11月18日 ~25日	第2回 システム工学部会運営委員会	メール審議	6	52
システムインテグレーション部門				
1月7日	2020年度第1回新旧合同計測自動制御学会 SI 部門運営委員会	首都大学東京秋葉原 サテライト キャンパス	11	24
1月27日	第2回 計測自動制御学会 SI 部門運営委員会	メール審議	19	—
2月21日	福祉工学部会上期部会運営委員会	帝人株式会社内会議	—	5
3月16日	第3回 計測自動制御学会 SI 部門運営委員会	メール審議	7	—
5月22日	第4回 計測自動制御学会 SI 部門運営委員会 (臨時)	メール審議	1	—

5月28日	第4回 計測自動制御学会 SI 部門運営委員会	Web 開催	15	45
7月19日	第5回 計測自動制御学会 SI 部門運営委員会 (臨時)	メール開催	1	—
8月3日	第5回 計測自動制御学会 SI 部門運営委員会	メール開催	3	—
9月4日	第6回 計測自動制御学会 SI 部門運営委員会	Web 開催	22	43
10月9日	第7回 計測自動制御学会 SI 部門運営委員会 (臨時)	メール開催	1	—
10月19日	第7回 計測自動制御学会 SI 部門運営委員会	メール開催	5	—
11月24日	第8回 計測自動制御学会 SI 部門運営委員会	メール開催	4	—
11月26日	福祉工学会 2020 年度第2回運営委員会	Web 開催	6	6
12月17日	第9回 計測自動制御学会 SI 部門運営委員会	Web 開催	15	40
12月17日	ユニバーサルデザイン応用システム部会運営委員会	Web 開催	6	6
産業応用部門				
1月8日	計装技術交流部会 第1回運営委員会	SICE 会議室	3	6
1月22日	第1回 産業ネットワーク・システム部会	Web 開催	6	13
2月12日	第1回産業応用部門 運営委員会	SICE 会議室	5	5
2月13日	計装技術交流部会 第2回運営委員会	SICE 会議室	3	7
4月6日	第2回産業応用部門 運営委員会	Web 開催	6	5
4月7日	第2回 産業ネットワーク・システム部会	Web 開催	6	24
4月21日	計装技術交流部会 第3回運営委員会	Web 開催	4	7
5月11日	計装技術交流部会 セミナー企画検討会	Web 開催	1	7
6月4日	第3回産業応用部門 運営委員会	Web 開催	8	6
6月15日	計装技術交流部会 第4回運営委員会	Web 開催	3	8
7月6日	第4回産業応用部門 運営委員会	Web 開催	5	11
7月9日	第3回 産業ネットワーク・システム部会	Web 開催	6	18
7月21日	計装技術交流部会 第5回運営委員会	Web 開催	3	9
8月6日	第5回産業応用部門 運営委員会	Web 開催	3	7
8月25日	計装技術交流部会 第6回運営委員会	Web 開催	3	8
8月27日	第6回産業応用部門 運営委員会	Web 開催	3	10
9月29日	計装技術交流部会 第7回運営委員会	Web 開催	2	8
10月1日	第7回産業応用部門 運営委員会	Web 開催	3	8
10月15日	計装技術交流部会 第8回運営委員会	Web 開催	2	9
10月20日	第4回 産業ネットワーク・システム部会	Web 開催	6	12
10月30日	計装技術交流部会 第9回運営委員会	Web 開催	2	9
11月26日	計装技術交流部会 第10回運営委員会	Web 開催	2	8
12月15日	計装技術交流部会 第10回運営委員会	Web 開催	2	7
12月17日	第5回 産業ネットワーク・システム部会	Web 開催	6	7
12月18日	第8回産業応用部門 運営委員会	Web 開催	7	8
ライフエンジニアリング部門				
5月22日	第1回部門・4部会合同運営委員会	Web 開催	7	20
12月3日	第2回部門・4部会合同運営委員会	Web 開催	8	20
支部協議会				
2月17日	支部協議会準備会	SICE 事務局	6	10
4月13日	第1回 支部協議会	Web 開催	6	19
5月19日	2020 年度 部門・支部合同会議	Web 開催	5	30
7月31日	第2回支部協議会	Web 開催	5	19
10月16日	第3回支部協議会	Web 開催	5	20
北海道支部				
1月27日	支部総会	北海道大学	4	5
1月27日	第1回 北海道支部運営委員会	北海道大学	1	5
6月25日	第2回 北海道支部運営委員会	北海道大学	1	4
東北支部				

1月21日	第1回 東北支部会議	東北大学	7	7
3月6日 ～13日	第1回 東北支部専門委員会	メール審議	3	16
8月5日 ～17日	第2回 東北支部専門委員会	メール審議	4	16
10月14日 ～21日	第3回 東北支部専門委員会	メール審議	3	16
11月20日 ～25日	第4回 東北支部専門委員会	メール審議	2	16
中部支部				
1月25日	第51期 中部支部会議	名古屋工業大学	6	19 (委任 状 96通)
1月25日	第1回 中部支部運営委員会	名古屋工業大学	8	23
4月18日	第2回 中部支部運営委員会 (事業委員のみ)	Web 開催	4	12
7月4日	第3回 中部支部運営委員会	Web 開催	5	21
11月14日	第4回 中部支部運営委員会	Web 開催	5	19
11月14日	定例顧問会議	Web 開催	4	19
北陸支部				
1月17日	第24期 (令和2年) 新旧合同運営委員会	IT ビジネス プラザ武蔵	10	9
1月17日	第24期 (令和2年) 支部会議	IT ビジネス プラザ武蔵	6	15
4月28日	第1回 北陸支部 運営委員会	Web 開催	7	7
7月～8月	第2回 運営委員会	メール審議	—	8
9月13日	第3回 運営委員会	Web 開催	—	8
11月16日 ～23日	第4回 運営委員会	メール審議	—	8
関西支部				
4月13日 ～21日	第1回 関西支部運営委員会	メール審議	審議 1 他 多 数	22
6月15日	第2回 関西支部運営委員会	Web 開催	審議 2 他 多 数	16
9月16日	第3回 関西支部運営委員会	Web 開催	12	18
10月19日	第4回 関西支部運営委員会	Web 開催	14	18
12月18日	第5回 関西支部運営委員会	Web 開催	5	14
12月16日	支部長賞選考委員会	Web 開催	1	10
中国支部				
1月24日	第1回 中国支部 運営委員会	近畿大学	11	17
5月29日	中国支部 拡大運営委員会	Web 開催	6	12
四国支部				
3月23日	第1回 四国支部 運営委員会	高知高専	6	6
12月12日	第2回 四国支部 拡大運営委員会 (新旧合同)	阿南高専	6	6

九州支部				
1月25日	第1回 九州支部 拡大運営委員会 (新旧合同)	リファレンス 駅東ビル	8	15
1月25日	第50期 九州支部 支部会議	リファレンス 駅東ビル	—	15
6月28日	第2回 九州支部 運営委員会	Web 開催	6	9
8月10日	第1回 九州支部 事業委員会	Web 開催	3	10
10月23日	第3回 九州支部 運営委員会	Web 開催	9	9
11月29日	第2回 九州支部 事業委員会	Web 開催	3	10